

# Our Music

わたくしたちの音楽

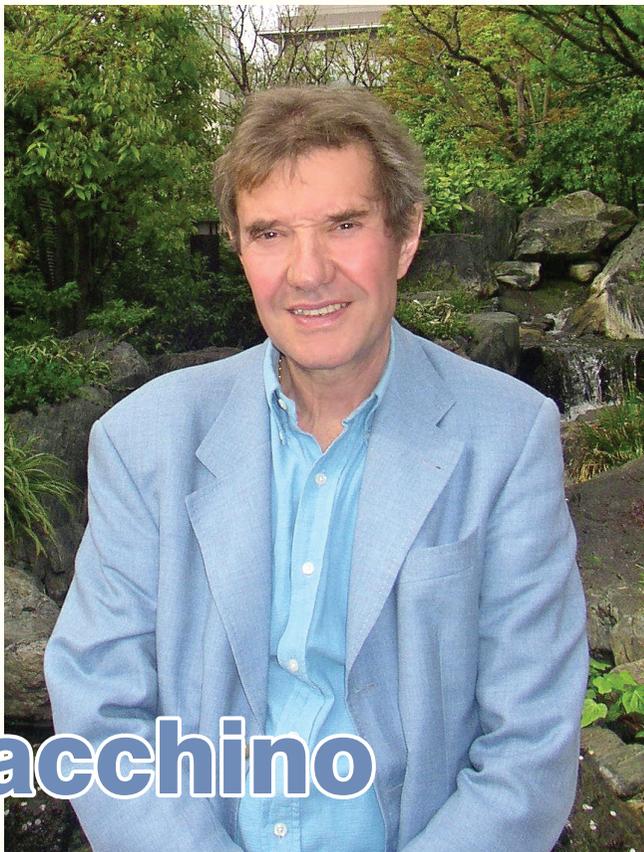
## 266

2007 Summer

社団法人  
全日本ピアノ指導者協会

PTNA

The Piano Teachers' National Association of Japan,  
Incorporated by the Japanese Government



## Gabriel Tacchino

### 特集1

年齢層別に読み解く指導のポイント

## 今求められるグランミューズ指導とは？

相澤聖子先生、秋山徹也先生、大久保伊津美先生、大塚由美先生、金子一朗氏、斎藤美代子先生、戸沢睦子先生、長岡秀美先生、守麗子先生ほか

### 特集2

ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.32

## ピアノを弾くからだ

黒河好子先生

### 巻末特集

中山靖子先生著書出版プレ記念インタビュー Vol.2/ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン  
アナリーゼステップ/エリーザベト王妃国際コンクール

# リプレイ

2007 5月 ~ 2007 7月

ステップにアナリーゼ企画登場!

2007年コンペの夏、開幕

ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.32

来場者は2万4000名!“民族のハーモニー”に熱狂

第45回総会開催、新任役員8名が決定

## ステップにアナリーゼ企画登場!

5月5日(土) 尚美学園バリオホール(文京アナリーゼステーション)



GW中の5月5日(土)、ステップ初の試み、アナリーゼステップが開催された。参加者が曲をアナリーゼ(分析)し、書き込みをした楽譜を事前に添削してもらい、それに基づいた当日の演奏をして

アドバイザーの先生方にコメントをいただけるという画期的な企画だ。難解というイメージがつきまといがちなアナリーゼだが、今回は最年少7歳から11名の参加者が挑戦!実施事務局代表の秋山徹也先生(写真左上)は、今年大好評を得たコンペティション課題曲アナリーゼ楽譜でもアナリーゼをされたお一人でもある。アナリーゼステップの詳細レポートはp. 77を参照。



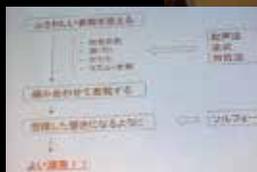
▲舞台上のスクリーンにアナリーゼした楽譜を映して解説



▲友達どうしてアナリーゼの意見交換?



◀アナリーゼステップ参加の皆さん



# 2007年コンペの夏、開幕

## 今年は参加者のべ4万名を超える見込みも

5月27日金沢予選を皮切りに、今年も第31回ピティナ・ピアノコンペティションがはじまった。3ヶ月の間、実に全国287地区で熱い競演が繰り広げられる。7月末から地区本選がはじまり、8月24日～26日までの全国決勝大会、27日の表彰式へと続く。

8月26日、ソロ特級部門全国決勝大会の競演は必見！今年は、ソロと協奏曲のチケットをピティナ会員先行予約を開始した。ピティナホームページより予約受付中！詳細はp. 80参照。



▲市長賞授与、立派なトロフィーです（舞鶴地区）

◀結果発表の掲示板前に集まる参加者たち

# ピティナ・ピアノ指導セミナー vol.32

## 指導者検定全級合格賞状授与式も同日開催！

4月22日（日）東邦音楽大学第一講堂

4月22日、佐藤勝重先生、黒河好子先生、堀江真理子先生をお迎えし、2007年度第1回目のピティナ・ピアノ指導セミナーが行われた。

第1講座は譜面をリアルに歌う事によって譜読みの力を高める佐藤先生の「ソルフェージュ力とは」。デモンストレーションにはお弟子さんの山田璃子さんにご協力頂いた。第2講座の黒河先生、「ピアノを弾く正しい弾き方というものはありません」とそれぞれの身体・筋肉の特徴をどう把握して実際の演奏に取り組んでいくか、どうしても弾けない時のお助け方法など、実演とユーモアも交えての楽しい講座。（本誌特集2 P. 28～31に内容の詳細を掲載）第3講座はペダルをより深く知る事によって音楽の美しさをより深めるために、堀江先生が実演を交えてお話下さった。ペダルの動きを少しでも見やすく、と舞台上のスクリーンに足元を映写。

またこの日は、ピティナ・ピアノ指導者検定の全級合格賞状授与式も同会場で行われた。第2講座の前に、該当者62名の内の来場者17名に金子勝子指導法委員長

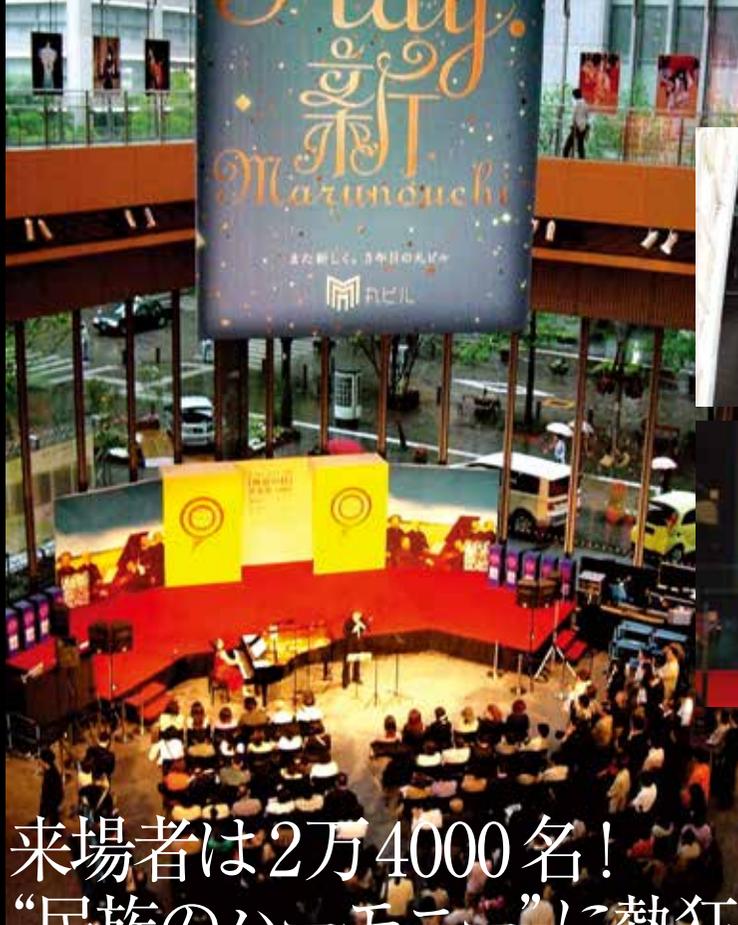
（ピティナ理事）から直接賞状が手渡され、記念撮影が行われた。次回の指導セミナーは9月30日を予定。詳細はP. 35を参照



第一講座：佐藤勝重先生（上）  
第二講座：黒河好子先生（左）  
第三講座：堀江真理子先生（右）



▶ 17名の全級合格賞状授与式



▲中井恒仁先生と武田美和子先生の2台デュオ  
(上)伊賀あゆみさんも司会に(下)

◀マルキューブ  
の特設ステージ



▶立錫の余地も  
ないほどの丸ビ  
ル35階

# 来場者は2万4000名! “民族のハーモニー”に熱狂

5月3日～6日 丸の内周辺エリア

丸の内周辺エリアのビルでゴールデンウィーク中に開催されたラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2007関連エリアイベントミニコンサートは、各会場で大盛況のうち終了。ピティナからも70名以上の演奏者が出場。詳細レポートはp. 76を参照

## 第45回総会開催、新任役員8名が決定

6月13日(水) ピティナ本部事務局内東音ホール



去る6月13日(水)、10時より役員会、運営委員会、14:00より総会がピティナ本部事務局内東音ホール(東京・巣鴨)にて行われた。今回は、新任役員8名が新たに決定。新任副会長に二宮裕子氏、新任理事に大友直人氏、三枝成彰氏、迫昭嘉氏、杉浦日出夫氏、寺脇研氏、新任監事に宝木多加志氏、新任執行役員に戸沢睦子氏が決定した。以上の新任役員よりご挨拶の言葉をいただいている。詳細はp. 62

◀運営委員会の様子



## 出会い

### 漆原好美 先生

ステーション育成委員、当協会評議員

ほっぺたを、ほんのり赤らめて、体いっぱい音楽を感じて、美しい音色で、なんとも楽しげに演奏する姿は、まるで空から舞い降りてきた天使のようでした。それは、平成8年、宮崎での第3回受賞者コンサートで、初めて迎えた特別招待者、桶上梨沙さん(当時小3)の、今でも私の心に鮮明に残っている演奏です。

この「受賞者コンサート」は、コンペティションにチャレンジされた皆さんに、お互いに喜び楽しみ合える場を与えたい——一流の演奏家の立つ最高の舞台で、家族やお友達、そして地域の応援して下さる多くのお客様の前で、その年、その時の精一杯の豆ピアニストとしての演奏体験をして欲しい—可能性溢れる子供達を実行委員一丸となって応援しましょう——と始めたものでした。

その後も毎回、全国大会入賞者にゲストとしておいでいただいています。そんな素晴らしい方々と同じ舞台に立てることも、出演者にとって大変な誇りです。このコンサートに出演してくれた子供達の中には、すでに社会人となり、演奏家や音楽指導者として活躍している人もいます。大人になった今でも、ピアノを楽しむ事を、ライフワークとしている人もたくさんいます。そのような方々が、また再び、コンサートで演奏して下さる日も、近いかもしれません。

さてコンサートの成功には、子供達の頑張りはもちろんですが、ご家族をはじめ、多くの方々の応援がありました。そして、事務局の楽器店の方々、実行委員の先生方の献身的、且つ建設的な協力体制が大きな力となっています。その中には、病をかかえながらも、ピアノ

指導者としての使命感を持ち、いつもと変わらず、感動体験を熱く語ってくださる先生、これまで第93号もの支部会報作成をされてきた先生もいらっしゃいます。常に自分のためだけでなく、皆さんと共に、皆さんのために喜んでいただける事をする。そんな当り前の意識を持った活動が、次の世代へと受け継がれ、時代と共に進化しながら、50年も100年も続いていって欲しいと願っています。

価値感も多様化している昨今、ピアノを習いにくる生徒さんや、その親御さんの目的意識も様々です。私は、この子にはこのペースでよいかしら・・・、この子の感性を引き出すには・・・この曲のとらえ方はこれでよいかしら・・・もっと、こうした方がよいのでは・・・等、たくさん悩みやつまづきを経験しながらの日々です。しかしながら、縁あって出会えたどの生徒さんにも、満足のいく指導や、正しい対応ができるよう、より高い知識と力を身につけなければ、と思います。そのための、あらゆる分野の勉強の場を提供していただけるのが、ピティナという大きな組織だと思います。20年程前、5名の会員での支部発足当時、宮崎に来られた福田靖子先生が、「あなたも、今教えている生徒さん全員を、コンペティションにお出しになってください。そして、お勉強なさってください。」と、一人一人に力強くお話された事も、忘れられません。

福田先生との出会い、前向きな仲間との出会いがあったからこそ、今の宮崎支部が存在していることに、深く感謝を致しております。



# Our Music

## 特集

### 【特集1】 今求められるグランミュージック指導とは？ 年齢層別に読み解く指導のポイント

- 10 プロローグインタビュー 秋山徹也先生×金子一朗さん
- 14 2つの年齢層で異なるグランミュージック指導の実態
- 16 学生・社会人層ケーススタディ / 相澤聖子先生・守麗子先生・長岡秀美先生ほか
- 22 実年齢ケーススタディ / 大塚由美先生・大久保伊津美先生・戸沢睦子先生・斎藤美代子先生
- 26 アンケートより グランミュージック指導の悩みと実践法

### 【特集2】指導セミナーレポート 中級指導のノウハウ

- 28 「ピアノを弾くからだ」 / 黒河好子先生
- 32 ピティナ・ピアノセミナー制度リニューアル / 池川礼子先生インタビュー

### 【巻末レポート】

- 74 中山靖子先生著書出版記念特別インタビュー Vol.2
- 76 ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャパン
- 77 アナリーゼステップ
- 78 エリーザベト王妃国際コンクール

## 連載

- 6 巻頭随筆 / 漆原好美先生
- 36 アドバイザーは手で語る～書くメッセージ・弾くメッセージ / 國谷尊之先生
- 38 今、学校がコンサートホール
- 40 「ミュッセ」で見える楽譜の今
- 42 ポピュラーガイド / 橋本晃一先生・さどはら知子先生
- 44 海外教授インタビュー / アンデルセン先生 (ベルギー EPTA 会長)
- 81 素感直論

## トピックス

- 3 Replay
- 62 ニュース / 本部・新役員の顔ぶれ・支部・会員
- 71 北から南から・献本

## お知らせ

- 8 夏休みトークコンサート祭り
- 35 ピティナ・ピアノ指導セミナー Vol.33
- 45 英国王立音楽大学
- 48 ピティナ・ピアノコンペティション  
結果速報&結果特集号
- 49 ピティナ・ピアノ指導者検定
- 50 ピティナ・ピアノステップ
- 52 ホームページ先生紹介
- 54 全国セミナー情報
- 56 会員・後援演奏会情報
- 65 ピティナ・ピアノコンペティション  
新曲課題曲募集
- 72 ピティナ伴奏者紹介
- 80 ピティナ・ピアノコンペティション特級
- 表3 福田靖子賞選考会

## 広告

- 表2 スタインウェイ・ジャパン株式会社
- 46 国立音楽院
- 47 (株)アコースティックエンジニアリング
- 47 株式会社イトシンミュージック
- 53 ヤマハミュージックトレーディング株式会社
- 60 高橋建設株式会社
- 61 サウンドスタジオノア
- 68 Kraft Acoustic
- 68 株式会社イトマサ
- 70 株式会社 音楽之友社
- 73 株式会社 東音企画
- 表4 ヤマハ株式会社

## Gabriel Tacchino

ガブリエル・タッキーノ先生  
パリ国立高等音楽院名誉  
教授。プーランクに師事、  
古き良き伝統の流れを汲  
む。東京藝術大学外国人  
教師 (客員教授)。

# 今求められる グランミューズ指導 とは？

## 年齢層別に読み解く指導のポイント

一昔前、子供の習い事の代名詞であった「ピアノ」、

そのピアノに興味や余暇、あるいは自己表現のひとつとして取り組む大人が増えてきている。

「学ぶ」意識の高い大人たちの増加に因るものだろう。

当協会でも大人たちの演奏のステージは、「グランミューズ部門」（元アミューズ部門）として、ピティナ・ピアノコンペティション、ピティナ・ピアノステップにも登場し、彼らの演奏は、子供の演奏とはまた違った深い印象を私たちに与えている。

今回は、このグランミューズ層のピアノ指導について考える。大人たちのピアノ指導には、子供の指導とは異なったポイントがあるはずだ。どのような指導が求められ、そのために私たちピアノ指導者たちは何を提供していくことができるだろうか？

また一口にグランミューズと言っても、その年代や専門志向の高さによって、ピアノに取り組む目的は様々である。

今回、事前にアンケート調査を行い、コンペ、ステップともにグランミューズ部門に生徒を参加させている 200 名強の先生方から回答をいただいた。その調査結果の分析とともにいくつかのケースを紹介し、グランミューズ指導について考察したい。

# Interview

秋山徹也先生×金子一郎さん

## “本物”を追求する グランミューズ

2005年ピティナ・ピアノコンペティションソロ特級部門で見事グランプリを受賞された金子一郎さん。金子一郎さんの本業は高校で数学を教える教師。いわばグランミューズの象徴のような存在である金子一郎さんは、現在秋山徹也先生に指導を受けている。金子さんにとって、「レッスンを受ける」ことはどのような意味をもつのか？秋山先生の考えるグランミューズ指導とは？お二人に対談していただいた。

### 自分の作品分析が正しいか、 その確証を得る

—— 秋山先生に習い始めたのはいつ、どのようなきっかけだったのでしょうか？

**金子一郎さん（以下金子）** 1年半前くらいです。秋山先生の教室に通っている友人の紹介です。レッスン内容を聞いて、自分の求めるレッスンをしてくださる先生だと感じ、習い始めました。レッスンの目的は2つです。作品の本質についての自分の分析が理論的にも芸術的にも正しいかどうかの確証を得たいということ。それを音にどの様に反映させるかという部分で、自分の感覚と、客観的に第三者が聴いた際にそれが反映されているか、或いはもっと効果的に反映させる方法は無いか、そういった事を教わりたいということ。それはもう僕のピアノレッスンを受ける



最大の目的なのです。作品を演奏する際には、機械的な練習ではなく、作品としての音楽的な意味を知ることが最も重要であって、その音楽的な表現を確立出来れば、後はついてくると僕は思っています。ですから、そのコアの部分をもっと確実なものにするために秋山先生に教わる必要があったのです。



秋山徹也先生

東京芸大講師、ピティナ文京アナリーゼ  
ステーション代表 当協会正会員



金子一郎さん

早稲田中・高等学校数学科教諭、フェスティバル  
実行委員、2005年ソロ部門特級グランプリ、当  
協会正会員



## 究極の姿を示す

—— 秋山先生は、グランミュージズ指導についてどのよう  
にお考えですか？

**秋山徹也先生 (以下秋山)** 僕の場合、振り返ってみると、  
グランミュージズ指導についての考え方は以前と変わりました。以前は指導力が無かったせいもあるのですが、大人の方が「とにかくピアノを弾きたい、この様な曲を弾きたい」と曲を持ってきたとき、まあ、音を間違えないでおおむね形になっていけばよいかなあ、くらいに結構甘く考えていたのですね。でもそうすると結局、メジャーな曲が弾ければそれでよしとする様な考えになってしまい、より深く本質を追及しようとする目的を持ってないのでしょうか。やがて飽きられてしまい、長く続きませんでした。だから今は、どのような方であっても、もっと音楽の本質に迫り、曲の構造・和声などからいちいち理由づけしながら「この曲ならこの様に弾けたら良い」という究極の姿を、一応示してやることにしています。まだこれからだなあという方には、実際に音で表現してみせたりして、具体的なイメージも養いながら。技術力は人によっていろいろですから、示したところでそれを実現できるとは限りません。でも究極の姿を示しておけば、それを実現しようと本気に努力されることが多いですね、グランミュージズ層の場合。むしろ本人がよりアイデアを膨らまして、より物凄い事をしてくるくらいです。そうやってゆくうちに、技術力も上がり、突然上手くなる事もあります。とにかく徹底してやり出すと、本人が主体的に止まらない位の勢いで突っ込んで来るということです。そうなれば、後はバランスとか整合性とかの相談役に回ることになります。

**金子** 僕もそうですが、基本的に皆さん本物を求めていますよね。

**秋山** そう。グランミュージズの人は本質を深く知ろうとしている傾向が間違いなくあります。追求が半端でないと感じます。ですからそれに対応しきりだけの指導力が必要です。全てに妥協しないで理由をつけて本質を全部伝

えなくてはならないでしょう。その上で本人の解釈方針に沿って、あるいはトータルのバランスからよく考えて、それが良いのか悪いのかを色々と個別に考えながら進めます。いわば徹底さと柔軟性が必要ですね。そうしないと飽きられて辞めていってしまうでしょう。

## 作品の時代によって変わる 音楽的要素のバランス

—— 金子さんは秋山先生に習い始めて気づかされたこと、一番影響の大きかったことは何ですか？

**金子** 作曲家や作品の生まれた時代によって、意識する音楽的要素のバランスが変わるという事です。それが収穫として一番大きかったと思います。例えば、ドビュッシーは、調性や、和声の細かい変化とか、リズムの複雑さが特徴です。対して、ベートーヴェンの作品は、調性や和音はほとんど限定されていますが、モチーフが全体を有機的にまとめ、緊張と弛緩の表現される大きな構造体としてとらえることが重要です。バッハになると、対位法的なものが強くなるなど、時代や作曲家によって、大分頭の中でバランスを変えなければいけないという事を教わったのが一番大きいと思います。後は響きのバランスですね。響きのバランスが曲の形態によって変わるといこと、具体的なサンプルが色々とあって、それも大変勉強になるし、そして何よりも汎用性があるのですよ。

## 解釈を一方的に押し付けない

—— お二人のレッスンを見学させていただきましたが、かなり特徴的なレッスンをされていますね。曲の解釈についてお互いの意見を出してディスカッションし合うようなレッスンのようですが？

**秋山** 金子さんの場合だと、もともと自分で徹底的に分



▲金子一朗さんの楽譜。膨大な量のアナリゼが書き込まれている。

析して来られるので、最初から相談役です。「自分だったらこうするよ」と意見することもあります。それとは全然違った形で演奏をしている事が多いのですよ（と金子さんの方を指して）、実際問題（笑）。いや、それはその人の個性だものね。やはり、その人の持って生まれた個性とか、音色の出し方とか、考え方の違いから来る訳でしょう。要は、その人の考え方その人の立場で考えてみて、この解釈は成り立つか、そしてその解釈のとおり表現できているか、という事を考えてあげれば、もうそれで良いのですよ。

**金子** 僕が逆に聞いたりもするのですよ、そうすると「いや僕の考えを聞いても仕方が無いから」と言って逃げるのですよ。（笑）

**秋山** それはそうですね。先入観を植え付けてしまったら教師のコピーになってしまいますからね。小さい子供相手でも、ある程度出来ている子供だと、作品の分析もさせるし、それに基づいて自分で考えさせてアイデアを出させて弾かせます。導入期ならともかく、いつまでも「ここはこうするものだ」と押しつけ続けていたら伸びないですよ、それはしてはいけません。

**金子** 寧ろ、僕の方が先生に一方的に解釈を押し付けて

いるかも知れません(笑)「僕はどう考えているのですけれども」という様な。

**秋山** それで良いのですよ。弾くのは金子さんですから。金子さんのレベルだと、基本的には本人の解釈に基づいて、その解釈が妥当であるかどうか、思った通りに音が出ているかどうかをチェックして上げれば良い訳です。自分とは解釈が大きく異なっている、可能な解釈ならばもちろんそのままです。「いや、これはどう考えてもおかしい」という時には言いますよ。「整合性に少し無理があるよ」とか「音の上げ方のカーブが不自然かも」というように。また、さらなる隠れた表現の可能性がある時も言います。「この隠れたラインをもっと表に出すとよいかも」とか「この和音の○○な色彩感をより一層表に出してもよいかも」などと。

## 遠回りなようで最良の方法 ソルフェージュ能力を身につける

——— 最後に、金子さんからグランミュージズの方々へのメッセージをお願いします。

**金子** グランミュージズの方が悩むこと、それはピアノに対する思いに比して、仕事や家庭などでピアノに向かう時間が少ないということでしょう。その限られた時間の中で、ピアノの演奏を向上させる最適な方法が、合理的な技術の習得、そして、ソルフェージュ能力だと思っています。ソルフェージュの定義はまちまちですが、ぼくはリズムや音程などを正しくとらえることだけではなく、和声や楽式や対位法を習得することなど、非常に広義にとらえています。そして、僕は、ソルフェージュ能力が高まれば、それによって音楽を認識する能力も高まるので、それを表現しようとして技術が正しい方法で身についてくると思っています。しかも、これの大きなメリットは、遠回りであるように、実は、一生を通じて短い時間で作品を確実に暗譜して仕上げる最良の方法だということです。一人でじっくり

り考えて勉強することも大切ですが、やはり、その道に長けた先生に教わることで効率的に勉強できることもあると思います。皆さんで、自分に最適な方法を見つけられると良いのではないのでしょうか。

1日単位では我々グランミュージズの人達に与えられた時間は少ないですが、継続さえすれば、蓄積する時間は膨大なものになります。今はできなくてもいつかできるようになりたい、そういう気持ちを常に持ちたいものですね。

## レッスンにお邪魔しました

今回のレッスン曲目は、ドビュッシーの作品「喜びの島」「ベルガマスク組曲」など。8月11日に行われる金子一郎さんのリサイタル(詳細はp.56)に向けての初回のレッスンだそう。お二人のレッスンは特徴的。ピアノの前に二人並ぶのではなく、金子さんの演奏を少し離れたところから秋山先生がご覧になり、コメントしていくというスタイル。作品の解釈に二人で意見を出し合い、イメージをかためながら、楽譜の意味を解明していく。



# 2つの年齢層で異なる グランミュージーズ指導の実態

「憧れのあの曲を弾きたい」「小さい頃投げ出してしまったピアノにもう一度チャレンジしたい」「独学でピアノをやっているが、コンクールに挑戦してみたいからちゃんと先生のレッスンにつこう」・・・大人がピアノを弾く目的は様々だ。「何か新しい習い事をはじめたい、ピアノなんてどうだろう・・・?」「ボケ防止に指を動かすピアノは良いらしい」そんな動機だってあるはずだ。目的やきっかけは様々だが、共通して言えることは、大人は自らの意思で「ピアノを弾く」ことを選び、それを教えてくれる教室を自らの基準で選んでいるということだ。

目的・趣向は様々だと述べたが、それを年代によって分類し、検証してみたい。20代～40代の学生・社会人の年代と50代以上実年齢の年代に分類してみた。それぞれの年齢層に同じ質問を投げかけ、その回答の結果から2つの年齢層の傾向をさぐってみたい。

グラフ1

## グループレッスンの多い実年齢層



グラフ1からわかるように、20代～40代の学生・社会人層（以下、学生・社会人層とする）の生徒数は、20名

以上が11%に対して50代以上実年齢層（以下、実年齢層とする）では22%を超える。これは、実年齢層のレッスンが一度に複数の生徒を指導するグループレッスンの形態をとっている指導者が多いことを示唆しているのではないと思われる。

グラフ2

## 両年齢層ともクラシックが一番人気、ポピュラーもそれに続いて

ジャンルについては、やはりクラシックが堂々の一番人気。特に学生・社会人層では66%を占める。中でもやはりショパン、リスト、ラフマニノフなどロマン派作品が人気だ。ポピュラーも学生・社会人層で25%、実年齢層で33%とそれに続く。ポピュラーでは、学生・社会人層にはディズニーや久石譲作曲のジブリ作品が人気。実年齢層では、クラシカルな映画音楽（ムーン・リバー、ゴッドファーザー、ある愛の詩など）を選びたい生徒が多い

ようだ。ジャズのレッスンを望む生徒たちも、まだ少数ながらいるようだ。幅広いジャンルに対応できる指導も問われることになりそうだ。

グラフ3

## 演奏技術習得を目指す学生・社会人層、ピアノ仲間をつくりたい実年齢層

ピアノレッスンに求めるものは何か？—— グラフ3を見ていただきたい。両年齢層とも「弾きたい曲が弾けるようになること」が堂々の第一位になっており、偶然にも全体の36%と同じ割合を占める。対して、大きな違いが出たのが、学生・社会人層では、「ピアノの演奏技術があがること」が27%を占めるのに対し実年齢層では15%、「教室を通じたピアノ仲間を作ること」が実年齢層では23%を占めるのに対して、学生・社会人層では7%という結果となった。学生・社会人層では、純粋な音楽の追及がテーマとなっている。実年齢層では、ピアノを媒介とした「仲間作り」、「ピアノを通して社会とつながっていくこと」がテーマとなっていることがわかる。この点からも実年齢層でグループレッスンが取り入れられていることにならずける結果となっている。

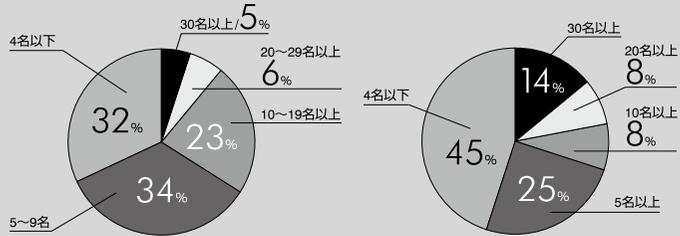


20代～40代の  
学生・社会人層

50代以上の  
実年層

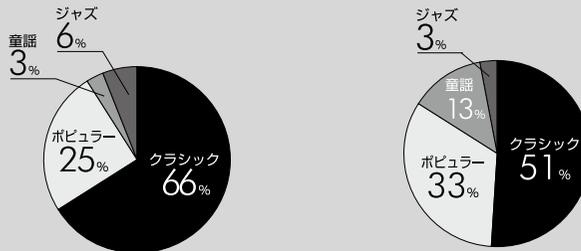
グラフ1

Q1: 生徒の人数について教えてください



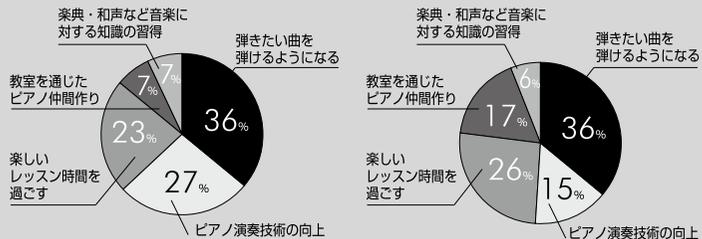
グラフ2

Q2: どのジャンルの作品が人気がありますか？



グラフ3

Q3: ピアノレッスンに求めるものは何ですか？



データには現れないが、アンケート調査をして筆者が感じることは、学生・社会人層には、子どもの頃ピアノをやっていたピアノ歴がある方が多いということだ。小さい頃からそのまま継続的にピアノを続けている方、一度進学や就職などの事情によりブランクがあり、その後もう一度と再開した方などピアノ歴は様々ではあるが、一度以上のピアノ歴を持つ方ということだ。それだけにピアノに対するモチベーションが高いことは想像できるが、ある程度の基礎力が身についている一方で、基本のやり直しが必要な場合もある。また勉強や仕事、家庭という本業を抱える中での「練習時間の確保」は、普遍的なテーマであろう。実年層では、ピアノの初心者がそれなりに多いようだ。「これからピアノをはじめよう」と基礎から学ぶことに奮闘中だ。彼らの場合は、年齢に伴う手や指の問題を抱えつつ、仲間とともにステージ経験を重ねながらピアノに取り組んでいるようである。

次ページからは、学生・社会人層と実年層とそれぞれについてのケーススタディとして、事例を紹介していきたい。

[ 学生・社会人層ケーススタディ① ]

# 大人だってまだまだ伸びる 「いい音楽」への追求に妥協なし

桐朋女子中・高校で教鞭をとるかたわら、多くのグランミュージズの生徒を教えておられる相澤聖子先生。一口にグランミュージズと言っても、音楽を専門に勉強している学生、一般大学の大学生、仕事をバリバリこなす社会人、主婦など様々な生活スタイルを持っている。その共通点は、皆ピアノに対して真剣勝負であるということ。生徒さんの多くが毎年コンペに参加。年齢もY, A, Bカテゴリーまで幅広い。昨年は、その半数以上の生徒が予選を通過し、全国決勝大会でも2名出場など、グランミュージズ層の指導に圧倒的な信頼と実績を持つ相澤先生。今回は、昨年グランミュージズ部門A1カテゴリーでグランプリを受賞した太田健介さんとともに相澤先生のレッスンの極意にせまる。



**相澤聖子先生** (写真左)

桐朋女子中・高等学校講師、当協会正会員、PTNA 青山ステーション代表

**太田健介さん** (写真右)

東京大学大学院総合文化研究科博士課程2年。研究テーマは、超伝導体の応用。相澤聖子先生には8歳から指導を受け、昨年グランミュージズ部門A1カテゴリーでグランプリを受賞。趣味はサッカー。

—— 太田さんは、相澤先生に習って18年ということですが、相澤先生のレッスンはどのようなレッスンですか？

**太田健介さん (以下太田)** 相澤先生には、小学生の頃から通っていますが、以前と変わらずレッスンは真剣そのものです。音楽専門に進む生徒が大半の中でその道を選ばなかった僕は異端児的存在なのですが、相澤先生は区別なく教えてくれます。先生のレッスンの前後では、自分で感じる曲の「おもしろ味」が全然違うことを実感しています。

**相澤聖子先生 (以下相澤)** 彼の場合は、小さい頃からの積み重ねがあるので、忙しく練習の時間が取れなくなった現在でも何とか能率よく短時間で弾いてきます。私のレッスンでは(料理に例えれば)その素材を生かしつつ、調理法や隠し味などを伝授していきます。

—— 長く太田さんを見て来られた先生にとって、太田さんはどのような生徒さんですか？

**相澤** 長い付き合いですが、「一生懸命、いい音楽をやりたい」という純粋な気持ちがいっつも伝わってくる子でした。いい意味で気負いのない自然体であることが彼の良いところですね。お互い信頼しあっていることを実感しています。

—— 太田さんにとって、ピアノは生活の中でどのような位置を占めますか？

**太田** 学校の方も忙しく、毎日練習することは難しいのですが、平日の朝8:00から30分~1時間程度練習します。基本的にピアノは、リフレッシュの時間です。やりたくないことはやらない性格なので(笑) 僕にとっては、細かい練習も苦ではないのだと思います。ピアノがうまく行っているときは、本業(大学院での研究)もうまく行ってい

ることが多い比例の関係のようです。おそらくピアノと本業の切り替えがうまく行っていて、集中力がある時期だということなのでしょう。ピアノはライフワークとして、一生続けていきたいと思っています。いつかコンチェルトをするのが夢ですね。



インタビューは、終始笑いが絶えず、和やかな雰囲気が進みました。ですがいったんピアノの前に座ると、がらりと「ピアノモード」に。多くのグランミュージズの生徒さんを教える相澤先生の考えるグランミュージズ指導の特徴とは？今までの経験談を交えてお聞きしました。

—— グランミュージズの生徒さんの特徴とはどのようなところでしょうか？

**相澤** まず生徒は、各個人で大いに異なるということです。生徒の年齢はもちろんのこと、今までのピアノ歴、この教室でのレッスン歴にもよります。また生徒側のピアノへの志向、「基礎から習得し、着実に積み上げていきたい」のか、「ある曲がすぐ弾きたい」のか、「コンクールに挑戦したい」のか、なども個人個人異なるので、それを汲み取ることですね。

年代の違いということは大いようで、そのライフスタイルが違うことから、音楽以外のことも含めて考え方が大きく違うことを感じます。私の教室では、生徒どうしの交流の場も多く設けていますが、そういった機会に如実に感じます。20代の学生は勉強（あるいはピアノ）が中心、

30代の方はまさに働き盛り、厳しい社会の中にある緊張感が漂ってきます。40代の方は、多少落ち着いた



▲小学校4年生時の太田さん。相澤先生のクリスマス会で。

中でピアノをやろうと余裕を持ってピアノに取り組んでいるようです。

—— グランミュージズ指導について先生のお考えをお聞かせください。

**相澤** グランミュージズの方々にはそれぞれの背後に仕事、家庭などピアノ以外の事情がありますので、こちらとしてもそれを頭の隅に置きながらレッスンを進めていきます。生徒が長く勉強を続けられるよう、こちらでもレッスン時間など調整する気持ちを持つことです。

しかし、ピアノの前に座ったら純粋に先生と生徒。性別、年齢、わけ隔てなく、一律音楽的指導をすることです。「大人なんだからこのくらいでいいんじゃない」という教え方はしていません。「今できるテクニックと表現を身につけましょう」と生徒ができる最大限のことを教えます。そこは妥協しません。



### 長期休暇を利用して福岡から相澤先生のレッスンに

現在、福岡県在住、九州歯科大学3年の新居由紀さん。勉強に忙しい毎日だが、「ピアノを本格的に長く続けたい」との思いから、1年前より長期休暇を利用して千葉の実家に帰省した際に東京の相澤先生のレッスン室に通っている。普段は、毎日必ず1回はピアノを触ることを自らに課し、年4回ほどの長期休暇の間に短期集中型で相澤先生の指導を受ける。相澤先生のレッスンを受けることで一番自分に変化があったのは、「全身を使って弾く」ことができるようになったことだ。相澤先生は常にホールでの演奏、本番を意識したレッスンをしてくださる。新居さんにとってピアノとは？

と質問したところ「毎日の食事などと同じ日常生活の一部」とのこと。「大学生生活のペースもつかめてきたので、落ち着いてピアノに取り組みたい。生涯を通してレベルアップしていきたい」と静かながら、強い意思を感じさせる口調で語ってくれた。

# 同じ「先生」業の先輩として

千葉県木更津市在住の守麗子先生。守先生の教室には長くレッスンを続けている生徒が多い。3歳から習い始めて20年以上の方、また30年以上続けてレッスンを受けている40代の方もいる。その娘さんも守先生のレッスンを受けているなど、孫弟子も数名。音楽の道に進まなくても、別の職業に就いても、ピアノを継続し、さらにコンペティションで結果を残すなど意欲的にピアノに取り組む生徒も何名もいるという。今回はその中のお二人、御園奈美さん、金子智美さんにインタビューした。自然体で穏やかな雰囲気  
の守先生。そのピアノ指導の魅力とは？



**守麗子先生** (写真中央)

元帝京大学、都立高等保育学院、明德短期大学講師、当協会正会員、ピティナ木更津連絡所代表

**御園奈美さん** (写真左)

現在、千葉県内の小学校教諭。現在、1年生の担任をつとめる。

**金子智美さん** (写真右)

現在、千葉県内の保育園に勤める保育士。

—— お二人はそれぞれ仕事をお持ちで、お忙しい毎日を送っていらっしゃると思います。その中でコンペティションに出られるなど、そのモチベーションはどこから湧いてくるのでしょうか？

**御園さん (以下、御園)** 以前はステージに立つことが苦手だった自分が、ステージの経験を積み重ねることにより、舞台にたつことが楽しくなった、といういい思い出があるんです。ここまで先生にできるようにしてもらったので、やめたくない、やめるのはもったいないという気持ちです。専門ではないですが、自分なりに高めていきたい意思があります。

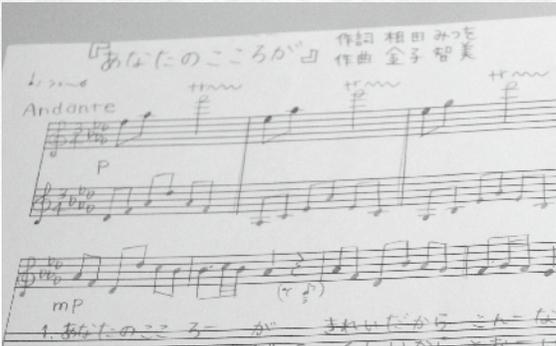
—— 守先生のレッスンはどのようなところが特徴でしょうか？続けているのはどのような魅力がありますか？

**金子さん (以下、金子)** 私は、ピアノが全然はかどらなかつたこともあるんです。そういうときも話を聞いてくれ

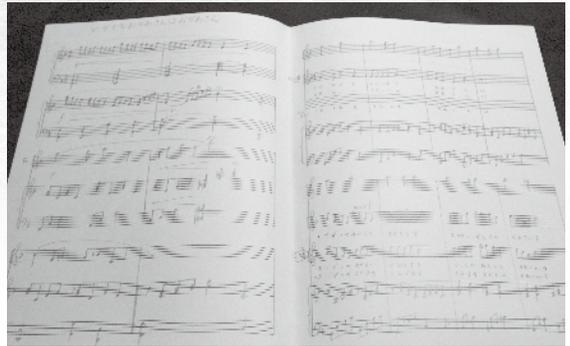
たり、相談にのってくれたり。パワーをくれる先生です。先生のレッスン室に来るとほっとします。またレッスンの時間だけでなく、一緒に演奏会に連れていってくれたり、ピティナのイベントの手伝いで呼んでくれたり、先生ご自身の魅力を感じます。

**御園** まず、「思いっきりがいい」「細部まで注意して弾けている」など私の良いところを見つけて伸ばしてくれるところだと思います。もうひとつは、私がぶつかった壁と一緒に乗り越えようとしてくれるところ。今、守先生から紹介してもらい、ポーランドの作曲家「ミロシュ・マギン」の作品を練習しています。なかなか解釈の難しい作品なのですが、楽譜を読み取る作業を一緒にああでもない、こうでもない先生と一緒に考えるレッスンがとても楽しいのです。

—— 小学校の先生、保育士というお二人ですが、ご自身にとって「ピアノ」が仕事に役立つことはありますか？



▲「あなたのところが」(金子智美さんの作品)



▲「いつもおかあさんはおかあさん」(御園奈美さんの作品)

**金子** 私は保育士の仕事をしていますが、歌の伴奏に守先生のレッスンが大いに役立ちますね。守先生には演奏指導だけでなく、ソルフェージュや作曲なども教わっています。例えば、調を変えて伴奏をしたり、歌のメロディにすぐ伴奏をつけたり。

**御園** 私は小学校で1年生の担任をしているのですが、毎日クラスで歌を歌います。その伴奏などでしょうか。これからの私の夢なのですが、ピアノや音楽を今の小学校の仕事でもっともっと生かせれば良いなと思っています。例えば生徒と一緒にクラスのテーマ曲を作ったり、学校内での音楽イベントを提案したりしたいと考えています。

—— お二人とも守先生と同じ「先生」という職業についていらっしゃると思いますが、同じ「先生」の先輩として、守先生の尊敬できるところはどこだと思いますか？

**金子** 一人一人の良いところを認め、常にこの子を伸ばし、可能性を広げてあげようという姿勢です。私が保育士として働いていくにあたって見習っていききたいところです。

**御園** 生徒一人一人を見抜く力を持っているところです。

—— 守先生はグランミュージズ指導についてどのようにお考えでしょうか？お子さんの指導との違いはどこでしょうか？

**守先生** 大人と子どものレッスンは、やはり全然違うと思っています。レッスンを離れたところでも対等な関係で話ができることで、その信頼関係が自然とレッスンの中でも生きてきて良い効果を生み出していると思います。一般大学に通う生徒が、「今私の生活がこんなに充実しているのはピアノのおかげです」とステップの演奏前の紹介コメントを書いてくれた生徒がいたんです。嬉しい限りです。私は大人のレッスンの方が楽しいですね。

私の教室では、ソルフェージュに力を入れていて、小さいうちから歌の即興伴奏や作曲の分野も積極的にレッスンに取り入れています。二人もオリジナル曲を何曲もつくっていますよ。また小さい生徒のつくった曲を彼女たちが歌い、アンサンプルの手伝いをさせたりもします。



# 練習は効率的な「省エネ」で



コンペティション、ステップ併せて 23 回出場の大原尚子さん。仕事、家庭とともにお忙しい中、積極的にステージ経験を積み重ねている。普段は、サイレントグランドで夜中にピアノ練習をするという大原さん。今回も関西のグランミュージズの祭典、“大阪城ステップ”に参加、この機会に師事している長岡秀美先生とともにインタビューした。

## 長岡秀美先生

大阪芸術大学元講師、庄栄アートミュージックスクール主宰、  
茨木市音楽芸術家協会理事、当協会正会員

## 大原尚子さん

電機メーカー営業部勤務。社会人になってピアノを再開し 10 年。

——長岡先生のレッスンの特徴はどこでしょうか？

**大原さん** あるコンサートで声楽の伴奏をされている長岡先生にお目にかかったとき、その弾き姿と表現の美しさに憧れて先生にレッスンを受けるようになりました。先生のレッスン室もセンスが良くて、とても素敵なんです。先生のライフスタイルに憧れており、お手本にしたいという思いもあります。

レッスンについては、「歌う」ということ、フレーズ感などの表現について、手首の脱力方法について、など私が知りたかったことを教えてください。先生が具体的に横で弾きながら細かいテクニックなどを教えてくださいのわかりやすいです。1 時間のレッスン時間がとても充実していると感じます。

——長岡先生は、十数名のグランミュージズの生徒さんを



教えていらっしゃるとお聞きしておりますが、グランミュージズ指導で先生が重視されていることは何ですか？

## ▼長岡先生のレッスン室



**長岡先生** グランミュージズの生徒さんを見ていて感じることは、「自分の演奏における問題点を自分自身でわかっているのだけれど、ではそれを具体的にどのようにすればよいのかその解決法がわからない」という方が多いということです。グランミュージズの方は、真面目な方が多いですし、練習時間もなかなか満足にとれないでしょうから、余計に苦しいと思いますよ。そこで私は真正面から取り組みすぎないこと、横やら斜めからいい意味で「くだける」ことを教えます。短時間でできる譜読みのコツなど「省エネ」で「効率的に」できるような練習法ですね。グランミュージズは、個人個人で思いも個性も違うというのがやはり前提にありますので型にははめず、生徒と一緒に曲をつくるという意識です。

〔相澤先生門下グランミュージズにインタビュー〕

## 練習時間はどう確保してる？ 今後のピアノの目標は？



相澤先生は、同年代の生徒を集めてしばしばグループレッスンをを行う。今回は、30代から40代のグランミュージズの生徒のグループレッスンにお邪魔してインタビュー。相澤先生ご自身が代表をつとめる青山ステップに参加、見学したことが相澤先生のピアノ教室入門のきっかけとなった方が多い。中には、ピティナホームページで紹介された「レッスン室拝見」のコーナーでの先生のレッスンぶりに惹かれ入門した方もいる。(インタビューはカワイ表参道にて)

◀相澤先生を囲んで。左から順に牧野元子さん、川瀬朋子さん、高橋良典さん、三好美穂さん、渡辺素子さん、富田和江さん(以下敬称略)

### Q1 あなたのピアノ歴について教えてください。

- ◎小6までピアノを習い、社会人になってからポピュラーやジャズを独学で楽しんでいたら、限界を感じて相澤先生の教室に入門(川瀬)
- ◎音大卒業後、近所の子供を教えていた。自分ももう一度「弾く」ことにチャレンジしたいと奮起、レッスンに通うようになる。(渡辺)
- ◎高校卒業までピアノを習う。社会人になり、辛いときに聴く音楽はなぜかクラシック。クラシックを聴いたときの感動を、今度は自分が表現したいという思いにかられ、再びピアノを始める。(牧野)
- ◎数年前からピアノを再開。「もっとうまくになりたい」と相澤先生の教室に入門(富田)

### Q2 お忙しいグランミュージズの方々。練習時間はどのように捻出していますか？

- ◎主婦なので昼間に家族のいない時間に一人で黙々と練習(三好・川瀬)
- ◎音大生の住む防音設備完備のマンションに住んでいるので、仕事から帰宅後、夜11時まで練習(高橋)
- ◎会社の昼休みを利用し近くのスタジオを借り、帰宅後は夜中12時から明け方まで練習。子供が小さく生活リズムができていないので時間の捻出が悩み。(牧野)
- ◎平日は朝7時から8時までの1時間、夕食を作るまでの1時間が練習時間(富田)

### Q3 あなたのピアノに対するご家族や周囲の方の反応は？

- ◎息子は私にかまってほしいのか練習の邪魔ばかり・・・(三好)
- ◎まだ人に聴かせられる状態ではないので、一人こっそり練習します(高橋)
- ◎「ピアノがうまくいなくても落ち込まないでね」と娘が手紙つ

きでピアノのモチーフの入ったかばんをプレゼントしてくれた。娘の応援が嬉しい。(富田)

- ◎「毎日ピアノを弾いてピアノで挑戦を続けている母を尊敬しています」と娘が作文に書いてくれたときは感動！(川瀬)

### Q4 相澤先生のレッスンはどのようなレッスンですか？

- ◎弾く姿勢、音づくりなど入念なレッスン。実際に弾きながら教えてくれる(川瀬)
- ◎魔法にかかったような気分。自分の未知の世界を教えてくれる(三好)
- ◎自分のどんなピアノも最終的に受け止めてくれると感じさせてくれる。やる気にさせるレッスン(牧野)
- ◎私が表現したいことを教えながら、ひっぱりあげてくれる。(富田)

### Q5 これからピアノで実現したい夢はありますか？

- ◎小さい頃、ピアノに憧れ学校の音楽室で練習したことを覚えている。自分のピアノがある今の環境はとも幸せ。これからひとつでも多くの作品を自分のものにしていきたい(三好)
- ◎アガリ症の私。普段の半分の力が出せるよう精神面を鍛えたい(斎藤)
- ◎ピアノは、自分の一生をかけて形にしていきたい趣味。とにかく真剣です！今は、レッスンを始めて1年だが、リストの「ラ・カンパネラ」が目標。(高橋)
- ◎今はまだ自分の頭の中でイメージする音と実際自分が奏でる音とのギャップに悩んでしまう。そろそろ段階があがって、ピアノを楽しんで弾けるようになりたい。(牧野)
- ◎私はピアノに対する思い入れが強すぎてしまうタイプ。心に余裕を持ってピアノに向かいつつレベルアップしたい(川瀬)

## [実年齢ケーススタディ①]

# 手も指もその方の個性 グループレッスンでみんな生き生き

埼玉県さいたま市は、ピティナ実年ピアノ教室の発祥の地。その影響で、今でも実年齢のピアノ指導をされている先生方が多い。今回は、その流れをくんで多数の実年齢の生徒さんのピアノ指導にあたっておられる大久保伊津美先生、大塚由美先生のお二人にインタビューした。経験の中から生まれたお二人の実年齢指導の工夫、その思いを紹介したい。



### 大塚由美先生

埼玉県蓮田市在住。ジュニアからグランミュースまで幅広い年齢層の生徒を指導、ステップを中心に精力的に活動。ピティナ指導者会員。



### 大久保伊津美先生

群馬県高崎市在住。自身の実年齢のピアノ指導をきっかけに、2005年より地元高崎にてステップを開催。たかき echo ステーション代表。ピティナ正会員

## グループレッスン長続きの秘訣

—— 大人の生徒さんは何名ほど、どのようなスタイルでレッスンされていますか？

**大塚先生 (以下大塚)** 7人グループがひとつ、4人グループがひとつの計11名を教えています。それぞれ7年、5年と続いているグループです。

**大久保先生 (以下大久保)** 私は、5～7人グループを6組、計33名の大人の生徒さんを教えています。長いグループだと今年で10年になります。ほか、個人レッスンとしても8名教えています。

—— グループレッスンが主体なのですね。お二人のグループとも長く続いているようですが、長続きの秘訣とは何でしょう？

**大塚** 生徒さんの中にはやはり、それぞれのご家庭の御都合があって2、3ヶ月休まれる方もいます。それも柔軟に認めて再びレッスンに来やすい状態をつくること。あと、グループのメンバー構成として男性と女性がバランスよく混じっている方が長続きするようにも思いますね。

**大久保** まず生徒さんご自身が元気であることが一番大事です。そのために、私の方で健康関連の新聞の記事の切り抜きを持ってきて話題にすることもあります。2つめに、やむなく欠席した方へのフォローですね。これは私よりも生徒さんどうして、欠席した後に電話をかけあったりしているようです。3つめに「いつも先に目標をもつ」ということですね。季節の歌などを早めに練習することから発表会やステップで披露することまで目標を設定しています。

## ステージ演奏までの準備

—— 発表会やステップ、このように人前で演奏することを躊躇される方はいらっしゃるのではないかと思います。いかがですか？ステージに立ってもらうための言葉かけや実践法などありますか？

**大塚** 実は先日、4人グループの方の生徒さんがステップデビューしたところなんです。初めは皆さん躊躇してられましたが、まず一人一人、教室の前に置いたピアノで演奏する、またその曲はまだ習いたての曲を選ぶようにする



▲12手連弾の様子(大久保先生の発表会)

「みんな弾けないので」と気負いが少ない)、など段階を設定して徐々に人前で弾くことになっていただくようにしました。

**大久保** 私の教室では、ステップを日ごろのレッスンの一環として取り入れているため、人前で演奏することに自然に取り組んでいらっしゃる方が多いようです。それが定着しているので、日常のレッスンでの選曲が次のステップで弾くための曲だったり。皆さん、「ステージあつてのピアノ」と考えてくださっています。

## 「手」そのものに関心を持っていただく

——実年齢の方だと、手や指、腕など硬くなって動きにくくなることも多いと思います。それについてはどのように対応されていますか？

**大塚** 私はそれをマイナス面としてとらえないように「あまり気にすることないですよ」とお伝えするようにしています。むしろその方に応じた曲選びの方に注力するようにしています。

**大久保** 私もそれに拘らないようにしています。どんな手も指もその方の個性ですから。自分の指の個性と仲良くつきあっていただけるように考えます。手を題材にした詩や俳句の紹介をしたり、女性ならおすすめのハンドクリームの話などを持ち出したり、日ごろから「手」に関心をもっていただくようにお話をしています。

## ピアノがもたらす副産物

——生徒さんがピアノを習うことで変化したことはありますか？

**大塚** まず皆さんがだんだんおしゃれになられたことでしょうか。服の色がカラフルになって、レッスン室全体が明るい雰囲気になってきているように思います。私の教室では、グループレッソンのメンバーで、老人ホームに演奏に出かけることもしばしばです。「私たちの演奏を聴いてもらえるなんて」と生き生きとしている皆さんの姿を見ることは、私にとっても大きな喜びです。

**大久保** 生徒さんの話を伺っていると、ピアノを習っているお子さんやお孫さんとの共通の話題が増える、ご主人様からの曲のリクエストがあったりと、ご家族の応援を感じることが増えたようです。また大病をなさった方でも、「私にはピアノがあるから」とピアノが心身のリハビリになっていらっしゃるようです。

## レッスンの教材は？

大塚先生の教室は「バスティン 大人のためのピアノ教本」を教材に使用。ステップや発表会では本人の希望に併せて選曲してもらう。バイエルを選ばれる方も多いそう。



大久保先生の教室では、教材として、「バスティン 大人のためのピアノ教本」（東音企画企画）ほか、「バスティン 中級レパートリー」（東音企画）、「おとなのハノン」（ドレミ楽譜出版社）を使用。発表会では自分の弾きたい曲を、ステップでは、課題曲は普段の教本から、自由曲は本人の希望で選曲するという。



戸沢睦子先生

運営委員、ステップ担当者連絡会委員長、組織委員、さいたま中央ステーション代表

## ピアノの「お手伝い」をする姿勢で

ピティナ実年教室スタートから15年。実年教室の中核として、さいたま実年グループをここまで導いてこられた戸沢睦子先生にコメントをいただいた。

私は実年齢の方のピアノレッスンをするとき、「人生の先輩にピアノを『指導する』のではなく、『弾けるようお手伝いする』」と思ってレッスンしています。そして、『お手伝いする』私たちも、一緒にステージにあがる機会を頻繁にもつ、など輝いていなくてはならないと思っています。

実年齢の方々は、若い時のように手も指もコントロールしにくいことも多いわけですが、それに拘るのではなく「今新しく身につけたものを大切にしましょう」とお伝えしています。実年の方にとって、ピアノレッスンは「ピアノを弾く」ことだけでなく、「ピアノを通して仲間をつくる」「社会とつながりを持つ」という意味合いがあります。実年齢のピアノレッスンの大切にしたいテーマですね。

## [ 実年齢ケーススタディ② ]

# 50名をまとめるリーダーシップ 生徒用のアレンジ譜は50曲以上！

斎藤美代子先生は宮崎県日向市在住。日向市文化連盟理事、さらには日向音楽レスナーの会会長を務めるなど、地元日向市の文化振興に尽力されている。その音楽振興活動の一端として、6年前から日向市が主催する「日向市大人のためのはじめてのピアノ講座」の講師をつとめている。3クラスのグルプレッスンを受け持ち、生徒さんの年齢は50歳から86歳まで、計50名を越える。2時間のレッスンを月3～4回行う。使用楽器はピアノはもちろん、ピアノカ、キーボードなど。50名の生徒さんを率いる斎藤先生の考える実年齢のピアノ指導とは？



**斎藤美代子先生**  
当協会正会員

### 生徒が弾きたい、‘あのなつかしの歌’を 独自のアレンジ譜で

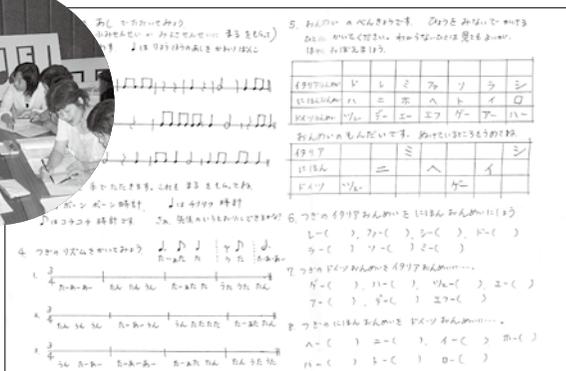
クラスの生徒は、はじめてピアノを習う方ばかり。実年齢の生徒さんに人気のある曲は、「浜辺のうた」「水色のワルツ」「赤とんぼ」など昔なじんだなつかしの唱歌が多いという。両手で弾けて、無理のない楽譜を、と先生自らアレンジにあたってている。例えば、左手はドレミファの間におさまる音域で、音がとんだり指がくぐるような奏法が必要

なもの避ける、など。そのアレンジ譜は、実に50曲以上。「実年のピアノ指導をする場合、アレンジ力は必須ですね」と斎藤先生。またレッスン時間の半分は、楽典の勉強にもあてて、多方面から学べるようにしている。

### ピアノカ、キーボード、トーンチャイム、 竹のドラム、なんでもアンサンブル！

2005年の日向ステップでは、生徒45人によるアンサンブルが披露された。楽器は、ピアノ、キーボード、ピアノカ、そしてなんと竹。竹はリズムを刻むドラムの役割だ。竹のリズム、ピアノカの迫力にアドバイザーの先生方も圧倒され、「演奏が楽しくてコメントを書く時間があった。じっと見ていたかった」とおっしゃられたほどだという。

そのほか連弾、12手の2台ピアノなど様々なアンサン



▲斎藤先生の手作りの楽典の教材(左)、先生の手書きのアレンジ譜(右)

ブルを次々とあみだしていく斎藤先生。生徒さんたちは、ステージでの演奏に躊躇する方はほとんどいないという。「大きなステージは年2回、あとはステップに出ます。発表の場を多数用意して、場数を踏んでいくことでステージに慣れていくんです。そうするとソロで出て怖くない。また発表の場にご家族を呼ぶことも大いに効果があるんですよ。ご家族にピアノで挑戦している姿を見せることでご家族の協力を得やすくなる。ご家族が来やすいように、発表会の時間帯は昼と夜と両方に設定するようにしています。」と斎藤先生。



▲グループレッスンのワンシーン。斎藤先生(右)のお人柄が教室は、笑いの絶えない陽気な雰囲気だ。

## まず先生が元気であること、 生徒が「楽しかった!」と感ずること

6年間続いているグループレッスンだが、その長く続く秘訣は「まず先生が元気であること」だという。活気のある先生でないと生徒はついてこないからだとか。あとは、レッスン時間の変更はしない、個人レッスンは引き受けないなど、ケジメをつけるところは貫くことだ。生徒たちが公平にレッスンをできるようにすることが最も重要なポイントだ。

## 大人を教えて改めてわかる、 幼児教育の大切さ

実年齢層の指導をするようになってから先生に変化はあったのだろうか？ 質問するなり、「我慢強くなりました(笑)」と先生。もうひとつは、逆説的に幼児教育の大切さ



▲昨年のクリスマスコンサートの様子。生き生きとした表情が印象的だ。



を身にしみてわかったという。「子供の頃でないと、絶対音は身につけません。やはりその年齢に応じて学べる必要があります。それがわかってから、幼児期の教育により力を入れるになりました」

## 内輪だけでなく外にひらけた発表の場を

これからの実年齢層の指導に求められることは何だろうか？ 先生のお考えを伺った。「生徒さんにより多くの発表の場を提供したいというのはもちろん、その発表の場が内輪のものでなく外にひらけた場である必要があると思っています。」と斎藤先生。固定されたメンバーの活動では、外の方が参加しにくくなるからだ。「例えば全国規模の発表の場があるといいですね。私はピアノを演奏するために東京に行く」なんて機会があると皆さん喜ばれるはず。ピティナ実年齢層発表会を東京で開催していただくと、その近隣の娘や息子が来てくれて「家族愛」が生まれませんか？ そういう機会をひとつでも増やしていきたいですね。生徒さんの中には、レッスン日はご主人をデイサービスに預けて「自分を取り戻すための貴重な時間」として来てくださる方もいます。せめてレッスン時間は笑顔になり、背筋も腰もぼして「楽しいなあ」と感じてもらえる時間にしたいと思っています。」

# アンケートより グランミュージズ指導の悩みと実践法

※アンケートよりたくさんの方が寄せられました。  
こちらで一挙に紹介します。  
ご協力くださった先生方、ありがとうございました。

## ♪ テクニック・読譜の指導法

- ◎ 大人は、長い曲になってくると、つまづきやミスが多くなるのでどのような指導をしたら良いのかが悩み。
- ◎ 年齢が上がるると身体がかたくなるので、身体全体の使い方、背中、肩から腕、手と力を抜いて動かせるように若い人、子供とは異なる注意が必要。
- ◎ メソッドが確立していないので、まだまだ個人に合わせた手探り状態。子供の頃、弾いていて中断、また再開するケースについてのテクニックの指導が悩み。ついってしまった弾き方のクセなど（子供に比べて）直すのが大変。本人自身もどかしく思っているのがわかるので、何とかしてあげたい。
- ◎ 左手の読譜力の低い方が多いので、その力をつける指導をしたい。
- ◎ 高齢の方には、音楽療法的要素を多く取り入れたレッスンをしていきたい。
- ◎ 大人の方のためのピアノの指導書が少ない。もっと個人個人の希望を叶えられるような幅広いテキストが欲しい。
- ◎ 楽典等の理解は早い指の動きや脱力などは、難しい。
- ◎ ジャズピアノを習いたいという方が増えてきているので、体系的にメソッドを考えてみたい。またアンサンブルをする機会を増やしていきたい。
- ◎ 柔軟体操は必須。
- ◎ 楽譜を目で追いながら弾けない（途中でパニックになる）ので、簡単な初見の練習を取り入れている。
- ◎ 体が硬いので、リラックス体操や曲に入る前にスケール&和音の練習をしている。
- ◎ 連弾や2台ピアノも織り込む。（子供より大人の方が反応、効果が感じられる）
- ◎ 弾けるところに満足して、弾けないところを練習しないので、「ワン・ツー・スリー」法（出来ないフレーズを2〜4小節に分けて①右手②左手→続けて3回できたら③両手で合わせて3回行う）を取り入れている。



- ◎ 常に精神的満足感が得ることができるよう、部分を完成させていくレッスンを心がけている。
- ◎ 弾けるよう担った曲を忘れないようにレパートリー集などを作っている。
- ◎ 練習時間が限られているので暗譜を無理にさせない。
- ◎ ピアノが弾き易い「手」にいかにか近いものを持っているか、それが大きな課題。



- ◎ 肩こりや、腱鞘炎などにならぬように、サランラップの芯を利用した体操をお勧めする。テンポについては、メトロノームだけではなく、ウォーキングするときなどにも歌を歌いながら、一定の速さで足を出すようにするとか、音楽を聴く時に指揮をしながら聴く事で拍子感をつける等、アイデアを伝えている。
- ◎ 曲の解釈でもいくつか例をあげ、本人に選ばせるかたちをとる。
- ◎ 生徒が保育に関わる仕事をしているので、子供の歌の移調をしたり、伴奏をアレンジしたりする勉強をする。リズム遊びなどのアイデアと一緒に考える。

## ♪ 弾き易く聴き応えのある曲さがし

- ◎ やさしくかつ大人の興味に合う曲をさがすのが難しい。
- ◎ 実年の方々が好む曲で素敵なアレンジをされている楽譜を探したい。
- ◎ 連弾を取り入れたいが、大人のための連弾の曲（名曲のアレンジなど）が少ない。
- ◎ ポピュラーやスタンダードナンバーを御本人にあわせて編曲して差し上げたいし、コードネームを覚えて頂き、生徒さん自身のオリジナリティーを引き出したい。
- ◎ 技術的には難しくなくて、聴きごたえのあるアレンジの楽譜を探すのに苦労。
- ◎ 難しい所はすぐ書き変える、これ大切。



## 定期的なレッスンが困難な グランミュージズ

- ◎ レッスンにこられる状態が不定期だったりで、計画的に作り上げて行くことが難しいのが悩み。
- ◎ 振り替えをすること。1ヶ月、2ヶ月の休みを認めてあげることなどで、臨機応変に対応する。
- ◎ 社会人・主婦の生徒は、仕事もあり、学生と違いチケット制にする。

## 大人の方が出やすい ステージのアレンジ

- ◎ 子供達と一緒に弾き合い会をすることで、双方に良い影響を与えているので、子供と大人と分けずに触れ合う機会を持たせたい。
- ◎ サロンコンサートや、ミニリサイタル等、おしゃれで、スマートな企画が喜ばれている。(帝国ホテルのミュージックルームを使ったサロンコンサートなど)

- ◎ 毎年、ニューイヤーランチタイムコンサートを行う。ピアノのあるレストランを貸切でランチを食べながら、1人1曲ずつ弾く。

## 大人どうしならではの コミュニケーション

- ◎ 気持ちのわりに手、指が思う様に動かないなど、自信を失いがち。自分自身をすぐ否定してしまうのでお世辞ではなくて励まして差し上げるのが難しい。
- ◎ レッスン中の会話を楽しみにしている方が多く、レッスン時間との兼ね合いが難しい。
- ◎ 雑談においては生徒に、ピアノ演奏についてはこちらがイニシアティブをとるようにしている。
- ◎ 私自身もピアノ以外の習い事をし、初心を忘れないように、生徒の立場を考えられるようにする。
- ◎ ピアノでも歌でも他の習い事でも、お話でも「何でも有り」の会を自宅で、お茶とお菓子とおしゃべりつきですることを計画中。
- ◎ 言葉遣いには最も気を使うようにしている。
- ◎ 人生の先輩ということを第一におき、指導者であればこそ、一歩下がってその方を大切にお話を聞くことに徹している。指導者だからと頭ごなしに決め付ける話し方は絶対にしない。
- ◎ ステップ参加を中心に皆で仲良くなり、ランチを計画中。ヨーロッパなど、音楽ゆかりの地と一緒に旅行したい。



E p i l o g u e

あとがき

「2007年問題」という言葉がよく耳にされる昨今。経済面で持ち出される話題だが、それには私たちピアノ指導者も無関係ではない。「学ぶ」意識の高い大人が多いと言われる現代、新たにピアノを習い始める大人、子どもの頃、途中で投げ出してしまったピアノにもう一度向き合おうとする大人、様々な目的を持ってピアノに取り組む大人は増えてくるであろう。それは私たちにとってのチャンスであるし、この状況に対応できるよう今一度グランミュージズ指導について再考したいところである。

今回は、年齢層別に考察し、とにかく音楽に対して真剣勝負、本物を求める学生・社会人のグランミュージズ層と、音楽を通じて仲間をつくり、社会との接点を見出していく実年のグランミュージズ層という姿が見えた。個人個人に対するきめ細やかな対応が求められるだけに難しいグランミュージズ指導、模索中の先生方も多いと思うが、今回の特集での紹介が少しでもその一助になれば幸いである。そして、新たにレッスン室に吹き込まれる彼らの音楽への熱意を通じて、私たちも今一度音楽の魅力を再確認したいところである。

特集2

## 中級指導のノウハウ

# ピアノを弾くからだ

4月22日(日) 東邦音楽大学第一講堂において、ピティナ・ピアノ指導者セミナー vol. 32が開催された。黒河 好子先生による「ピアノを弾くからだ」では、ピアノという楽器の特徴を踏まえた上で、ピアノを弾く際の様々な体の使い方を話頂いた。



黒河 好子先生

社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員

ピアノの駄目な奏法というのはありませんが、ピアノの機能や体の機能を知っておかないと指導することができません。

### 〔1〕ピアノの機能

ピアノは、弾く前に自分で(調律など)何一つ手を触れることができない楽器ですから、その機能を知っておく必要があります。①音域が広く、子供の時から大人と同じ大きさの楽器で弾きます。②誰でも同じ「ド」の音が出せます。ですから音を出すだけではなく響きなどいろいろなことに神経を使います。③黒鍵と白鍵の高さが違います。普通に弾くと黒鍵の音が早く出てしまいますね。④減衰楽器です。音を出す前が勝負です。⑤ペダルに右足が束縛されます。これは重心という問題につながってきます。⑥座って弾きます。体の仕組みを知り、座った状態で全部の力を出すように工夫しないと、上手に音を出せません。ですから、筋肉が大切になってくるのです。⑦音符が多い分きちんと耳で聴いていないとコントロールができませんから、暗譜します。楽譜に目を使うと、全てを把握できませんね。

### 〔2〕体の機能とその使い方

#### 指～曲げたタッチと伸ばしたタッチ

この2つは機能が違いますから、使い分け定義から始めましょう。

指の形に入るために、椅子に座り、手を乗せるところから体の機能としての問題が起こります。楽な形に置いて始めても、使い物になりません。まず、手を置いて肘をつけてから肘の関節を開けます。肘を開けた状態が意識しないと、「指をちゃんと曲げて」と言っても直りません。ですから、ピアノというのは1つの弾き方だけに則ってできるものではありません。私はよく色にたとえますが、赤に白をどのくらい混ぜるとピンクになるか、どのようなピンクにするのか、大切なのは混ぜ方であり、混ぜることは本人がやることであって混ぜるべき色を教えてあげなければならないのです。

#### ◎曲げたタッチ

私は小さい時に玉子を1つ入れる形と教えてもらいましたが、実はこれはおかしいのです。曲げた形で何をしたいのか、1つ1つの音をはっ

きりさせたいということを教えなければいけません。指を曲げれば、力やスピード、すべてが効率よくかかります。その形は人によって違うので、良い形を見つけることが大切です。基本を知っていれば、成長するにつれて形を変えていくことができます。このタッチを作るために2、3、4の指は面積の一番少ない所を乗せると、1と5の指は端があたります。親指は関節が2つしかないで端で弾いても構いませんが、小指は端で弾くととても困ります。両端の指を端で弾くと、手の甲が落ちやすくなってしまいます。要するに、マイナスとマイナスの関係になってしまうのです。それをプラスとマイナスに直すのが手首です。

指を曲げたタッチは打鍵と離鍵の2種類からなります。これを意識しないと押しているだけになってしまいます。このタッチにはスピードとの関係があります。打鍵を重視するとタッチが重くなり、離鍵を重視すると軽くなります。その度合いは音楽によって決まりますから、打鍵と離鍵のどちらを重視するかということが重要な問題となるのです。

#### ◎伸ばしたタッチ

音が軽くなり、1つ1つの音というよりもフレーズ感で弾く形になります。ですから、リストやショパンを弾く時、フレーズが大切になる時に使います。これはただ伸ばして弾くだけではなく、関節で振り下ろすということになります。指先から振り下ろすのです。

このタッチは打鍵と離鍵ではなく、バネのように「ボン!」とはねる反動です。打鍵と離鍵の2つの動作を1つの動作でやり、とても速くなるのが特徴です。このタッチは手首や関節を自由自在に使えるので、指の感触や体の機能がつけやすくなります。そのため、指を曲げてがちりと弾く古典派に対して、ロマン派以降、とてもロマンティックで速いものにおすすめです。

### 各指の特徴

各指にはそれぞれ特徴があり、その特徴を知っていなければなりません。5本の指は1対4に分かれています。

#### ◎1の指

親指を意識せずに弾くと、ターンの所で大きくなってしまいます。弾くということが一番苦手な指なのです。そし

て、関節が2つあるため、ピアノを弾く時には同じ所が当たるように内側を向かなければなりません。外側を向くと、重心をかけて太い音を出しやすいため、そのような機能として単音で使うことはあります。

#### ◎2の指

腕からつながっており、格好をつけやすい指です。ショパンのフレーズの終わりなどよく2の指で終わらせますね。指を曲げた時に弱い音をコントロールしやすい指でもあります。ところが、一番高く上がるために、油断していると音が飛び出しやすくなります。音の強さは高さやスピードによって決まるからです。このように、ぶっきらぼうになりやすいため注意が必要です。

#### ◎3の指

中間にあるためにどうしてもなく、ある意味一番使われていないために日頃からトレーニングされていないと、コントロールがとても苦手です。3の指が支えきれていないから4、5がこけるということも多いです。トレーニングの1つとして、ゆっくり降ろしてゆっくり離すということがとても大切です。3を鍛えれば他の指も上手くなります。

#### ◎4の指

とても重要な指で、曲げたタッチの時に2の代わりとしてデリケートな指となります。

#### ◎5の指

握る筋肉、物を掴む指として一番強く重要な指です。手を握る際、5を外して握ると入れて握るとでは力の入り具合が全然違いますね。フレーズの最後をおさめる時等、5を使います。和音を弾く時にも5でしめれば、音がしっかりとします。5は活用できる強い指なのです。

更に、5と4というのはピアノを弾く人にとってとても重要な指です。5を曲げると4がついてきますが、4を曲げても5はついてこないからです。

#### ◎指の方向性

指は東西南北あらゆる角度で音を作ることが



できます。「良い音を出して」と言いますが、そのためには上から落す、手前に引く、向こうへ滑らせる等工夫が必要です。筋肉は外側へ使うと柔らかい音が、内側へ使うと硬い音が出ます。アフター・タッチが大切で、鍵盤を上げる最後のカクンとなる所に気をつけると良い音が出ます。鍵盤は場所によって、抵抗がない、少しある、すごくある、と重さが違います。これもピアノの機能ですね。指の方向性は、鍵盤の3層を上手に使うためにあります。ですから、どのくらいの割合で弾きたいか、おさめたいかによって方向性ができてきます。この方向性は、指だけではなくて体、筋肉のことも関わってきます。

### ◎「音楽を支える」指使い

まず、指を曲げたタッチ、伸ばしたタッチのどちらのためのものかにより大きく変わってきます。版によって全然違いますね。ショパンでは兎に角4が多いことがあります。あれは手首で弾いているのです。このように、指使いはどのように弾きたいかによって変わります。例えば、私の好きなポリーニは、モーツァルトなどの古典派ではターンをなるべく意識しないように4、5はあまり使いません。普通なら4をバネにします。

指使いを決める時、一番大事なことは何で弾きたいかによって逆算すること、始まりの音と最後の音です。それから、手の仕組みもあります。というのは、黒鍵と白鍵は長さが違いますからどこで弾くかによっても違います。白鍵の内側で弾かなければいけないような時に、白鍵と同じように考えて弾くとミス・タッチをします。「ドレミファソ」と弾いてそのまま真っ直ぐ黒鍵の方へずらすと、3と4の位置が変わるはずですが、また、ピアノによっても鍵盤の間隔が違います。スタンウェイとヤマハでは違うのです。

### ◎手首と肘の関節

手首を横にスライドして足りない指の長さを補うと、音が転びません。コントロール・タワーのような役割があります。手首は弾く前、または弾くと同時に使います。

肘は、フレーズを作る時、和音を弾く際に、弾くと同時、または弾いた後に使います。次のフレーズを弾くために持っていくのです。ただこれだけでは和音の音が揃いません。これも、指の個性の問題からきていますね。2と3は揃っても1が入ると揃わないので、1と2を同時に掴む



ように使うと、きちんときまります。ですから、指や関節の問題は交差しているのです。

### ペダル～重心のかけ方

指と同様に様々な問題があります。いろいろな踏み方がありますが、浅く踏むことが多いです。私の経験では、ペダルを下まで踏むということは減多になく、ベートーヴェンのsf或いはアクセントを付けるため、ブラームスの和音の時くらいです。ペダルとして、響きとして使う時はそれほど下まで深く踏まないことが多いのです。

実を言いますと、私は、筋肉、体の姿勢を工夫しています。特に女性は重心をかけて弾くために、体重をかけます。それで、靴に滑り止めを付けたことがあります。ところが、ペダルが踏めません。ということは、ペダルを踏む時には微妙に足を滑らせているのです。家で弾く時は靴を履いていませんね。それで気がついたのがペダルの研究の始まりです。つまり、ペダルは踏むということを重視します。先程のsfやアクセントのペダルでは体が同じ方向へ動きますが、良い音を出すペダルの時はこのような動きをしません。ペダルも打鍵と同じで上げる時が大切です。離す時に、上下だけの動きではないということです。ショパンなど曲線の動きで踏むと、深く踏むことも避けることができます。また、ペダルが濁ると言いますが、細かく踏みたい時、トレモロのように踏んでペダルに必死という感じになってしまいますね。女性はヒールを履きますから男性と若干違いますが、足のどこに重心をかけるかということが大切です。かかとかかかっている人がいますが、細かく踏むためには重心を足の先へ移動させると踏みやすくなります。ですから、ペダルの使い方も筋肉につながってきます。

ペダルを踏む時にもう1つ注意して頂きたいのは、座ることにより体が離れてしまうと使えなくなるということです。子供のペダルが下手というのはここに理由があります。足がやっと届いたばかりで体を参加させられないのです。そのような時には右足を少し上げて90度になるようにします。

右足はペダルに束縛されています。左足は指と同じ方向に重心をかけます。意識を持って動かすと変わります。前に行くのと体の動きが参加し難くなりますから、指だけで弾くことになります。これには、重心を先にするものと踵にするもの、この中間があります。重心を後ろへさげていくと体が前へ行き、使いやすくなります。横へ行くと上半身を動かしやすくなります。この3つをプラス・アルファで上手く使います。

## 上半身の使い方

### ◎背筋(腰)

体は曲げると使いやすく、背筋を伸ばすと足も体も固定されますから動かし難くなります。このような固定は、腕が動かしやすくなります。姿勢が良い時は良い音が出るといいですが、それは本当で、良い姿勢は腕を重視しているのです。腕の重みにも手の甲、前腕、腕全体の3種類があります。良い音、しまった音を出したい時に、手の甲の重みだけを乗せても音はしまります。前腕の重みを使うのは出発の音だけです。姿勢がいい場合、響きが上にいきます。その時、脱力で下へ行く腕と同時に、背筋が支えながら上へ引っ張っていくものがあります。そのため、筋肉が大切なのです。

### ◎顔の表情と頭

指が回る機能は闊舌のよいアナウンサーのようなものですが、それだけでは表現力のある演奏とはいえません。例えば、にらむような表情をして弾くと首の筋肉がしまり、きつい音になります。眉毛も音と音とのタイミングをとるために使うことがあります。目と眉毛を動かすことは、筋肉を動かすことにつながります。口をしめても筋肉がしまり、口を動かすと腹筋が変わります。顔の表情をつければ表情のついた音になりますから、そこから始めて指や腕の動きに変えていきます。

顎を引くと息が止まったようになり、深刻な音になります。先程のしかめ面と違い目を使わないため、自分の音を聴くことができます。音は「ソ、ラ、シ」と聴いてはいけません。次の音を想像し、音と音との間を聴くのです。音と音との間にすべてがあります。筋肉は音と音との間に使い、音に使ってはいけません。

頭は、絶対に手と同じ方向に振ってはいけません。よく足でテンポをとる生徒がいますが、遅れてしまうのでやってはいけません。リズムをとる時には、腰か頭でとります。私たち日本人は一拍子民族なので、ヨーロッパ諸国の方々のような三拍子民族ではないために、テンポ感、リズムをとるというのが苦手な傾向にあります。テンポはメトロノームのテンポとは違い音楽、円運動で、指揮者と同じです。よく頭を振ってカウントをするピアニストがいますが、弾いている時に空いているのが頭なのです。

### ◎呼吸法

筋肉を動かすのは呼吸です。呼吸を間違えると、今まで言ったことが全部水の泡となります。硬い音を出すためには息を止めます。自分が吸って弾いているのか、吐いて弾いているのか、意識したことがありますか？大体にして、筋肉は外へいけなければいけほど体が楽になります。解放する柔らかい筋肉は吐いています。内側へ行く方が難しいです。だから、スケールを上手に弾くために、上行は左手を、下行は右手を意識するのです。この筋肉の運動の機能がわかれば、不揃いを直すことが単に練習することではなくなります。

筋肉はとても込み合っているため、料理の調味料と同じようにどれをどのくらい使うかということが大切です。私がお話したことは、こういう風になると良いという道具です。道具がなくても天才は弾けてしまいます。大切なのは音楽性で、これは教えるのがとても難しいのです。ある程度の技術を持ってきたら、この音楽性も絡め合わせ1つとなって成長していったほしいと思っています。

# ピティナ・ピアノセミナー制度が リニューアル

## セミナー受講をより有意義な体験に

全国各地の開催数が年々増え続けているピティナ・ピアノセミナー\*。そのテーマが音楽史、ピアノ奏法/指導法、ソルフェージュ、アンサンブル、ポップス、アナリーゼなど、多方面に広がりを見せている中、指導者の方々の継続的な向上意欲をサポートするため、数々の新制度を導入することが決定しました。\*「ピティナ・ピアノセミナー」とは、ピティナの支部・連絡所・ステーションが主催/共済している講座の名称です。

### レポート制度、全国で実施中!



リニューアルの皮切りとなったのが、**レポート提出制度**です。受講者の先生方に感想、印象に残ったこと、今後活かしたいと思った点などを、レポート形式にまとめて講座当日にご提出いただくというこのシステム。すでに5月から数々の地区で実施されている、講座後の感想や感動の声、今後への意気込みなどを綴ったレポートが続々と寄せられています。

当日提出されたレポートは、講師の先生のサインをいただいた後、本部より返送いたしますので、ご自分の受講記録として保管いただけます。

### 「講師・受講者間の双方向 コミュニケーション」に向けて

すでにご自身の講座でレポートシステムを何度も実施され、今回の新制度導入を推進しているステーション育成委員会の副委員長を務める池川礼子先生に、レポート提出の意義とメリットについてお伺いしました。

「セミナーレポートの導入は、講師と参加者両方に非常に大きなメリットがあると思います。講座に参加される方は、その時は一生懸命聞いていても、結局は受けっぱなしになってしまうことが多いのではないのでしょうか。しかし、受講後すぐに自分が感じたことをレポートにまとめあげることで、当日学んだ内容を頭の中で整理し、今後の糧にするための再確認ができます。講師の先生は、ご自分の講座の中で参加者がどういった点に共感し、反応を示したかを知ることによって次回の講座に活かすことができるので、セミナーが一方通行なレクチャーで終わらず、講師と受講者間のコミュニケーションが成立するのです。今回、いくつかのセミナーで受講者の方々に実験的にご協力を呼びかけてみたところ、ほぼ全員が非常に内容の充実したレポートを提出くださり、驚きました。セミナー全体の活性化のためにも、是非積極的に続けていきたいと思っています。」(池川礼子先生)



## パスポートや受講証書発行、指導者ポイント授与も

また、「ステップ参加に参加する生徒だけでなく、自分達にもパスポートが欲しい!」という会員の先生方の声を受けて、ピティナ・ピアノセミナーの受講者には**指導者パスポート**が無料で発行されるという特典も実現しました。セミナー当日に会場にて配布される**受講シール**を貼付することで受講記録の管理が出来る他、生徒のコンペ・ステップ参加記録用ページやメモスペースを利用してご自身の指導記録としてお使いください。

更に、セミナーレポートを1回提出いただくごとに**指導者ポイント**に反映され、10回以上の方にはお名前入りの**受講証書**も発行。加えて、あらかじめ指定されたピティナ・ピアノセミナーを受講された方は、「**ピティナ・ピアノ指導者検定初級・中級第2課程**」にもエントリーが可能ですので、東京で実施される指導セミナーを受けに来ることが難しかった方々にとっても利点となるはずです

これまで「ただ受講するだけ」だったかもしれないセミナーを、より一層有意義な体験にしていきたい、との思いから実現した今回のリニューアル。是非ご利用ください!



### レポートの紹介

これまで寄せられた数多くの受講レポートの中から、いくつかをご紹介します。他にもレポートはウェブに随時掲載しておりますので、他の受講者の感想を知るためや、今後の受講やご自分のレポート執筆の参考になどに、是非ご覧ください。  
([www.piano.or.jp/blog/seminarnews/02/](http://www.piano.or.jp/blog/seminarnews/02/))

#### 5/21 神戸:

##### 「ピアノ構造から見た正しいタッチ」長谷川淳先生

・ハイフィンガーの不利な点、そしてフィンガータッチ、アームタッチ、ハンドタッチの3種類は学んでおりましたが、こんなにいろいろなタッチが使分けられていることを知る機会もなく、大変勉強になりました。

単に打鍵のスピードだけでなく、指先のいろんな角度、力の入れ方、抜き方が重要なポイントであることを改めて感じました。「脱力(抜いて)、指先でいれる」ことをあまり簡単に生徒に教えてはいけないことも痛感しました。いろいろな種類なタッチを自分なりに復習し、少しでもいい音色が出せて、また生徒にも伝えていけるようにしたいと思います。(和田真紀先生)

#### 6/28 南浦和:

##### 「バッハインベンションの指導ポイント」池川礼子先生

・バッハの序文から人柄、時代背景などを、しっかりと印象に残るように生徒に伝えるような指導をしなければいけないと思いました。指導する曲順についてとても悩んでいたけれど、いかに勉強不足名状態で指導してしまっているかが、はっきり反省でき、分析もまず自分が書いてみることを、さっそく実行しなければと思います。バッハがもとは63曲ほど書いていたこと

から始まり、全く知らないことばかりで全てがとても興味深く聞きました。とくに「音楽の修辭学」は知ってはいけないうえ、と感じ、今日の資料をスタートとして、まずバッハ15曲の分析を書き、ポイントをまとめなければと思います。そして、早速生徒にもレッスンで分析を書かせてみたいですね。小3の生徒さんが書いた分析の楽譜や、バッハが1720年に作曲した頃から考察する学ぶポイントなど、講座資料もとても充実していたので、ずっと参考にさせていただきます。

(中野昌子先生)

#### 6/4 広島:

##### 「年齢に応じたやる気を引き出すには」江夏範明先生

・先生の巧みな話術、豊富なボキャブラリーで楽しく聞かせていただきました。「先生に魅力がないといけないうえ」「生徒のせいにならない」。厳しい言葉にドキリ。話を聞いているうちに、先生は生徒のことをどれだけ真剣に、大事に思っていていかなければならないかを感じました。そのために、まず先生自身が自分をよく知り、その魅力を最大に活かしたキャラクター作りをしていくなかで、生徒に対して「ステキな先生」となっていかなければならないと思いました。

あと一つ感動したのは、「音楽はお客様のために」という精神を忘れないということ。ステージマナー、服装も含めて、お客様のためによくしていこうとしていく姿勢が大切だと思った。また、「先生が咲きに」とお手本の曲を弾いて、逆に生徒の芽をつみとってしまうことのないように、生徒が先生を超えていくような指導でないといけない、という言葉も心に残りました。(橋本直子先生)

# ピティナ・ピアノセミナー概要

「ピティナ・ピアノセミナー」とは、社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)の支部・連絡所・ステーションが主催/共催している講座で、全国のピアノ指導者を対象に、継続的な指導力研鑽を支援しています。2007年度より、希望者には、「セミナーレポート」提出に伴うポイント付与、「受講証書」および「ピティナ会員手帳」の発行をしております。

## ピティナ・ピアノセミナーの特徴

### ①指導者パスポート

- ・受講者には、当日会場にて「受講証シール」が配布されます。
- ・「受講証シール」を「ピティナ会員手帳」に貼付することで、セミナー受講記録として活用できます。
- ・「ピティナ会員手帳」は、ピティナ会員で初受講の方に、無料にて配布します。

### ②受講レポート

- ・セミナーの時間内で「セミナーレポート」を執筆する時間(10分程度)を設けています。
- ・「セミナーレポート」には、①セミナーの概要②受講の感想・意見を記載します。
- ・「セミナーレポート」は、希望者には、講師にサインをしていただいた後、返却されますので、貴重な研修資料として保管できます。
- ・「受講レポート」の提出者には、1ポイントが付与されます。

### ③受講証書

- ・セミナーレポートを合計10回・25回・50回提出いただいた方には、「ピティナ・ピアノセミナー受講証書」を発行します。

### ④指導者賞

- ・「セミナーレポート」によるポイントは、年間最大20ポイントまでが、ピティナ指導者賞のポイント対象となります。

### ⑤指導者検定

- ・「ピティナ・ピアノ指導者検定」の「第2課程(指導者セミナー)受講」にも振り替えが可能です。詳しくは「ピティナ・ピアノ指導者検定要項」をご覧ください。



指導者パスポート



受講レポート



受講証書

## 2 申込から受講後の流れ

### 受講日前日まで

#### 1. 受講申込み

チラシ掲載の受講申込書にてお申込ください。ピティナ・ピアノホームページ(<http://www.piano.or.jp>)からも受講申込が可能です。

### 受講日当日

#### 2. セミナー受講

受講日当日、会場にて、「指導者パスポート」(初受講者のピティナ会員のみ)、「受講証シール」「セミナーレポート用紙」を配布します。

#### 3. レポート提出

受講後、受付にてセミナーレポートを提出ください。やむをえず講座終了後に提出ができなかった場合は、講座当日中でしたらFAX(03-3944-8838)にて本部でレポートをお受付することも可能です。(尚この場合はレポートの返送はございません)

### 受講後1ヶ月以内

#### 4. レポート返却

返却希望者には、提出されたレポートは、講師にサインをしていただいた後、返却先にピティナ本部より郵送にて返却します。

※「ピティナ・ピアノセミナー」に関する詳細は、ピティナ・ホームページをご覧ください。ご不明な点等は、本部事務局まで直接お問い合わせ下さい。

社団法人全日本ピアノ指導者協会 (略称ピティナ)  
〒170-8458 東京都豊島区巢鴨1-15-1  
TEL: 03-3944-1583 / FAX: 03-3944-8838  
E-mail: seminar@piano.or.jp

[www.piano.or.jp/seminar](http://www.piano.or.jp/seminar)



# アドバイザーは手で語る

書くメッセージ、弾くメッセージ

## 國谷尊之先生

東邦音大講師、当協会評議員、  
ピティナ練馬あおぞらステーション代表



▲國谷先生の手。長い指をし  
ていらっします。

ステップでいまやおなじみとなった人気企画、アドバイザーによるトークコンサート。ステップを「弾く」機会だけではなく、プロの演奏を「聴く」機会としても体験できるようにしようと2002年から本格的にはじまったトークコンサートは、今では年間70地区(2006年度実績)で行われるようになりました。その先駆者とも言える國谷尊之先生。トークコンサートで絶大な好評を得ている國谷尊之先生に、その人気の秘密をさぐってみたいとインタビューしました。

### お父さんを味方につける

——トークコンサートの会場の雰囲気は先生はどのようにとらえていますか？

まず観客がステップ参加の子供たち、またはその親御さんということもあって、トークコンサートへの参加意識が高いですね。当然、演奏に対する反応が鋭いので、お互いのコミュニケーションがとりやすいと感じます。演奏中に前列の子どものコメントが聞こえてきたり、演奏後に子どもから手紙をもらったり。演奏後にロビーに座っていると「久しぶりにコンサートというものを聞きました」と参加者のお父さんから声をかけられることもあります。

——ステップのトークコンサートは、お父さんがコンサートを聞く機会にもなるのですよね。

そうなんです。お父さんということ言うと、私のト

ークコンサートでは、ソロのほかにも、お父さんにステージ上にあがってもらってオスティナートだけ担当していただき私と連弾をするコーナーも時々行います。お父さんにとっても新鮮な機会だと思いますし、家庭の中でやはりお父さんを音楽に引き込み、味方につけることは重要です。「なんだ、子どもの習っているピアノは意外とおもしろいじゃないか」なんてね。

### 作品できたての感動を

——國谷先生ご自身では、トークコンサートの内容、例えば選曲や演奏中のトークについて工夫されていることはありますか？

トークコンサートは15分、長くても30分という限られた時間で行います。そこで作曲家シリーズ、名曲シリーズなど希望に応じてテーマを絞って選曲します。特に紹介したいのは、難解ではないけれどそんなに知られていない良い曲。たとえばシベリウスなどは子供はあま

り知らなかったりします。あとは、叙情的だったり、リズムが生きている曲だったり、華やかな奏法があったり、子供たちの印象に残る曲を選ぶこともあります。

トークについては、やはり曲の背景を伝えることでその作品のイメージを深めて、より興味をもってほしいと思っています。曲のエピソードでよくお話しするのは、その作品ができたときの「誕生秘話」ですね。例えば、「ショパンのあの有名な変ホ長調のノクターンはショパンがシューマン宅に遊び

に行ったとき、できたてほやほやの状態で弾いたらしい」とか。クラシック作品というのは、その名のおり「昔の遺物」だと思われがちですが、勿論それはその当時にとっては最先端だったわけで、その「できたての瑞々しさや感動」というものを伝えたいと思っています。

## トークコンサートの力

—— 國谷先生はご自身のリサイタル、アンサンブルのコンサートなど様々な演奏活動を行っておられますが、トークコンサートは國谷先生にとってどのような位置づけなのでしょう？

トークコンサートは、私にとっては、本質的なコンサートのひとつと言えます。それは、子どもたちが音楽を聴ききっかけをつかむためのものであり、音楽の入り口に立った子どもたちを引き込むきっかけになればと思っています。言わば、'音楽普及活動'といったところでしょうか。一方、リサイタルでは、今自分が興味を抱いている曲目を中心に、組み立てます。それは'実験的要素'を含みます。トークコンサートとリサイタル、私にとってはどちらが欠けてもいけない、どちらも大切な活動です。それは全く性格、目的の異なるものですが、どちらもそれぞれの「場」に必要なことを提供するという点では同じです。

またよく言われることではありますが、演奏会という



▲軽妙なトークも人気の國谷先生(5/19 一宮ステップにて)

のは、まだまだマーケットとして成り立っていないですよね。マーケットが成熟していくには、もっとたくさんの方に演奏会に来ていただく必要があります。その聴衆を育てるために、ステップのトークコンサートは大きな力を持っているのではないのでしょうか。トークコンサートの素晴らしい点は、全国的な規模で、複数のアドバイザーで広く隔々まで実施することができることです。私もその活動の一端を担いたいと思いますし、それこそが私の役割だと考えています。

—— ありがとうございます。今秋も各地のステップで國谷先生のトークコンサートが予定されていますね。楽しみにしています。

### ステップトークコンサートの最新情報は こちらでチェック

[www.piano.or.jp/blog/stepconcert/index.html](http://www.piano.or.jp/blog/stepconcert/index.html)

Information

### 今後の予定

#### ◎國谷先生のステップトークコンサート予定

- ・ 11/4 川口 (埼玉県) 川口ステーション  
会場: 川口総合文化センター リリア催し広場
- ・ 11/25 岸和田 (大阪府) いずみステーション  
会場: 岸和田市立浪切小ホール
- ・ 12/2 伊那 (長野県) 伊那ステーション  
会場: かんてんばばホール

#### ◎國谷先生のリサイタル予定

- 薔の会 vol.12 「Z. コダーイ ~音楽のみなかみ~」  
~ Z. コダーイ作品を中心としたソロと室内楽  
日時: 2007年9月10日(月) 19:00 開演  
会場: ムジカーザ (小田急線・東京メトロ千代田線  
代々木上原駅下車 徒歩 3分)

#### ◎國谷先生のホームページはこちら

<http://www.5b.biglobe.ne.jp/~alvento/>

# 学校を地域密着型の ステーション活動の1つの軸に

「今年松戸ステップの立ち上げにあわせて、学校クラスコンサートも活動の一環としてやっていきたい」と電話をくださったのは、松戸コアラの森ステーション代表の江本純子先生。ステーションメンバーより協力者を募り、教育委員会へ足を運び、内容を練って…と、自分たちならではのクラスコンサートづくりが始まった。

## 地域やクラスコンサートアーティストとの連携

「松戸の地域に密着した活動をしていきたいと思っていたところ、学校クラスコンサートを行っている佐藤展子さんとお会いする機会に恵まれ、生徒たちの様子や演奏者側のやりがいを伺い、ぜひ自分たちも行いたいと思いました。松戸でのクラスコンサートは初めてでしたので、市議会議員の杉山よしひろ氏のご協力のもと松戸市の教育委員会へ足を運び、ピティナ船橋支部の力強いサポートのもと実現に至りました。」(江本純子先生)

そして、ステーションの大島彩子先生とのピアノデュオで、まずは二人の地元や母校を含む、松戸市立北部小学校(6/12、19)、牧野原小学校(7/17)、新松戸南小学校(10/2)の3校で実施することになった。

「まずプログラムを考える際に、45分の授業で最後ま

で楽しく聴いてもらえるよう、連弾・ソロ・ボディパーカッション・生徒たちとの合唱共演を組み込んでみました。コンサート前には実際に佐藤展子さんのクラスコンサートを見学させていただき、雰囲気や肌で実感し、イメージが具体的になってきました。時間配分、曲や楽器の説明、クイズや言葉を考え、何度も想像や実演をして当日に臨みました。」(江本先生)

## 1校目、北部小クラスコンサート

12日、初めてのクラスコンサート。音楽室に行くと、椅子を準備してくれている5年生たちが目を輝かせながら「練習を聴いていてもいいですか?」とピアノの周りに集まってきた。今回の対象は4年生なのだが、手伝ってくれた子たちのために、アンコールに用意していたルパン三世の連弾を披露。「うわーっ!かっこいい!」と歓声があがる。5年生の子どもたちによって緊張がほぐれたところで廊下を見ると、4年生が楽譜を胸に、今か今かと並んで待っていた。

最初は「花のワルツ」の連弾。「ワルツってどんな踊りかわかる?」と、足踏みする子を連れ出し「1, 2, 3…」と少しステップを踏んでみる。「こんな感じのリズムにのって、聴いてみてください。」と、ピアノで夢の世界へ。「連弾」をあまり見る機会がないという子どもたちに、「手は両手で弾いていたけど、足のペダルはどっちが踏んでた?」「2人で一緒に弾く時には、息を合わせなきゃいけないし、バランスも大事。みんなが合唱や合奏する時に似ているね。」とお話しました。

▼▶花のワルツの連弾。  
ワルツってこう踊るのよ。





▲ボディパーカッションのデモンストレーション。さあ次は皆の番!

続いてそれぞれがモーツァルトの「トルコ行進曲」とショパンの「幻想即興曲」のソロ演奏。ピアノの周りに集まって演奏を“見る”子どもたち。「今のトルコ

行進曲では、ダン、ダン、ダンダンダン、というリズムが流れていたよね。」と手拍子をさせ、それにのせてモーツァルトのトルコマーチ、ベートーヴェンのトルコマーチ…とツアーしてみせた。

ボディパーカッションでは、ステーションの伊川芳恵先生と杉山真弥先生の協力のもと、4名で手拍子、ひざ打ち、指ならし、口笛、そして「シッ」という息のような声とを織り交ぜて、身体全体でリズムを表すデモンストレーション。今誰からどんな音が出るのか?隣の人にリズムが移った!?など、食い入るように見る。今度は子どもたちが4パートにわかれて手拍子と足踏みでリズムのリレー演奏。他のパートにつられないように、一所懸命リズムをたたいた。

「何より心に残ったのが共演の合唱です。伴奏をしながら、生徒の歌声を聴いていると、涙が流れました。本当に心をこめて歌ってくれたので、合唱の迫力にあらためて感動しました。」と江本先生。アンコールの「ルパン三世」では、リズムによって手拍子で盛り上がった。

## 1回の授業で終わらない魅力

噂をききつけた5、6年生から「私たちも聴きたい!」とのリクエストがあり、お昼休みに追加公演のプレゼント。12日には5年生、19日には6年生がぞくぞくと音楽室に集まり、2人をぐるっと囲んで連弾2曲を鑑賞、熱烈な拍手。お礼に贈ってくれた合唱も、見学者から思わず「ブラボー!」が出るほど感動的なものだった。

「演奏をして生徒たちと直接音楽で接することができたことが嬉しく、とても幸せな時を過ごせました。受け答えから子どもたちが純粋で素直な様子を改めて感じ、感想文からは好きな曲がそれぞれ違うこともわかりました。一番



## 松戸市立北部小学校クラスコンサート プログラム

1. チャイコフスキー：花のワルツ（連弾）
2. モーツァルト：トルコ行進曲（ソロ）
3. ショパン：幻想即興曲（ソロ）
4. ボディパーカッション（12日）
5. 児童との共演：ボディパーカッション（12日）
6. フォーレ：スペイン風の踊り（連弾）（19日）
7. 児童との共演：  
合唱（君をのせて、未来みつめて、おおぞらさんか）
8. アンコール / ルパン三世（連弾）



主催：PTNA 松戸アオラの森ステーション  
ピアノ演奏：江本純子 / 大島彩子  
ボディパーカッション共演：伊川芳恵 / 杉山真弥

嬉しかった感想は、「ピアノや音楽は苦手だったけど、楽しいと思った。これから頑張りたい」というものでした。普段ピアノレッスンに通っている生徒は、いつも習っている先生が弾いてくれると、とても喜んでくれました。

このクラスコンサートがきっかけで、北部小や新松戸南小では、学校の開校80周年、30周年の記念式典でのゲスト演奏にも声をかけていただき、新たなつながりもできました。普段生徒を通してしか知らなかった学校の音楽の先生方と、直接交流が持てたのも嬉しいことです。北部小のホームページにも学校クラスコンサートのページが早速作られ、様子がアップされていたのには驚きました。

12月に初回ステップを迎えますが、今後こうした学校クラスコンサートを通して地域の音楽活性化につなげ、ステップに出る生徒やピアノ愛好者が増えていって欲しいと思います。」(江本先生)

# Musse<sup>ミュッセ</sup> で見える楽譜の今

【連載第5回】

## ピティナ会員から生まれたピアノ曲

ピティナが行っている楽譜販売サービス「ミュッセ」。今回は、ミュッセで取扱っている楽譜の中から、ピティナ・ピアノステップや会員の先生の間で生まれた作品をご紹介します。これまで出版が難しかった作品もミュッセではより柔軟に楽譜として残すことが可能。在庫切れの心配がなくいつでもスピーディーに注文していただけます。レッスン現場で生まれたアイデアや、「こんな作品があったらいいな」という思いを形にして、様々な場面で活用してみてもどうでしょうか。

### ピティナで生まれたアンサンブル作品

子どもが気軽に挑戦できる室内楽やコンチェルト作品はまだまだ多くありません。そこで、先生方の手により次のような作品が生まれました！

#### 室内楽

先生方の毎日のレッスンの経験から、子ども達に最適な要素が見事におり込まれています。おなじみの曲が編曲されているので、アンサンブルで演奏すればソロとは違う楽しさを味わうことができるでしょう。

◎稲生勝尋：ピアノトリオ「ゆかいなかじや」「かわせみ」「四羽の白鳥の踊り」「狩」



▲「かわせみ」

◎江崎光世監修・小山和彦編曲トリオで弾くソナチネ：  
(ケーラー、ベートーヴェン、クーラウ、ハスリンガー、ビールの各ソナチネ)

※木管楽器とのアンサンブル。詳細はミュッセ HP へ



▲ケーラーのソナチネ Op.300

◎江崎光世監修・轟千尋編曲トリオで弾くアンサンブルシリーズ (ディアベリ：おもちゃの兵隊、ブルグミュラー：やさしい花、チャイコフスキー：舟歌、ケーラー：ポルカ、ミュラー：スケルツォ) ※木管楽器とのアンサンブル。詳細はミュッセ HP へ

#### コンチェルト

ピティナが97年に委嘱した作品。子どもの小さい手でも弾くことができ、曲想も親しみやすく作曲されています。コンチェルトで参加できるステップも続々登場しています。小さい頃からコンチェルトを演奏することは、貴重な経験になるはずです。

◎久田典子：大きな古時計、小西奈雅子：ロビンフッド・ファンタジー、春畑セロリ：うみへ行こうよ、藤原豊：森森幻想曲、クーラウ (小山和彦編曲)：コンチェルト・レグジェーロ Op.55-3、ブルグミュラー (糞場富美子編曲)：アラベスク

#### 2台ピアノ / 連弾

◎クーラウ (池川礼子編曲)：ソナチネ Op20-1、Op.55-1  
クーラウのソナチネが、先生と生徒で2台で合奏できるように編曲されました。誰もが取り組むこのソナチネも、先生とアンサンブルすることで楽しさも倍増します。

◎江崎光世監修・轟千尋編曲 4手・6手で弾くチェルニー：  
30番練習曲、ブルグミュラー：小さな集会

普段の曲集や練習曲を、連弾でチャレンジ。魅力的なリズム、ノリのいいアレンジがされているので、その曲の新しい魅力が発見できます。



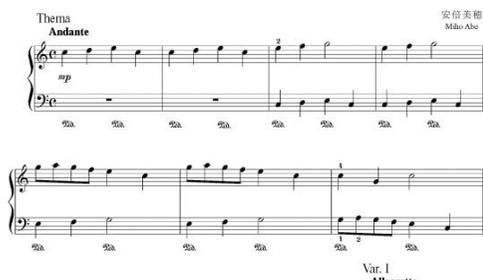
## 現代の作曲家の作品

子どものための優れたピアノ作品が現在もどんどん作曲されています。ミュッセではそれらを積極的に紹介し、子どもたちにも初めて出会うピアノ作品にどんどん取り組んでいてもらいたいと思っています。

### 安倍美穂氏

約 30 曲を販売中。ピティナの新曲課題曲審査でも優秀な成績を残しておられる安倍氏は、自身もピアノ指導を行っています。その経験から、初歩の段階の子ども達にも発表会では弾きばえのする「かっこいい曲」を弾かせてあげたい、という思いで数々の作品を作り出しています。

◎安倍氏の中で人気 No.1 の作品「フレールジャックによる変奏曲」



#### 安倍氏による作品コメント

「起きなさい！」の鐘を聞きながらまた眠ってしまったジャック兄さん。夢の中での活躍が始まります。カノンで始まったテーマが 4 つの変奏を経て、5 番目のフィナーレで華やかに盛り上がります。歯切れのいいリズムが心地いい曲です。ソナチネ程度。ハ長調。演奏時間 2 分。

ミュッセでは海外の楽譜出版社から約 7,000 曲を取り揃えています。ピアノ曲を中心に、室内楽、現代曲など豊富な品揃え。また、より多様な作品を楽譜として紹介し、現代の作品をもっと広めていくため、ミュッセで販売する新しい作品も募集しています。

これまでに、ピティナ会員の先生監修のピアノ学習者向け室内楽や子どもがコンチェルトを経験するために生み出されたコンチェルト作品など、レッスンに取り入れると効果的なオリジナル作品を販売に加えてきました。また、現在活躍している作曲家の作品も積極的に紹介しています。作曲者の方の新しい表現の場として、またピアノ学習者や演奏家により多様な作品に出会うきっかけとなるよう、サービスをすすめてまいります。(お問合せ: 03-3944-1583/ ミュッセ係)

### 小山和彦氏

ピアノ作品を室内楽に編曲した作品のほか、自作曲をミュッセで取扱っています。

◎まどろみの中に "In einem Schummer" fuer Klavier  
2000 年ピティナ・ピアノコンペティションの特級課題曲に選出された作品です。

### 山本雅一氏

組曲「ピアノのために」ほか 4 作品を販売中。作曲や後進の指導に活躍している山本氏の作品は、これまでピティナ・ピアノコンペティション E 級の課題曲にも選出されています。精緻で透明感のある作品に、じっくり向き合ってみてください。

◎組曲「ピアノのために」よりドリーミネス



#### 山本氏による作品コメント

組曲「ピアノのために」の 2 曲目。最初はタイトルの通り「夢うつつ」なワルツだが、次第に違う空間へと迷い込む様な不思議な雰囲気になる。3 分 30 秒。

## Musse

■豊富な楽譜が購入できます  
ミュッセでは、一曲から自由に組合わせてオリジナルの楽譜集を作ることができます。

■価格  
価格は 1 ページ 40 円から。製本代 250 円を廃止し、より便利にお使いいただけるようになりました。(送料は別途加算されます。)

■お支払方法  
カード、代引き、銀行振り込み

■お届け  
約 3~7 日で配送します。



▲ミュッセ紹介サイト  
多くの魅力的な楽譜をコラムを交えてご紹介!  
[www.piano.or.jp/enc1/musse/](http://www.piano.or.jp/enc1/musse/)



▲ミュッセ購入サイト  
こちらが注文画面です  
[www.bookpark.ne.jp/ptna/](http://www.bookpark.ne.jp/ptna/)



さどはら  
知子の

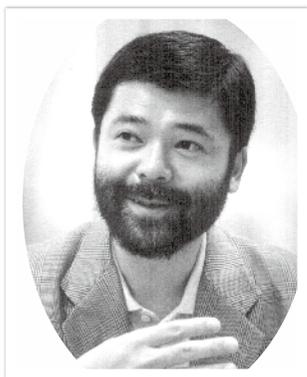
わくわく

[第2回]

# ポピュラー・ガイド

Popular Guide

連載第2回目は、ステップ課題曲でもお馴染みの、130冊を超える教本・曲集を執筆されている作・編曲家、橋本晃一先生にご登場願います。



## 橋本晃一先生

東京芸術大学音楽学部作曲科卒。日本音楽著作権協会正会員。ポピュラー音楽のエッセンスをピアノ教育に生かすべく多数の教本・曲集を執筆。ステップ《教則本課題曲》には「おとなのためのピアノ教本」が、《ポピュラー課題曲》には「やっぱりすぎ!ピアノ教本」「こどもだってジャズ&ロック」「ポピュラーピアノ・レパートリー」(いずれもドレミ楽譜出版社刊) などから多数選出されている。

トレードマークのおひげは、大学生の頃から。肌が弱くて剃刀負けがひどかったからとか。6~7年前からは突然スキーにハマってしまい、国内に留まらず昨年はカナダ、今夏はニュージーランドへと海外にも進出中。ゆくゆくはヘリスキーにも挑戦!?



## 自然に身につくコード奏法

**佐土原** 橋本先生とは、「ポピュラーピアノ講座」や楽譜出版等の仕事を通して随分長くお付き合いさせていただいております。先生が芸大で勉強されていたのはクラシックだと思いますが、ポピュラーは独学で習得されたのですか?

**橋本先生 (以下、橋本)** 習い事としてのピアノは小学5年生で一時中断していたのですが、ちょうど中学の頃フォークソングが流行り、友達がギターでコードを弾くのを、自分はそれをピアノでできないものかといろいろ試みているうちに、自然とコード奏法が身についたみたいです。大学時代は、ポピュラーのアレンジやBGM演奏の仕事もアルバイトとしてやっていました。

**佐土原** そのように自然に身につけられるのは理想ですよ

ね。これから取り組む先生方や生徒さんが、無理なくコード奏法を身につけられるトレーニング法があればご紹介いただけませんか?

**橋本** 僕は「右手でメロディー、左手でベース、その間で適当にコード」を無意識に押さえているのですが、ピアノの先生方を長年教えていて、皆さんにはそういう経験がないことに気がきました。その無意識で行っているものを、順序立てて無理なく習得できるような形にしたものが、「ピアニストのためのコードフォーム完全マスター」です。(譜例1)

## 初~中級アレンジのコツとは?

**佐土原** ハノンなどと同様、何度も繰り返してトレーニングすることが大事ですね。さて、15年ほど前に出版された「おとなのためのピアノ教本」、「やっぱりピアノがすき!」、そ

### 譜例1

#### 1st ポジション



#### 2nd ポジション



#### 3rd ポジション



◆「ピアニストのためのコードフォーム完全マスター」橋本晃一著、ドレミ楽譜出版社刊、1200円(税別)  
コード・ネームを見て、反射的に指が反応できるようになるための練習課題曲集。PART1:トライアド、PART2:セブンス・コード、PART3:コードパターンと発展していき、各練習課題は3段階で進められる。

して「ピアノひけるよ!」などのシリーズは、教則本として今や定番となっていますが、いつも感じるのは先生のアレンジはとにかく譜面が見やすく、弾いてみようと思わせるオーラが出ていますよね。初～中級レベルのアレンジで特に気をつけていらっしゃる点は何でしょうか?

**橋本** 1. 対象者に合わせた選曲、2. 指使い(指くぐりやポジション移動)、3. ペダルの表示、4. 対象者に合わせた見やすさなどに配慮しています。ペダルは先生方は無意識に入れているのですが、初心者はそうはいかない。どこにどのくらい入れるのかハッキリわかるように表示しています。また、片手が何か難しいことをしている場合は、原則としてもう片方は易しくすることも大事です。幼児用の楽譜は絵本のイメージで、シニア世代用は目にやさしく拡大コピーをしなくてもそのまま使えるような音符の大きさも心がけています。譜めくりの位置やスラー、強弱記号、その他細かい目に見えないような配慮も、弾きやすさとして伝わっているようです。

## 演奏する際のポイント

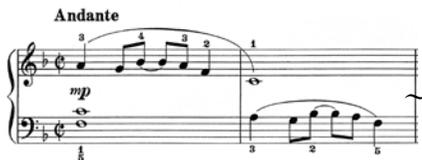
**佐土原** 手抜きをしないプロの技はさすがです!これらの曲を実際演奏する際のポイントをアドバイスいただけませんか?

**橋本** では、ステップでも多く演奏していただいているとのこと、[ホール・ニュー・ワールド]について一言ですが挙げておきましょう。(譜例2・3)

**佐土原** バックにビートを感じて弾くということですね。さて、先生にはポピュラーステップでのアドバイザーも快くお引き受けいただいて、今秋(11/11 文京ポピュラー)で4回目となりますが、何かお感じになられていることはありませんか?

**橋本** どの方も、その曲に対するイメージや思い入れがはっきりしていて、大変聴き応えがあります。人に聴いてもらうのは上達のために大切なことですから、今後もこういう機会をたくさん持っていただきたいと思いますね。

### 譜例 2



この曲は2分の2拍子ですから、1小節を「1と2と」とゆったり感じるのが基本です。ただ、メロディのシンコペーションのリズムを正確なテンポで弾くためには、その最小単位となる8分音符を「タタタタタタ」と1小節に8つ刻む感覚も必要になります。

**佐土原** これからも皆さんが弾いてみたくなる素敵なアレンジをぜひお願いします。きょうはお忙しいところありがとうございました。



文中イラスト: 丹内真弓

## ■ 2005～2006年度ステップポピュラー課題曲選択数 ☆は橋本先生のアレンジ

| 順位  | ステップレベル | 曲名(選択回数)             |
|-----|---------|----------------------|
| ☆1位 | 応用1     | 「ホール・ニュー・ワールド」(208回) |
| ☆2位 | 応用2     | 「美女と野獣」(151回)        |
| 3位  | 基礎3     | 「いつも何度でも」(122回)      |
| ☆4位 | 基礎1     | 「おもいでアルバム」(119回)     |
| ☆5位 | 基礎5     | 「星に願いを」(116回)        |
| ☆6位 | 応用3     | 「木洩れ陽の路地」(106回)      |
| 7位  | 基礎2     | 「となりのトトロ」より さんぽ(82回) |
| ☆8位 | 基礎4     | 「いつか王子様が」(80回)       |
| 9位  | 導入3     | 「小さな世界」(74回)         |
| 10位 | 導入1     | 「ミッキーマウス・マーチ」(72回)   |

## 楽譜のご紹介

やっぱりピアノが  
すき! <ブルクミ  
ュラー併用曲集>

■橋本晃一編/ドレミ楽譜出版社  
1000円+税

子どもたちのよく知っている曲ばかり43曲が、ブルクミュラー程度にアレンジされています。ステップ課題曲「ホール・ニュー・ワールド」(応用1)「美女と野獣」(応用2)「木漏れ日の路地」(応用3)も収録。



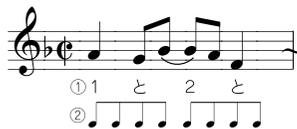
ジャズ・ピアノ・インスト  
ルメンツ(マイナス・ワンCD付)

■橋本晃一編/ドレミ楽譜出版社  
2500円+税

ブルクミュラー程度のアレンジで、本格的なジャズ・スタンダード・ナンバーを楽しめ、CDと合わせればバンド演奏の気分も味わえます。ステップ課題曲「イツ・オンリー・ア・ペーパー・ムーン」(応用2)「サテン・ドール」(応用3)も収録。



### 譜例 3



①は2拍子の感じ方ですが、②のように8分音符を拍(英語でビートの)単位にした場合、1小節に8つのビートがあることになり、これを8(エイト)ビートといいます。8ビートはポピュラー音楽の基本となるリズム感ですから、この曲に限らず他の多くの曲にも応用できます。

# ディアーヌ・アンデルセン先生

(ブリュッセル王立音楽院名誉教授、EPTA ベルギー会長)

*Professor Diane Andersen*

EPTA (European Piano Teachers' Association) ベルギー会長のディアーヌ・アンデルセン先生。指導者・ピアニストとして活動を精力的に行う他、現代作品への造詣も深く、自国作曲家への眼差しも温かい。今年4月の来日インタビューをご紹介します。

—— EPTA 国際コンクールを始めたきっかけを教えてください。

ベルギー国内外の若いピアニストに、目標を持たせ、ステージで弾く機会を与えるために設立しました。予選通過できなかった子のために、審査員によるマスタークラスも中日に行っています。また昨年新設した18～24歳の部(カテゴリー IV)では、バッハと20～21世紀のベルギー作品を予選課題にしましたが、海外からの参加者にも我国の作品に触れて頂く貴重な機会になりました(ベルギー作品優秀演奏賞1,000ユーロ)。コンクールのレベルは高く、国際色も豊かです。今年是世界各国から計56名の参加があり、23名がこのカテゴリー IVの参加者でした。

—— 自国の作曲家を課題曲に入れるのは、良いですね。ピティナでも、初回から邦人作品を課題曲に入れています。

作曲家、聴衆にとっても良いことです。自由選曲なので、我々も知らないような若手の作品を選ぶ生徒もいます。将来演奏家となる彼らが、こうした新しい曲に触れておくのは大事なことです。また作曲家自身も、曲が実際に弾かれなければ成長しません。

—— 作曲家への共感、ご自身の体験からでしょうか。

亡くなった主人はハンガリー出身のヴァイオリン奏者で、バルトークと親しく、共演経験もありました。またコダーイは主人の師匠だったので個人的に知っています。私自身はアレクサンダー・タンスマンやルイジ・ノーノなどと親交がありました。また幸運にもブレーズやマデルナなど、有名な指揮者と共演したこともあります。



現代曲はよく演奏・録音していますが、特に20世紀初頭のフランス・ベルギーの作品—ガブリエル・ピエルネや、ジョセフ・ヨンゲンのピアノ曲全曲録音、室内楽も録音しています。また最近では2台ピアノ&2台パーカッションのカルテットを結成し、『マ・メール・ロア』(私人作曲家による編曲)等を演奏しています。結成のきっかけは偶然ですね。私は現代作品が好きなので、「じゃあ一緒にやりましょう!」となったのです。

—— 素晴らしいですね。ではEPTAではどのようなご活動を?

EPTAは1978年カローラ・グリンディア女史により創設されました。当時英国には優れた指導者が少なく、まず指導者を育てることが必要、と彼女は考えたのです。現在この組織は38カ国に拠点を広げていますが、会員同士の繋がりをとても大切にしています。ベルギー人は組織に所属するのがあまり好きではないので会員は少ないですが、オランダには1000名ほどいます。EPTAでは毎年会議やコンサートなど様々な活動を行い、今年11月にセルビアで総会を開催予定です。活動的で素晴らしい団体です。

—— ピティナの今後の取り組みとして、日本の聴衆を増やすことができます。ベルギーではいかがでしょうか?

ベルギーには聴衆はいますので、皆が好む企画をすれば人は集まってくれます。でもチラシを配るだけでは広まりません。私は毎年教育会議デーを企画しており、音楽学校と組むことが多いですが、まず学校の校長や先生方にお話させて頂いて、興味を持って下さるよう働きかけをします。いつでも人と人の触れ合い、が大切ですね。

—— ありがとうございます。第8回EPTAピアノコンクール(24歳以下対象)は、11月20日～25日ベルギーにて開催予定。ご興味のある方は下記へ。(email: [Glienard@ulb.ac.be](mailto:Glienard@ulb.ac.be), <http://users.belgacom.net/epta>)



PTNA MEMBERS INFORMATION

会員・後援演奏会情報 8～11月前半

|     |   |   |   |                      |
|-----|---|---|---|----------------------|
| 東京  |    | <p>辻井伸行ピアノリサイタル<br/><b>辻井伸行</b> (Pf.)<br/>8.5[日]<br/>14:00開演<br/>トッパンホール</p>  | <p>■【オール・ドビュッシー・プログラム】<br/>2つのアラバスク/ベルガマスク組曲/子供の韻分/映像 第1集・第2集<br/>■一般¥4500 学生¥2500 (全席指定)<br/>■トッパンホールチケットセンター TEL.03-5840-2222</p>   | 名義<br>後援             |
| 神奈川 |   | <p>第1回横浜ピアノコンクール<br/>優秀賞受賞者による演奏会<br/>8.5[日]<br/>15:00開演<br/>山手ゲーテ座 (岩崎ミュージアム内)</p>                                       | <p>■【出演】2007年5月開催「第1回横浜ピアノコンクール」の優秀賞受賞者:<br/>太田沙耶/安田英主/石村純<br/>■¥2,000 (全席自由)<br/>■岩崎ミュージアム TEL.045-623-2111/E-mail:museum@iwasaki.ac.jp</p>  | 名義<br>後援<br>割引       |
| 東京  |    | <p>ドビュッシー ピアノ作品全曲チクルス第1回<br/><b>金子一郎</b> (Pf.)<br/>8.11[土]<br/>14:00開演<br/>東京文化会館小ホール</p>                                 | <p>■ドビュッシー:ベルガマスク組曲、喜びの島、12の練習曲 他<br/>■全席自由¥2000 (ビティナ会員¥1,500)<br/>■東京文化会館チケットサービス TEL:03-5815-5452<br/>※ビティナ割引専用E-mail:kanekoic@yahoo.co.jp</p>   | 会員<br>名義<br>後援<br>割引 |
| 兵庫  |   | <p>3人のピアノソロと連弾のタベ<br/><b>大竹道哉</b> (Pf.)、<b>大矢牧子</b> (Pf.)<br/><b>野中正</b> (Pf.)<br/>8.11[土]18:00開演<br/>喫茶アマテウス</p>         | <p>■高木東六:水色のワルツ変奏曲、お江戸日本橋変奏曲/ラフマニノフ:ヴォカリーズ/グリーグ:森の静けさ/ドビュッシー:子供の韻分/リスト:ため息、ラ・カンパネラ/ショパン:前奏曲第25番/ドヴォルザーク:スラブ舞曲作品46-6/ブラームス:ハンガリー舞曲第2番、第5番/ショパン:連弾のための序奏と変奏ニ長調/ベートーヴェン:連弾のためのソナタ/プーランク:連弾のためのソナタ/ラフマニノフ:6手連弾のためのロマンス<br/>■¥2,000 (ドリンク付)<br/>■喫茶アマテウス:TEL&amp;FAX.078-371-0605 神戸・元町通り5丁目4-8 三木ビル地下1階</p>               | 会員                   |
| 茨城  |  | <p>つくば朝のサロンコンサート<br/><b>野末あけみ</b> (Vn)、<b>末吉千枝子</b> (Fl)<br/><b>泉對優子</b> (Pf.) 他<br/>8.17[金]10:30～11:30<br/>つくばアルスホール</p> | <p>■モーツァルト:ヴァイオリンソナタKV302 他<br/>■未就学児入場可/¥1,000 (ヴェローチェのコーヒー券付)<br/>■泉對優子 TEL&amp;FAX 029-856-8557<br/>※9/21、10/19、11/16:つくば朝のサロンコンサート(10:30～11:30)<br/>9/16 (日) 18:30～つくばアルスホール 「7th MUSIK-LIEBHABERIN CONCERT」(¥2,000 前売りのみ)</p>  | 会員<br>名義<br>後援       |
| 大阪  |   | <p>MAS コンチェルトシリーズ No.3<br/><b>ピアノ名曲コンチェルト</b><br/>8.18[土]14:00開演<br/>大阪いずみホール</p>   | <p>■指揮:守山俊吾/管弦楽:大阪シンフォニカー交響楽団/ピアノ:ラフィ・ベサリアン/ヴァイオリン:勢川ユリ/ソプラノ:梅谷裕子、西尾有加、嘉祥寺谷優子/メゾソプラノ:末廣孝子/ピアノ:岡さゆり<br/>■ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第3番/シベリウス:ヴァイオリンコンチェルト (ほか)<br/>■入場料¥4,000 (ビティナ会員優待価格¥3,200)<br/>■ミュージック・アート・ステーション TEL.06-6485-0045<br/>E-mail:music_art_station@yahoo.co.jp<br/>※8/11(土)コンチェルトシリーズNo.2、8/18(土)19:00～室内楽あり</p> | 名義<br>後援<br>割引       |
| 福岡  |   | <p>田中ピアノ教室10周年記念<br/><b>コンチェルトコンサート</b><br/>8/19[日]<br/>13:00開演<br/>サンレイクかすや さくらホール</p>                                   | <p>■九州室内管弦楽団指揮:後藤龍伸/ゲスト:佐伯洋子(ソプラノ)<br/>■大人¥2000/小人¥1000<br/>■田中ピアノ教室 TEL.092-621-6356/FAX.092-621-6356</p>  | 会員<br>名義<br>後援       |
| 神奈川 |  | <p>室内楽のタベ<br/><b>海野春絵</b> (Pf.)<br/>8/20[月]<br/>19:00開演<br/>青葉台フィリアホール</p>  | <p>■【共演】内山優子(ヴァイオリン)、白井篤(ヴァイオリン)、佐々木亮(ヴィオラ)、海野幹雄(チェロ)<br/>■ハイドン:ピアノ三重奏曲第39番ト長調/ベートーヴェン:弦楽三重奏のためのセレナード/シューマン:ピアノ五重奏曲<br/>■自由席¥4000、学生席¥3000<br/>■フィリアホール TEL.045-985-8555</p>  | 会員                   |
| 東京  |  | <p>山辺絵理ピアノリサイタル<br/><b>山辺絵理</b> (Pf.)<br/>8/25[土]<br/>18:00開演<br/>新宿明治安田生命ホール</p>   | <p>■M. ラヴェル:亡き王女のためのパヴァーヌ、水の戯れ/R. シューマン:ピアノソナタ第2番作品22/F. リスト:ピアノソナタ短調<br/>■前売¥2000/当日¥2500/ビティナ会員¥1500<br/>■(株)エムティーズ TEL.03-3970-3071/E-mail:emtyesco@aol.com<br/>※8/17四日市市文化会館第2ホールもあり</p>  | 会員<br>名義<br>後援<br>割引 |

福岡

## 2台のピアノと打楽器による INSIEME (インシエメ)

8/25[土]14:00開演  
イツカコスモスコン小ホール

- 【出演】阿部菊枝(ピアノ)、飯野晃代(ピアノ)、飯野高代(ピアノ)、平林裕子(ピアノ)、山田美穂(ピアノ)、竹下麻子(打楽器)、田中佑司(打楽器)
- ルトスワフスキ:パガニーニの主題による変奏曲/バルトーク:2台のピアノと打楽器のためのソナタ/岡田加津子:クラブ・クアトロ/タネフ:ビルディング・ミュージック
- 一般¥1500、学生¥1000
- インシエメ事務局 TEL.080-3156-6736 URL <http://music.geocities.jp/insieme/> 7/※9/7 横浜みなとみらいホール、9/9 甲府市総合市民会館、9/17 岡山県立美術館ホール

会員  
名義  
後援

神奈川



アルモニー・アンティーク第19回コンサート  
イタリア・スペインのバロック音楽

村井領子(チェンバロ、バロック舞踏)

9.30[日]14:00  
グリーンホール相模大野 多目的ホール

- 【共演】渡辺清美(リコーダー)、高橋理恵子(フラウト・トラヴェルソ)、大山有里子(バロック・オーボエ)、西谷高己(ヴィオラ・ダ・ガンバ※替助出演)
- コレリ:ラ・フォーリア短調/カンブラ:「ヴェニスのカニーバル」よりフォルレーナ(バロック舞踏)/ソレル:五重奏曲第4番/ボッケリーニ:五重奏曲よりファンタゴ ニ長調/ヴィヴァルディ:コンチェルト(調和の交響Op.3-9)ほか
- 当日券¥3,500/前売券¥3,000/学生券¥2,000
- TEL & FAX: 045-921-2926 (村井)
- ※8/31(金) 19:00 倉敷市芸文館アイシアター 「華麗なバロック舞踏と音楽の夕べ」もあり

会員  
名義  
後援

東京



松岡美絵ピアノリサイタル

松岡美絵(Pf.)

9.16[日]  
17:30開演  
Hakuju Hall

- モーツァルト:ピアノ・ソナタ第10番ハ長調K.330/ドビュッシー:版画/シューマン:クライスレリアーナ(8つの幻想曲)作品16 他
- 前売¥4,000(全席指定・税込)
- シャンパンサービスあり
- ムジカキアラ TEL.03-5739-1739
- ※9/1(土) 17:00 ~ イツカコスモスコン中ホール(前売¥1,000)

会員  
名義  
後援

東京



萩田尚昊と冬木透の宇宙  
交響詩「ウルトラセブン」

9.5[水]19:00開演  
すみだトリフォニー小ホール

- 南山華央倫(ヴィオラ)、目黒未由佳(チェロ)、吉岡孝祝(パーカッション)、上田和代、菅原さおり、高良美和、友田恭子、中村万里子(ピアノ) / 賛助出演: 遠藤剛史(フルート)
- 萩田尚昊: コラル前奏曲/無伴奏チェロ奏鳴曲/魔笛の主題による変奏曲/ピアノのためのソナチネ/封印の書/冬木透: ピアノのための交響的組曲「瀬戸内」/帰ってきたワンダバ/交響詩「ウルトラセブン」/萩田尚昊: 委嘱新作世界初演
- 全自由席前売: ¥3,000(当日¥3,500)
- TEL.090-4944-3762、090-2768-6386

会員  
名義  
後援

富山



根津理恵子ピアノリサイタル

根津理恵子(Pf.)

9.7[金]  
19:00開演  
富山県教育文化会館

- モーツァルト:きらきら星変奏曲KV.265/ショパン:幻想即興曲 Op.66/シマノフスキ:ポーランド民謡による変奏曲 Op.10/ショパン:華麗な変奏曲 Op.12、ノクターン Op.62-1、マズルカ Op.41、アンダンテ・スピアナートと華麗な大ボロネーズ Op.22
- 一般¥2,500円(当日¥3,000) /ペア¥4,000(当日¥4,500)
- カワイ富山ショップ TEL.076-423-8986

会員  
名義  
後援

東京

親子で楽しむ ピアノの音色を探るコンサート  
本多昌子(Pf.)、林苑子(Pf.)、  
水谷雅佳子(Pf.)、加藤正人(レクチャー)

9.5 [水] 18:30開演 杉並公会堂小ホール

- 1. アップライトで奏でる2台ピアノ/2. アップライトとグランドピアノの特徴を知ろう!
- 3. アンサンブルで楽しもう!/4. 名器で楽しむデュオコンサート
- 大人¥2,000/小人¥1,000
- PTNA 杉並ステーション TEL:042-642-1040、FAX:042-642-1076 (ユーロピアノ)

会員  
名義  
後援

東京



蛭多令子ピアノリサイタル~西村朗の世界~

蛭多令子(Pf.)

9.9[日]14:00開演  
東京文化会館小ホール

- 西村朗: オバール光のソナタ(1998)、夜光(1999)、薔薇の変容(2005)、カラヴィンカ(2006)、作品名未定 新作(2007委嘱、世界初演)、ヴィシュスの化身より「スルシンハ」(2002)
- ¥3,500(学生¥2,000)ベティナ会員¥3,200(※ベティナ会員証を窓口でご提示下さい)
- 株式会社東京コンサーツ TEL.03-3226-9755/FAX.03-3226-9882

会員  
名義  
後援  
割引

東京

ジョイントリサイタル  
脇平みどり(Pf.)原野典子(Pf.)

9.9[日]  
14:00開演/17:00開演  
代々木上原ムジカザ

- ベートーヴェン:ピアノソナタより/ショパン:ノクターン 他(脇平)
- J.S.バッハ:トッカータ/サン=サーンス:ワルツ 他(原野)
- ¥2,000(各回共に、満席になり次第締め切らせていただきます)
- お申込み FAX.03-5932-6133
- E-mail:midori\_talkandrecital@yahoo.co.jp

会員  
名義  
後援

神奈川



未来に輝く星シリーズ 2007 第1回

関本昌平(Pf.)

9.15[土]  
15:00開演  
フィリアホール

- モーツァルト:ピアノ・ソナタ第3番変ロ長調K.281(189f)/ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第31番変イ長調Op.110/ショパン:スケルツォ第2番変ロ短調Op.31、ノクターン第8番変ニ長調Op.27-2、バラード第4番短調Op.52
- S ¥4,000/A ¥3,000/3回シリーズセット券S ¥11,000/学生券(当日残席がある場合のみ) ¥1,000
- フィリアホールチケットセンター TEL.045-982-9999
- ※10/13: 第2回 北村明幹リサイタル

会員  
名義  
後援

愛知

秋風に調べをのせて  
~ソプラノ・フルート・ヴァイオリン・ハープ・  
ピアノのコラボレーション~

9.16[日]13:30開演  
半田市福祉文化会館(雅宿ホール)

- 【出演】稲生勝壽(ピアノ)、林浩子(ソプラノ)、上井雅子(ソプラノ)、坂千恵(フルート)、神谷知佐子(ハープ)、ほか
- 1-3年生7人の半田高校在校生: 第1部(在校生による演奏: ピアノソロ、ヴァイオリンソロ)/第2部(卒業生とゲストによる演奏: ピアノ、ハープ、フルート、声楽)
- ¥800
- プロジェクト エム Projct M TEL.090-1750-0468

会員  
名義  
後援

神奈川



チェロとピアノの調べ  
藤森亮一(Vc.)、笠石まゆみ(Pf.)

9/16[日]  
18:00開演  
横浜みなとみらいホール小ホール

- シューマン: アダージョとアレグロ Op.70/J.S.バッハ: 無伴奏チェロ組曲第1番長調/メンデルスゾーン: チェロソナタ第2番 Op.58/カッチーニ: アヴェ・マリア/サン=サーンス: 白鳥/ボッパ: ガボット/ラフマニノフ: チェロとピアノのための2つの小品 Op.2/エルガー: 愛の挨拶/カサド: 親愛なる言葉
- ¥3000
- TEL.045-784-9254 (笠石)

会員

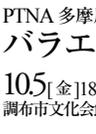
|    |   |  |  |    |
|----|---|--|--|----|
| 東京 |  | ピアノ・リサイタル"IMAGINATION" Vol.7<br>フランスとロシアの奇跡<br><b>稲田潤子</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ マニヤール：散歩作品7より、贈呈、サンクルー、ブローニュの森</li> <li>ラヴェル：鏡(全曲) 蛾、悲しき鳥たち、洋上の小舟、道化師の朝の歌、鐘の谷</li> <li>ラフマニノフ：5つの幻想曲作品3 エレジー、前奏曲、メロデー、道化役者、セレナーデ/</li> <li>コレルリの主題による変奏曲作品42</li> <li>■ 全席自由¥4000</li> <li>■ カワイ音楽振興会 TEL.03-3320-1671</li> </ul> | 会員 |
|    |   | 9.21[金]19:00開演<br>東京文化会館小ホール                                     |  |    |

|    |   |                                      |  |      |
|----|---|--------------------------------------|--|------|
| 栃木 |  | 第3回富田与子ピアノリサイタル<br><b>富田与子</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ モーツァルト：ピアノ・ソナタ第12番へ長調K.332(300k) / ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第31番変イ長調Op.110/ ショパン：エチュード変イ長調Op.25-1「エオリアンハーブ」、エチュード ホ短調Op.25-5、幻想ポロネーズ変イ長調 Op.61/ スクリヤピン：ピアノ・ソナタ第3番嬰へ短調Op.23</li> <li>■ 前売り券¥2,000/ 当日券¥3,000</li> <li>■ E-mail:yoripoland@hotmail.com</li> </ul> | 名義後援 |
|    |   | 9.22[土]<br>14:30開演<br>宇都宮市文化会館小ホール   |  |      |

|    |   |  |   |    |
|----|---|--|---|----|
| 東京 |  | デュオリサイタルリリック～妙なる調べ～<br><b>末松茂敏</b> (Pf.)、 <b>中村潤</b> (Vc.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ショパン：幻想曲へ短調作品49/ エルガー：愛のあいさつ/ ピアソラ：リベルタンゴ、オブリビオン(志気) / プルフッフ：コル・ニドライ/ ラフマニノフ：チェロ・ソナタ短調作品19</li> <li>■ 一般券¥3000/ 会員券¥2500 (全席自由)</li> <li>■ カワイ音楽振興会：TEL.03-3320-1671/ カワイ表参道：TEL.03-3409-2511</li> </ul> | 会員 |
|    |   | 9.27[木]<br>19:00開演<br>カワイ表参道2Fパウゼ                          |   |    |

|     |   |   |  |                  |
|-----|---|---|--|------------------|
| 神奈川 |  | 第デュオコンサート<br><b>中村美雪</b> (Pf.)、 <b>嶋田郁子</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ モーツァルト：2台のピアノの為のソナタニ長調 / 三善晃：唱歌の四季 / ガーシェイン：ラプソディ イン ブルー ほか</li> <li>■ 全自由席¥2,000/ ビティナ会員¥1800</li> <li>■ 庶務局 TEL.045-862-9803</li> </ul> | 会員<br>名義後援<br>割引 |
|     |   | 9.28[金]<br>19:00開演<br>ひまわりの郷ホール                   |  |                  |

|     |   |                                    |  |    |
|-----|---|------------------------------------|--|----|
| 北海道 |  | 田中宏明ピアノ・リサイタル<br><b>田中宏明</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ パッサ：フランス組曲 第2番 変イ長調 / モーツァルト：ピアノ・ソナタ イ長調K.331「トルコ行進曲つき」/ ショパン：練習曲 ホ長調 作品10-3「別れの曲」/ 英雄ポロネーズ作品53/ ラフマニノフ：前奏曲嬰ハ短調作品3-2「鏡」/ リスト：巡礼の年2年「イタリア」よりソナタ風幻想曲～ダンテを読んで～</li> <li>■ 前売：一般¥2,500、学生¥2,000/ 当日：一般¥2,800、学生¥2,500</li> <li>■ 時計台名曲コンサートの会事務局 Tel.090-2058-0556</li> </ul> | 会員 |
|     |   | 9.29[土]<br>19:00開演<br>札幌市時計台ホール    |  |    |

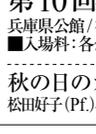
|    |  |                                      |   |            |
|----|--|--------------------------------------|---|------------|
| 東京 |  | PTNA 多摩川ステーション<br><b>バラエティ・コンサート</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [出演] ピアノ：善本笑莉、岩村葵・佐保田翔栄・栗村剛司・高橋航・矢嶋みのり・萩原由佳・長瀬里子・伊藤見子・清本美帆・吉田晴子・中川さとみ / 朗読：小原のり子(声優) / ヴァイオリン：中川和歌子 / チェロ：堀内詩織</li> <li>■ ¥1,500</li> <li>■ PTNA 多摩川ステーション TEL.042-366-0451</li> </ul> | 会員<br>名義後援 |
|    |  | 10.5[金]18:30開演<br>調布市文化会館たづくり        |   |            |

|     |   |  |  |            |
|-----|---|--|--|------------|
| 北海道 |  | 連弾の調べ<br><b>池田寿美子</b> (Pf.)、 <b>永井礼子</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プラームス：ロシアの思い出/ ラフマニノフ：6つの小品Op.11より1.舟歌、2.ロシアの歌、3.ワルツ、4.スラヴァ / ラヴェル：マ・メール・ロワ/ ガーシェウィン：ラプソディ・イン・ブルー</li> <li>■ ¥3,000 (全席自由)</li> <li>■ 高松音楽事務所 TEL:011-563-0002</li> </ul> | 会員<br>名義後援 |
|     |   | 10.5[金]<br>19:00開演<br>ザ・ルーテルホール                |  |            |

|    |   |                                 |  |            |
|----|---|---------------------------------|--|------------|
| 東京 |  | 鶴見彩ピアノリサイタル<br><b>鶴見彩</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ショパン：バラード第3番 変イ長調Op.17/ 演奏会用アレグロ 長調Op.16/ 幻想曲へ短調 Op.19/24の前奏曲Op.28</li> <li>■ ¥3,500</li> <li>■ (株)シド音楽企画 TEL:03-3465-6115/FAX:03-3465-6144<br/>E-mail:info@sido-music.com</li> </ul> | 会員<br>名義後援 |
|    |   | 10.5[金]<br>19:00開演<br>トッパンホール   |  |            |

|    |   |   |  |                  |
|----|---|---|--|------------------|
| 東京 |  | ベートーヴェン：ピアノソナタ全曲演奏会 第8回(最終回)<br><b>杉谷昭子</b> (Pf.) | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第30番ホ長調op.109、ピアノ・ソナタ第31番変イ長調op.110、ピアノ・ソナタ第32番ホ短調op.111</li> <li>■ ¥4,500(ビティナ会員¥500引)</li> <li>■ 杉谷昭子音楽事務所 TEL:03-3601-9513</li> <li>※8/29(水)15:00～杉谷昭子ピアノアカデミーコンサート(日本大学カサルスホール)</li> <li>第Ⅲ部 日本全国からの天才児たち</li> <li>第Ⅳ部 音大と東京六大学他のピアノ合戦 ¥2500(会員¥500引)</li> </ul> | 会員<br>名義後援<br>割引 |
|    |   | 10.6[土]<br>16:00開演<br>浜離宮朝日ホール                    |  |                  |

|    |   |  |   |      |
|----|---|--|---|------|
| 愛知 |  | 宮谷理香ピアノリサイタル<br><b>宮谷理香</b> (Pf.)      | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ショパン：バラード1番～4番/ドビュッシー：喜びの鳥、月の光、ゴリウォーク ほか</li> <li>■ ¥2,500/ピアノチケット¥4,000</li> <li>■ ピアノフォルテ<br/>TEL.0532-53-4666/FAX.0532-21-5544</li> </ul> | 名義後援 |
|    |   | 10.8[月]<br>14:00開演<br>小坂井町文化会館フロイデンホール |   |      |

|    |   |   |   |            |
|----|---|---|---|------------|
| 兵庫 |  | 第10回神戸・元町ミュージックウィーク 10.6[土]～10.14[日]  | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 兵庫県公館 / 神戸風月堂ホール / ヤマハミュージック神戸 / ユーハイム / こうまちづくり会館 / エスタシオン・デ・神戸 ほか、ストーリーコンサートなど</li> <li>■ 入場料：各公演による ■ 元町ミュージックウィーク実行委員会事務局 TEL.078-331-1045/FAX.078-262-6674</li> </ul> | 会員<br>名義後援 |
|    |   | 秋の日のカンタービレ～ピアノ連弾と歌声の散歩道 10.6[土]14:00開演 神戸風月堂ホール ■¥1,000 (12歳以下無料)<br>松田好子(Pf.)、太田雅子(Pf.) 梶井加代子(シャンソン) ■シューベルト：幻想曲へ短調/ ガーシェイン：ラプソディー・イン・ブルー / シャンソン：愛の讃歌 他 |   |            |

|    |  |  |                             |
|----|--|--|-----------------------------|
| 茨城 | <p>超現実 フランス・ブーランクとシュールレアリスムの詩人たち<br/> <b>青木三郎</b>(解説)、<b>阿部理香</b>(M-sop)、<b>泉對優子</b>(Pf)、<b>榎原道子</b>(Pf)、<b>小原ふみ子</b>(Pf)<br/> <b>10.13</b>[土]14:00開演<br/>         つくばカピオホール</p>   | <p>■レクチャーコンサートシリーズII:近代フランス音楽の風景第3回<br/>         ■ナゼルの夜会より メランコリー、村人たち/つまらない話より 他<br/>         ■ディレクター アーティスティック:ヴィヴィアン・ノブス/衣装:宮島さよ子/フランス語指導:ジャン＝ガブリエル・サントニ/アートコーディネーター:馬場玲<br/>         ■¥3,000(全席自由)お茶つき<br/>         ■泉對優子 TEL&amp;FAX. 029-856-8557</p>  | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 東京 | <p>東京音楽大学創立100周年記念<br/> <b>教員によるピアノ特別演奏会</b><br/> <b>10.15</b>[月]<br/>         16:00開演<br/>         東京芸術劇場大ホール</p>   | <p>■弘中幸子、宮崎和子、相馬泉美、山口泉恵、河辺亮子、後藤美由紀、森早苗、長川晶子、佐藤智子、杉山とみえ、中西誠、越村紅、川上昌裕、竹中勇人(Vn)、伊藤妙子、稲田潤子、寿明義和、岡藤由希子、大谷真美子、森田佳子、鈴木恭代、石井克典、米田栄子、樋口恵子、草川宣雄、岸邊真知子、村上隆、小林出、倉沢仁子、山口優、石附秀美、三界秀美(CI)、宮原節子、釜淵祐子、橋洋子、広瀬宣行、大谷康子(Vn)、岡田敦子、海老原直美、武田真理、鷺見加寿子、播本三恵子、三浦捷子、菊池麗子、逸藤雅夫、関根有弘、弘中孝<br/>         ■全席指定 A席¥3,000/B席¥2,000<br/>         ■ピアノ専用チケット問合せ E-mail:ticket@piano.or.jp</p> | <p>会員</p>                   |
| 東京 | <p><br/>         安田正昭ピアノ・リサイタル<br/> <b>安田正昭</b>(Pf.)<br/> <b>10.23</b>[火]<br/>         19:00開演<br/>         杉並公会堂小ホール</p>   | <p>■メシアン:8つの前奏曲/パトールヴェン=リスト:交響曲第3番「英雄」<br/>         ■全席自由¥3000<br/>         ■銀河企画 TEL.0422-52-0429</p>   | <p>会員</p>                   |
| 東京 | <p><br/>         ドビュッシン:ピアノ作品全曲演奏会:3<br/> <b>中井正子</b>(Pf.)<br/> <b>10.24</b>[水]<br/>         19:00開演<br/>         浜離宮朝日ホール</p>  | <p>■映像第1集、映像第2集、12の練習曲<br/>         ■指定席¥5,000/自由席¥4,000<br/>         ■ミリオンコンサート協会<br/>         TEL03-3501-5638<br/>         FAX.03-3501-5620<br/>         E-mail:classic@millionconcert.co.jp</p>   | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 秋田 | <p><br/>         YUKA&amp;SHINYA JOINT RECITAL<br/> <b>林由佳</b>(Pf.)、<b>北嶋信也</b>(Ten.)<br/> <b>10.27</b>[土]<br/>         17:30開演<br/>         アトリオン音楽ホール</p>   | <p>■ショパン:エチュードOp.25-1、Op.25-11(ピアノ)/リスト:2つの演奏会用エチュード「森のささやき」「小人の踊り」(ピアノ)/リスト:バラード第2番(ピアノ)/トスティ:理想の人 他(テノール)/レオンカヴァッロ:朝の歌(テノール)/プッチーニ:「ラ・ボエーム」から「冷たき手」(テノール)/山田耕筰:からたちの花、野ばら(テノール) ほか<br/>         ■¥1,500<br/>         ■秋田アトリオン音楽事業部 TEL.018-836-7803/TEL.0424-88-7503<br/>         FAX:0424-88-7503(林) 電子チケットびあ(070-02-9999(Pコード266-475))</p>           | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 大阪 | <p><br/>         モーツァルトとシューベルトのタベ<br/>         Part.3~ 声楽家とともに~<br/> <b>俣野修子</b>(Pf.)<br/> <b>10.27</b>[土]19:00開演<br/>         イシハラホール</p>   | <p>■【共演】ゲスト:黒田恵美(Sop.)、津國直樹(Bar.)<br/>         ■シューベルト:ピアノ・ソナタOp.120D.664.「冬の旅」Op.89D.911より/モーツァルト:幻想曲二短調Kv.397(385g)/「タベの想い」Kv.523/「クロエに」Kv.524/「私は行くだがどこへ?」Kv.579/オペラ「フィガロの結婚」Kv.492 第3幕より二重唱 ほか<br/>         ■一般¥4,000/学生¥2,500(自由席)<br/>         ■大阪アーティスト協会 TEL.050-5510-9645</p>   | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 東京 | <p><b>クレエ Vol.3 「コンチェルト広場」</b><br/> <b>10.28</b>[日]<br/>         開演時間は9月末決定<br/>         ヤマハエレクトーンシティ渋谷</p>  | <p>■【共演】桑原巖(指揮)/海津幸子(エレクトーン)/藤井祥子(エレクトーン)<br/>         ■子供のためのピアノ協奏曲作品~マスターコンポーザーによるピアノ協奏曲まで<br/>         ■参加者公募 www.sachiko-m.com/event/20071028.html<br/>         公開リハーサル:10/13(土)<br/>         ■入場無料<br/>         ■藤井 TEL.049-233-9253</p>  | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 東京 | <p><br/>         安嶋健太郎ピアノリサイタル<br/> <b>安嶋健太郎</b>(Pf.)<br/> <b>11.1</b>[木]<br/>         19:00開演<br/>         浜離宮朝日ホール</p>  | <p>■ベートーヴェン:ピアノソナタNo.17 Op.31-2「テンペスト」/メトネル:おとぎ話Op.20-1、Op.26-4.忘れられた調べOp.38よりNo.3「祝祭の舞曲」/武満徹:雨の樹、素描/ショパン:4つのマズルカOp.33より、ピアノソナタNo.2Op.35「葬送」<br/>         ■¥3,000(当日¥3,500)全自由席<br/>         ■コジマ・コンサートマネジメント<br/>         TEL.03-5379-3800</p>  | <p>会員<br/>         名義後援</p> |
| 全国 | <p><br/>         グランプリコンサート2007<br/>         第5回「大阪国際室内楽フェスタ」メニューイン金賞<br/> <b>デュオ・アドモニー</b>(Pf.)<br/>         ■金沢多美、ユヴァル・アドモニー<br/>         ■S.V.ラフマニノフ:組曲第2番 op.17/<br/>         F.リスト:ハンガリー狂詩曲第2番 他</p> | <p>■【東京公演】日本テレビ文化事業団TEL.03-3515-8421【大阪公演】コジマ・コンサートマネジメントTEL.06-6241-8255【その他】日本室内楽振興財団TEL.06-6947-2184<br/>         ■10/31:STVホール(札幌)、11/2:波田町情報文化センターアクトホール(長野)、11/4:燕市文化会館大ホール(新潟)、11/6:津田ホール(東京)、11/8:別府大学大分キャンパス文化ホール(大分)、11/10:信愛アリーナ(熊本)、11/12:庄原市民会館(広島)、11/14:富山県高岡文化ホール(富山)、11/17:三重県文化会館小ホール(三重)、11/19:いずみホール(大阪)</p>                         | <p>名義後援</p>                 |
| 全国 | <p><br/>         アレクサンダー・コプリンピアノリサイタル<br/> <b>アレクサンダー・コプリン</b>(Pf.)<br/> <b>11.6</b>[火]<br/>         19:00開演<br/>         浜離宮朝日ホール</p>  | <p>■モーツァルト:ピアノソナタより/シューベルト:ピアノ・ソナタ第19番ハ短調 D.958/ショパン:バラード第1番ハ短調 op.23、即興曲第1番変イ長調 op.29、即興曲第2番嬰へ長調 op.36、即興曲第3番変ト長調 op.51、幻想即興曲嬰ハ短調(遺作) op.66、バラード第4番ハ短調 op.52<br/>         ■プラチナ¥6,000/A ¥4,000/B ¥3,000(学生・ピティナ会員は¥500引)<br/>         ■東音企画 TEL.03-3944-1581<br/>         ※他公演11/7(兵庫)、11/8(熊本)</p>   | <p>名義後援<br/>         割引</p> |
| 東京 | <p><b>2007「日比谷ゆめステーション」</b><br/> <b>第1回 継続表彰記念コンサート</b><br/> <b>11.11</b>[日]10:30開演<br/>         浜離宮朝日ホール</p>  | <p>■継続表彰受賞者83組による演奏、ゲスト演奏:根津理恵子<br/>         ■第1部10:30~/第2部13:20~/第3部16:05~/第4部18:45~/ (予定)<br/>         ■PTNA日比谷ゆめステーション(渡部由記子) TEL.047-395-5330</p>  | <p>会員<br/>         名義後援</p> |



デビューピアノリサイタル

安達明博 (Pf.)

11.15 [木]

19:00開演  
横浜みなとみらいホール

- バッハ: トッカータ ハ短調 BWV911/ ベートーベン: ピアノソナタ第31番 作品110/ スクリャーピン: ピアノソナタ第5番 作品53/ ベヤチェヴィッチ: 2つの間奏曲 作品38 (日本初演) / パラッチ: Dance of the Baroness/ リスト: ピアノソナタ ロ短調
- 3,000円 (税込)
- AGRAM MUSIC  
TEL.&FAX.03-3749-8551 E-mail:agram-music@hotmail.com

名義  
後援丸ビル35コンサート  
(通年開催)丸ビル35階ロビー  
平日(水・金・土) 19:30/20:30/21:30  
日曜 14:00/15:00

- [日曜出演者] 青木葉穂子、泉ゆりの、須藤千晴、増田みのり (ほか)
- コーディネーター: 黒田亜樹
- 平日/日曜 各回30分
- 観覧無料

会員

名義  
後援

## ピティナ名義後援・DM送付のご案内

## ■ピティナ名義後援の取得

ご依頼のあった事業に対しての名義後援です。経費は、全て主催者の負担となります。承認後、事業内容に変更のあった場合は直ちにご連絡ください。

名義後援申請書に必要な事項を明記の上ご提出ください。TEL、FAXでご請求、もしくはホームページ上からも申請できます。(審査料は無料)

申請

審査の後、約1週間～2週間ほどで承認の可否のご連絡を差し上げます。

承認

チラシ、プログラム等告知媒体へ「後援:社団法人 全日本ピアノ指導者協会」もしくは「後援:(社)全日本ピアノ指導者協会」と明記の上、校正のFAXを送付してください。完成後は見本を1部お送りください。

チラシの  
校正

## ■特典

後援許可事業については、下記の特典をご利用いただけます。

- ・ 当協会ホームページ上のコンサート情報へ掲載 <http://www.piano.or.jp/concert/>
  - ・ 該当公演のQRコード発行サービスを行います。チラシ・ポスターに掲載することにより、携帯電話よりホームページの該当のコンサート情報へ簡単にアクセスできます。
  - ・ 当協会会報「Our Music」同封DMに割引料金が適用されます。(※2000部以上の場合。右記参照。)
- ※当協会会報「Our Music」には、次号より会員主催及び会員出演のコンサートのみ掲載させて頂くことになります。何卒ご了承ください。

## ■お問合せ/後援申請書ご提出先

社団法人全日本ピアノ指導者協会 本部事務局 コンサート名義後援担当  
TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-8838 E-mail:concert@piano.or.jp  
詳細URL <http://www.piano.or.jp/concert/zen/kouen.html>

## QRコードサービス開始!

チラシ・ポスターにQRコードをつければ、携帯から簡単アクセス!ピアノ曲時点とも連動



## チラシ封入手数料

## ■割引規定

封入物1セットが10グラム未満の場合  
※重量により料金が異なります

- ・ 基本料金:10円
- ・ 名義後援:7円(30%off)  
※2000枚以上
- ・ 会員:7円(30%off)
- ・ 会員+名義後援:5円(50%off)  
※2000枚以上

## ■送付対象

- ・ 全国の場合:ピティナ会員約11,500名
- ・ エリア別の場合:北海道・東北/関東/中部/関西/中国・四国/九州(※県指定ご希望の場合は、エリア設定料2,400円(別途)で申し受けます)

## ■発送時期

- ・ 4月・7月・9月・10月・1月・3月(各末日)、2月中旬
- ・ お申込み締切:各発送月の10日  
(多少前後する可能性がございます)

# P T N A N E W S

ピティナ本部ニュース 2007.5-2007.7

## ★ 新役員の顔ぶれ

今年度はピティナ役員改選の年にあたり、役員選考委員会(3月19日)、役員選挙管理委員会(5月18日)、理事会・第45回通常総会(6月13日)を経て、新役員が決定した。

| 副会長  |  |
|------|--|
| 中山靖子 | 東京芸術大学名誉教授                               |
| 二宮裕子 | 当協会コンクール事業部長<br>桐朋学園大学講師                 |
| 専務理事 |  |
| 福田成康 | 株式会社東音企画 代表取締役社長<br>当協会本部事務局長            |
| 理事   |  |
| 阿部武彦 | ヒノキ新薬株式会社 代表取締役社長                        |
| 嵐野英彦 | 作曲家、元滋賀大学教授<br>当協会新曲選定委員長                |
| 江口文子 | 昭和音楽大学ピアノ科教授<br>ヤマハマスタークラス講師             |
| 江崎光世 | 当協会課題曲選定委員長                              |
| 海老澤敏 | 新国立劇場副理事長、日本モーツァルト研究所<br>所長、日本モーツァルト協会会長 |
| 大友直人 | 指揮者、東京文化会館音楽監督                           |
| 金子勝子 | 昭和音楽大学ピアノ科教授<br>当協会指導法研究委員長              |
| 三枝成彰 | 作曲家、東京音楽大学教授<br>社団法人日本作曲家協議会会長           |

| 理事    |   |
|-------|---|
| 迫昭嘉   | 東京芸術大学音楽学部准教授                           |
| 杉浦日出夫 | 当協会ステーション育成委員長                          |
| 田淵進   | 宇都宮短期大学副学長、学校法人須賀学園理事<br>・評議員、当協会財務委員長  |
| 寺脇研   | 元文部科学省、京都造形芸術大学教授                       |
| 原田茂生  | 尚美学園大学芸術情報学部学部長・教授<br>東京芸術大学名誉教授        |
| 播本三恵子 | 東京音楽大学ピアノ科教授、当協会研究事業部長<br>・フェスティバル実行委員長 |
| 松崎伶子  | 洗足学園音楽大学ピアノ科教授<br>当協会ステップ事業部長           |
| 監事    |   |
| 武田宏子  | 武田音楽教室室長、当協会香川支部長                       |
| 宝木多加志 | 元梅光女学院大学教授<br>北九州音楽文化連盟会長               |
| 執行役員  |   |
| 杉本安子  | 洗足学園音楽大学教授<br>当協会演奏研究委員長                |
| 戸沢睦子  | 当協会ステップ担当者連絡会委員長                        |

## ★ 新任役員のご挨拶

### 新任副会長



### 二宮 裕子

この度、ピティナの副会長に任命されましたことを、深く受け止めております。

私が30年ほど前にピティナに所属した当初、福田靖子先生が、質素な事務所にポツンと置かれた電話で「コンペティションに出てください」と、なりふり構わず全国のピアノの先生方をお願いしていた姿が思い出されます。その後、4期別の課題曲・一人ひとりへの直筆の採点票・点数の公開をはじめ、画期的なアイデアを次々と展開させ、コンペティション・ステップを併せて年間7万人が参加する団体に発展してまいりました。この成長は、ピティナに共感してご協力下さった会員の皆さまの努力のたまものと、感謝しております。

2002年3月、福田靖子先生の追悼会で「歴史の中でエジプト・ローマ・フランス・イギリスなど諸国が世界を風靡しましたが、おごりが先立つと必ず下降線をたどるので、すべてが順調に行っているときこそ胃の緒を引き締めましょう。」などと申し上げたことを覚えております。また、銀座で紳士服の老舗の社長として活躍している鰐淵女史の「老舗を守るのは革命しかない。老舗こそ挑戦者でなければいけない。」という言葉には、私の言いたかったことをずばりと示して共感させられました。

ピティナはまだ老舗ではありませんが、日本のピアノ教育界をさらにリードしていくために、気を緩めることなく、より意味の深い高度な活動を目指していく必要があります。今後とも、一人でも多くのピアノ好き・聴衆を増やし、世界に羽ばたくピアニストが育っていくピティナでありたいと願っています。

## 新任理事



## 三枝成彰

41年前に邦人作品の研究と振興を目的として発足したピティナが、ピアノ教育全般に関わる組織として成長を遂げてきました。

今後も、新曲作品の募集を通じて、未知の優れたピアノ曲を多くの皆さんに演奏していただけるような活動を続けるとともに、編曲・アナラーゼなどの啓蒙にも努め、幅広い知識を備えた指導者・学習者がご活躍下さることを願っております。



## 大友直人

世界にも類を見ない大規模なピアノ指導者の団体に発展したピティナでは、今後、会員のネットワークを活用して、音楽教育の裾野をさらに広げ、クラシック音楽の文化がますます浸透するような活動を考えていきたいものです。

学習者の皆さんには、ソロ演奏ばかりでなく、たくさんの楽器の魅力に接して幅広く音楽と親しんでいただき、ピアノ以外のさまざまな演奏会にも足を運んで下さることを願っております。ピティナで育ったピアニストたちと共演できる日を楽しみにしております。



## 寺脇研

このたび理事に就任することになった寺脇です。といっても、ピティナとの関係は長く、また深いものがあります。

1988年、文部省（現・文部科学省）に生涯学習局（現・生涯学習政策局）が誕生した折、わたしは局の筆頭課長補佐として新しい体制を作っていく仕事をしていました。そのとき、先代専務理事の福田靖子先生と知り合ったのです。福田先生のお考えになる音楽教育の理念と、わたしが目指していた生涯学習社会づくりの考えはぴったり一致し、以来、民間と官庁の立場の違いこそありましたが、官民連携する形でさまざまな仕事をご一緒してきました。昨年秋に文部科学省を退官し、民間人の立場になったからには、今度はピティナの一員として、音楽をはじめとする国民の皆さんの生涯学習のお役に立ちたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



## 迫昭嘉

ピティナが、故福田靖子先生と私の恩師中山靖子先生をはじめ多くの先生方、会員の皆様のご尽力によって長年にわたりピアノ教育の進展、ピアノ音楽の普及に貢献されてきたこと、そして積み重ねてこられた見事な実績には目を見張るものがあります。このたびご推薦いただき理事としてピティナの活動に関わらせていただくことになりました。ピティナの活動を通して音楽界の更なる飛躍へ向けて、私の今までの音楽家としての経験がいくらかでもお役に立てればと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



## 杉浦日出夫

ピティナとの出会いは、また福田靖子先生との出会いでもありました。靖子先生に初めてお会いした日、先生は「日本全国、どこにいても、同じレベルのピアノ教育が受けられることを願っている福田靖子です」と自己紹介をなさいました。そして現在、私がステーション育成に関わり、その靖子先生の夢実現へのお役の一端を、引き受けさせて頂いていることはまったくの偶然であり、またそれをとても合わせだと思っております。

私もピティナの大きな翼に抱えられて育てられました。「音楽への愛、こどもへの愛」は私の好きな言葉です。本当に微力ですが任期の4年間「何か少しでもお役に立てば」と、頑張ってきたと思っていますのでよろしく願っています。

## 新任監事



## 宝木多加志

この度御指名を受け監事として就任させていただくことになりました。昭和59年より23年間にわたり理事として在籍させていただき、その間、ただひたすらピティナを発展させたいと、拡大を図ることに邁進してまいりましたが、現在、会員1万2千名弱、コンペティションを含むイベントの参加者が7万名以上とうかがって、心から嬉しく存じます。これは役員をはじめ各委員会の的を得た人選と、そのボランティアの御働きの賜だと信じております。

監事としてどのようなことをなさねばならないのか、幸いにもベテランの武田宏子先生とご一緒とのことですので、いろいろご指導いただきながらピティナのお役に立てればと願っております。

## 新任執行役員



## 戸沢睦子

ピティナは、熱意に満ちた先生方の会員活動によって支えられています。ステップが始まって10年。ステーションが拡大し、全国各地でピアノに対するさまざまな思いが募り、ピアノ教育への願いを実現できる場として、ピティナの役割がますます高まっています。私もピティナの一員として、次の世代に伝えなければならないことは何か、地域から発信できることは何か、お役に立てることを日々考えているところです。ぜひこれからも一緒に、ピアノ教育を盛り上げてまいりましょう。

# P T N A N E W S

ピティナ本部ニュース 2007.5-2007.7

## 特級ファイナル、前売発売中

日本中からピアニストを目指す才能が集う、ピティナ・ピアノコンペティションの最高峰「特級」。昨年に引き続き、ファイナルは、ソロリサイタルと協奏曲（オーケストラ共演）で行われ、第一生命ホールにて、8月26日（日）



1日で実施。演奏を聴いて聴衆賞に投票すれば、支持を集めたコンテストに聴衆賞として賞金（ご来場の皆様の入場料の半額）が贈られる、他にはない「応援」のシステムもある。

チケットは、特級のみ前売りで、今年から指定席も用意している。8月3日（金）にはセミファイナルの結果を受け、ピティナ・ホームページにてファイナリストを発表し、2次予選の音源も公開する予定。

☞ チケット購入などの詳細はp.80を参照

## 第3回福田靖子賞選考会

高校生以下の若いピアニストに、海外で学ぶための奨学金を与えようという目的で実施している、「福田靖子賞選考会」は、今年度第3回の開催をむかえる。3月に行われた書類選考を経て、9名が8月の最終選考に参加する。審査員には、海外招聘教授として、ドミニク・メルレ（フランス）、ピオトル・パレチニ（ポーランド）、ミハイル・ヴォスクレセンスキー（ロシア）をむかえる。

8月28日（火）29日（水）は3教授と9名の生徒による公開レッスン。30日（木）には、その成果も含めたコンサート形式の審査会「成果発表会」。いずれも聴講可能なので、ぜひ世界最高レベルのレッスンと若いピアニストたちの

熱演にご期待いただきたい。

☞ 詳細は、p.83を参照

## 2台ピアノのためのマスタークラス実施

11月3日（土・祝）は2台ピアノを体験！なかなか経験することのできない2台ピアノのアドバイスがいただけるマスタークラス企画を、初～上級者それぞれを対象に実施する。

講師は、2台ピアノのデュオとして国内外のコンサートで活躍されている2組のデュオ。初中級のクラスでは、中井恒仁・武田美和子先生ご夫妻（当協会演奏研究委員）が、親しみやすい作品を通じて、2台ピアノの楽しみ方・ポイントを伝授。2台ならではの魅力を追求する。

上級のクラスは、大阪国際室内楽フェスタ最優秀賞（メニューイン金賞）を受賞したイスラエルと日本のデュオ「デュオ・アドモニー」を迎え、サロンコンサート+ワンポイントアドバイスを実施。いずれも聴講も募集する。

☞ 詳細は、<http://www.piano.or.jp/concert/hon/duopiano.html>へ。

## 夏休みトークコンサート祭り開催

8月8日、9日の2日間にわたって、王子ステップとの合体企画「夏休みトークコンサート祭り」が開催される。

会場は、北とびあつつじホールにて。

【8月8日】

- ・ 第1部 12:00～13:50 久元祐子 / 林苑子 / 今野早苗 & 菅生晴美 / 中川京子 / 伊賀あゆみ / 丹内真弓
- ・ 第2部 15:20～17:10 金子一郎 / 広瀬美紀子 / 村井頌子 / 中井正子 / 今井顕 / 川井綾子

【8月9日】

- ・ 第3部 13:30～15:20 武田一彦 / 伊藤仁美 / 西畑

久美子/田中克己/宮澤むじか/デュオおさの

・第4部 17:00~18:50 高木早苗/多喜靖美/砂原悟/根津昭義&栄子/春畑セロリ/杉谷昭子

入場:無料(要申込、先着順)

※同時開催:調律師による「ピアノと音の理科教室」/夏休み自由研究展示(7F研修室)

○問合せ:ピティナコンサート係

TEL:03-3944-1583 FAX:03-3944-8838

E-mail:concert@piano.or.jp

☞ 詳細は [www.piano.or.jp/concert/zen/summerfest.html](http://www.piano.or.jp/concert/zen/summerfest.html) へ

## ピティナ・ピアノ伴奏者紹介サービス開始

当協会ホームページ内に、「ピティナ・ピアノ伴奏者紹介」ページを開設、ピティナ会員のうち伴奏者として活動を行っている演奏者のリストを公開する。伴奏者を探している、器楽演奏者や歌手は、伴奏者紹介フォームに必要事項を記入することで、伴奏者の紹介が受けられるサービスとなる。ピティナでは、音楽における「ピアノ」の価値を高め

る活動を促進しているが、「ピティナピアノ伴奏者紹介」サイトを通して他楽器や歌手とピアニストの交流を促進することで、新たな市場を開拓することを目指している。

☞ 詳細はp.72を参照

## 第45回通常総会開催

6月13日(水)14時、東京・巣鴨のピティナ本部事務局にて、第45回通常総会が開催された。正会員1398名のうち、過半数の988名(うち実出席者9名 委任状979名)の出席を得て成立。互選により、堀江孝子評議員を議長に選出し、福田成康専務理事の説明のもと、各議案が討議・決定された。

第1号議案:平成18年度事業報告収支決算承認の件

第2号議案:新役員承認の件→新役員の紹介はp.62

第3号議案:委員会解散の件

以上の3つの議案につき、全会一致で承認が得られた。

ピティナ・ピアノコンペティション

## 課題曲を一般公募します!

コンペの夏、その1曲が全国で演奏される

[募集作品・対象級]ソロ(G級・Jr.G級を除く)・デュオ連弾

[応募料・資格]特になし

[表彰]採用作品には1曲50,000円~100,000円を贈呈。  
※その他優れた作品には出版社へ紹介のチャンスがあります。

[メ切]2007年12月7日(消印有効)

[問い合わせ先]

ピティナ新曲課題曲係:堀(hori@piano.or.jp)  
Tel:03-3944-1583 Fax:03-3944-8838

[2007年度採用作品例]

- ・スクランブル交差点(石田祥子・C級)
- ・小さな葛藤(日下部満三・D級)
- ・水面にうつる春の月(小栗克裕・E級)
- ・流星(草野次郎・F級)
- ・Prelude(網守将平・特級)
- ・エチュード<雪の夜の幻想>(松岡貴史・特級)
- ・そよかぜのたわむれ(鈴木豊乃・連弾初級B)

<http://www.piano.or.jp/compe/sinkyoku/>

# P T N A N E W S

ピティナ支部ニュース 2007.5-2007.7

## 継続表彰記念コンサート開催情報

ステップで継続表彰を受賞した方を対象にしたステージ、「継続表彰記念コンサート」が各支部・ステーション主催で開催されている。今年度予定されているコンサートは下記のとおり。



### ■和歌山支部

日程：2007年10月28日(日)  
会場：和歌山県民文化会館小ホール  
出演：継続表彰受賞者、ゲスト：小原孝  
時間：第1部 14:00～/第2部 18:30～  
問合せ：ピティナ和歌山支部(TEL073-436-0353/安宅)

### ■日比谷ゆめステーション

日程：2007年11月11日(日)  
会場：浜離宮朝日ホール  
出演：継続表彰受賞者83名、ゲスト：根津理恵子  
問合せ：ピティナ日比谷ゆめステーション  
(TEL03-5662-7272/水崎)

### ■京都支部

日程：2008年1月13日(日)  
会場：京都コンサートホール 小ホール  
出演：継続表彰受賞者  
問合せ：ピティナ京都支部(TEL075-492-6553/花谷)  
詳細は [www.piano.or.jp/concert/hon/keizoku/](http://www.piano.or.jp/concert/hon/keizoku/)へ

## 新規ステーション、5箇所誕生

6月末、ステップ担当者連絡会にて新たに5箇所のステーションが承認された。所沢ウイングステーション(埼玉県所沢市)、渋谷MOGステーション(東京都渋谷区)、

大府ステーション(愛知県大府市)、宝塚すみれステーション(兵庫県西宮市)、伊予しおさいステーション(愛媛県伊予市)。ステーション代表者のメッセージ等の詳細は、p.51を参照

### レポート

## 根津栄子先生講座(船橋支部)

4月21日(土)伊藤楽器 YAMAHA ピアノシティ船橋にて根津栄子先生の「楽しみながらの子育ての秘訣!!



～5年10年先を見据えて～という講座が開催されました。根津栄子先生は、ショパンコンクールファイナリストでピティナでもご活躍の根津理恵子さんのお母様で、また門下生の皆さんは多くのコンクールで上位入賞されているらしいです。そのような先生ご自身の子育てを通しての工夫の数々をご披露頂きました。

一番大切なことは、子どもを決して怒らないこと。「いやだ」と思わせたくない、とにかく「楽しい」という気持ちにさせるにはどうすればよいか、そればかりを考えて育ててきた、というお話から始まりました。乳・幼児期から中高生時期に至るまでの、家庭での生活の仕方、具体的な言葉かけ方法、練習時の工夫、ソルフェージュの方法、指の訓練法などのポイントをお話下さいました。幼少期から、レッスンで習った事はその日の内、もしくは翌日中に復習して仕上げてしまう事が大切、そして日々の練習は常にキャッチボールであり子どもの様子を見ながら「ほめる事=9」「直す事=1」という感覚で。また思春期では、本人の悩みや心配事は遠くから見守る、等々、ご自身の経験を交えながらのお話にて会場全体が惹き込まれました。

また先生はガーデニングがご趣味で、忙しい日々の時間管理にタイマーやスケジュール表を活用されているとのこと。資料の中の、理恵子さんの幼少期から東京藝大附属高受験までのご家庭での練習スケジュール表を見せて頂いた時は、会場内から感嘆のため息がもれました。「子どもが伸びないのは誰のせい？」というお話では、特に小学生のうちには毎日接する母にかかっている、と厳しいお言葉も！

講座の最後に先生がご考案されたフィットペダルの活用法を、生徒さんの演奏を交えながらお話頂き2時間があったという間に過ぎてしまいました。先生のお話の根源には、深い愛情が溢れていて、とても幸せな気持ちになりました。母として講師として大きな収穫のあった2時間でした。(Report: 羽石彩子)

## 中井正子先生講座(東京音楽教材研究会)

「ドビュッシー・プロジェクト」を組み、ドビュッシーピアノ全曲演奏会、CD録音、楽譜校訂を行っている中井正



子先生をお迎えしてのお話は、内容豊富且つ簡潔で、東音ホールを埋め尽くした多勢の先生方は熱心に聴講していました。講座内容は、「来年没後90年を迎えるドビュッシー自身は近い存在だが、これまでの楽譜は誤りが多い。ドビュッシーの様式やフランスの伝統に外れない演奏が出来るように。スタイルを残したい」と校訂された実用版楽譜を使用しての、全6曲の分析、演奏でした。音楽家・父親として・上流階級のサロン・当時の流行は英国風・等の話を織り交ぜながら、いろいろな音階の組み合わせ、モチーフの発展・変化、形式の無い形式、曲中のスペイン・アメリカ的部分など1曲ずつの特徴を明確にして頂きました。他にも、

◎響きの微妙な変化を集中して聴き取り、弾き表せる事に重点を置き、そこに楽しみを見出す。

◎ソルフェージュ能力が大変重要で、小さい時から正確に読み取り、理解し、演奏に結びつけるという教育をしっかりと生徒にしてほしい。

と話され、ドビュッシーが描いた音を忠実に再現した多様な弾き分け、ハーフペダル・ハーフタッチの響きの違いを聴かせて下さいました。最後に、「なんてきれいな音！！という音を ふんだんに使って下さい。」との中井先生の言葉は魂に響き、充実した2時間の講座は締めくくられました。(Report: 坪田暁子)

## 江崎光世先生講座(小山ステーション)

5月12日(土) 小山市立生涯学習センター(ロブレ6F)において、江崎光世先生のピアノ連弾指導法講座が行わ



れました。当日は、「音楽性を育てるための、ピアノ連弾からのアプローチ」というサブタイトルの通り、アンサンブルにおいて 経験・学習した事をソロの演奏に移行することが、いかに合理的な学習方法であるかというお話から始まりました。音楽を楽しむことを知った子供は、いやな練習も我慢できるし、みんなで楽しく演奏しているうちに、いろいろなことが知らず知らずのうちに身につけてしまう・・・アンサンブルには、そんな魅力があるそうです。「アンサンブルが育てるソロへの効用」として、江崎先生は大きく3つのポイントを挙げていました。

1. 表情ある演奏のための呼吸法
2. 美しい響きを作るためのバランステクニック
3. 説得力のある演奏のための楽曲の構成法

それらのお話の中で、特に印象に残ったのは『いい音楽かどうかききわける事のできる耳を育てる』ということです。どのくらいの強さで弾けばいいか、バランスをとるのも、必ず耳で聴かなければならないし、4本の手の役割を考え、美しい響きになっているかどうか聴くのも耳です。お話の後、実際にコンペティションの課題曲をつかって、レッスンして頂きましたがその中でも、先生は、どんな音をだすのが美しいか、実際にやってみて判断させる場面が何度もありました。「1度でわからなかったら、わかるまで何度でも弾いてみる』『それでもダメなら録音して聴いてみる』と

にかく、自分の耳で聴いて判断できなければいい音楽は作れない」「だからこそ、それをききわける耳を育てることが大切だ」と、2時間の講座を通して、痛感しました。

子供に限らず、誰でも、できれば苦勞したくはありません。つらい練習を積み重ねるより、楽しんでいっているうちに上手になってしまったら・・・そんなうれしいことはありません。連弾を通して、そんな魔法が使える指導者になれたらいいな、いや、なれるようにもっと連弾のことを勉強しようと、とても前向きな気持ちになった講座でした。

(Report: 篠田尚子)

## 松田紗依先生講座(京都支部)

5月13日(日)、ばるるプラザ京都にて、京都支部会員、松田紗依先生による講座「ロシアンピアノ奏法に基づく合理的な練習方法」が開催されました。練習曲、コンペ・ステップ課題曲、自作曲によるテキスト等から「つまずき」が起きやすい箇所を抜粋し、解決策をご説明いただきました。

まず手指の構造からお話が始まり、姿勢の大切さ、ひじ・手の角度や打鍵位置、目の使い方・軸の使い方・神経・骨のイメージなど、奏法に合わせて詳細に教えていただきました。また、「おばけの手」「シフォンケーキ」「バターの中の手」など、先生は様々なイメージの引き出しをお持ちで、その場に応じてサッと取り出して役立てるのは見事でした。時には物理の実験?やスケッチブックも登場!あらゆる事にピアノを弾くためのヒントが隠れている、と気

付かされます。「鍵盤と指をなかよくさせて・・・」とリラックスした雰囲気の中、実際その場で指導を受けた聴講者も、先生



のアドバイスで音が変わる、弾きやすくなることに納得された様子。アンケートでも「詳しくわかりやすかった」という感想が多数寄せられました。魅力あるリズムカルなお話で、109名の聴講者(遠方は富山・埼玉からも)を惹きこみ、充実した2時間の講座は終了、その後の質問にも丁寧に答えられました。真のテクニックは、豊かな心、感性の上に築いていくもの。指導者として目先の結果だけにとらわれず、音楽を奏でるといふことの原点をいつも忘れずに技術指導にあたりたい、と再認識した一日でした。今度は導入期の指導など、テーマを絞った講座でもお話を伺いたいです。(Report: 今村葉子)

# PTNANEWS

ピティナ会員ニュース 2007.5-2007.7

## 映画「私のちいさなピアニスト」 ピティナ特別試写会

ピティナ関係者をご招待! 昨今の"ピアノ"映画ブームの中でも、本作品は、"ピアノ教師"が主人公。時に泣き、時に笑いながら共感できる心温まるストーリー。ピアノ指導者・学習者必見!

○8月19日(日)13時開演(12時半開場)

明治安田生命ホール(新宿)

○申込は、ピティナHPへ

(先着ペア250組、入場無料、要予約)

○協力: シネカノン [www.mylittlepianist.com/](http://www.mylittlepianist.com/)

〈映画情報〉映画「私のちいさなピアニスト」

夏休みロードショー

・シネカノン有楽町ほか全国

・特別鑑賞券=料金¥1,500(税込)

(当日料金: 一般¥1,800)

※ピティナ会員向けに一般料金より200円引の割引券あり。

教室にてご利用ください。ご希望の方は([mypiano@cqn.co.jp](mailto:mypiano@cqn.co.jp) シネカノン)までお問合せください。



## ヴァルセシア国際音楽コンクール・ジュニア部門にて、 3名入賞



6月2日・3日に行われたヴァルセシア国際音楽コンクール・ジュニア部門にて、小塩真愛さん、山本恵利花さん、保屋野美和さんの3名が上位入賞した。(同コンクールは99年まで「ヴィオッティ・ヴァルセシアコンクール」の名で運営されていた)。3名はコンクールに先立ち、G. マルツィアーリ音楽院にて黒田亜樹先生(正会員)によるマスターコースにも参加。

今回3人が参加したのは年齢ごとにカテゴリーが分かれているジュニア部門。イタリアでも数少ないジュニアの国際コンクールということで、イタリアはもとよりロシア、オーストリア、チェコ、中国など多国籍の参加者が集まった。3名の結果は以下の通り(Dカテゴリー: 16歳以下、Eカテゴリー: 19歳以下、Fカテゴリー: 23歳以下)

- ・小塩真愛さん(06F級ベスト11賞): Dカテゴリー第2位
- ・山本恵利花さん(99C級銅賞): Eカテゴリー第2位
- ・保屋野美和さん(06特級銅賞): Fカテゴリー第1位

また6月5日にはミラノ室内楽愛好会主催による受賞コンサートに出演し、盛りだくさんのプログラムで聴衆を魅了した。(レポート: ピティナ静岡支部 三浦かおり)

## ロシアの青少年国際コンクールで、 段あいかさん優勝

6月1日~8日ロシア・サンクトペテルブルグで行われた、青少年のための国際ピアノコンクール「巨匠への一步(A STEP TOWARDS MASTERY)」にて、段あいかさん(11才、金子勝子先生に師事)が優勝した。

段さんが参加したのは11歳以下のカテゴリーA。1

次予選では、バッハ：平均律1巻13番、シューベルト：即興曲Op.142-3、二次予選はショパン：エチュードOp.10-2、モーツァルト：キラキラ星変奏曲KV300e、古寺ななえ：「さざ波の記憶」を演奏。弾き終わった後にカーテンコールが出るほど聴衆の支持も得て、ともに1位通過を果たした。本選ではモーツァルト協奏曲第12番K.414を熱演。アジア人では唯一のファイナリストとなったが、その伸びやかな演奏と個性が高く評価されての優勝となった。

段さんは今年2月チェコで開かれた第14回 AMADEUS 若いピアニストのためのモーツァルトピアノコンクールでもグランプリに輝き、海外での活躍が続いている。

## 伊賀あゆみさん、橋本直子さんが静岡音楽館AOI「ピアノ伴奏法講座」に参加

静岡音楽館AOIで開講される「ピアノ伴奏法講座」に当協会会員の伊賀あゆみさん、橋本直子さんが受講生として参加することが決まった。受講生は、全国各地より応募があった26名のピアニストから、テープ審査を経て決定された。

静岡音楽館AOI「ピアノ伴奏法講座」は音楽監督をつとめる野平一郎先生が講師をつとめるとともに、一流の器楽奏者等も講師として参加、ピアニストが幅広い音楽体験と教養を培うことで、アンサンブル能力の向上を目指している。講座は全10回で、2007年6月から2008年2月までの長期に渡って開催される。聴講生も随時募集している。

# 北から南から

## 会報 265 号感想より

### ■特集 1-1 課題曲アドバイス

- ・課題曲を普段のレッスンで教材として扱う際の参考にもなりました。6月にご縁あって、ギャラリーで生徒とともにミニコンサートを行うことになりました。初の試みでもあり、ホールではない場所での演奏、トークも少し入れるため、学校クラスコンサートなどの過去記事がとても参考になります。展示物との調和の取れたコンサートができればと考えております。(愛知県海部郡・中塚三貴子先生)
- ・課題曲の楽曲分析はもちろんですが、バロック演奏における5つのキーポイントは大変参考になりました。(鹿児島県鹿屋市・春山寿子先生)
- ・コンペ前、課題曲アドバイスはとても参考になります。夏のコンクールシーズンに向けて、レッスン室の雰囲気も次第に引き締まってきました。札幌にはイサム・ノグチがデザインした「モエレ沼公園」があり、園内の「ガラスのピラミッド」の中にピアノを購入し、6月にコンサートを開きます。(北海道札幌市・國陶千賀子先生)

### ■特集 1-2:コンペ直前レッスンマネジメント

- ・私が子どもの頃はただ厳しくきっちりレッスンする先生が多かったように思いますが、今の時代は街のピアノ教師も工夫して、音楽の楽しさ、素晴らしさを教えている先生方がとても多いことに感動しています。私ももっと勉強して見習って、ピアノの素晴らしさを伝えていけたらと思います。(神奈川県横浜市・鈴木光子先生)
- ・「こんな細かいところまでフォローしているんだ」と参考になりました。(群馬県富岡市・田村優子先生)
- ・とても興味深い内容で、楽しく読ませて頂きました。また生徒のコミュニケーションの取り方(ご父兄とも)、やる気にさせるアプローチ等、今以上に様々な事例を挙げて欲しいです。(栃木県芳賀郡・上野貴広先生)

### ■連載・その他

- ・「今、学校がコンサートホール」は、この企画により、子ども達が生活の場で真剣な音楽に出会い、触れる機会がより身近に続いていかれると良いとおもいますし、ぜひ楽しませてあげて頂きたいと思います。(千葉県船橋市・飯尾聡子先生)

## 献本

## BOOKS & CD

ご献呈ありがとうございます。



### ドレミを選んだ日本人

- ◎千葉優子
- ◎音楽之友社
- ◎¥2625



### ピアノはなぜ黒いのか?

- ◎斎藤信哉
- ◎幻冬舎
- ◎¥861



### スウェーデンのFMT 脳機能回復促進音楽療法

- ◎加勢園子
- ◎春秋社
- ◎¥2800 (税別)



### 目から耳から

- ◎阿部武彦
- ◎ヒノキ新薬株式会社



ポピュラー  
おすすめ楽譜



**ピアノスタイル あきない! ハノン**  
ジャズ、ポップスを弾くための☆  
ピアノトレーニング集

■宮前幸弘著 / リットーミュージック  
1,313円 (本体 1,250円 + 税)

次々とハノンのポピュラー版が出版される中、特におすすめのシリーズ。テクニックを楽しく磨きつつ、「コード」や「スケール」の感覚も自然と身につく充実の一冊です。



**ピアノスタイル あきない!**  
**ハノン2**  
ジャズ、ポップスを弾くための☆  
ピアノトレーニング集 応用編(CD付)

■宮前幸弘著 / リットーミュージック  
1,575円 (本体 1,500円 + 税)

「あきない! ハノン」の続編はCD付き。ポピュラー特有の「コード感」「リズム感」を楽しく習得でき、移調のトレーニングにもなります。

提供: さどはら知子先生

### 訂正とお詫び

※ Our Music265号に下記の訂正、掲載漏れがございました。心よりお詫び申し上げます。

- p28 特集 1D級シューベルト◎楽興の時 Op.94-3  
3行目誤) [左手の「音」の厳選から]⇒正) [左手の「音」の源泉から]
- p85 ビティピアノステップ事業告知 松江ステーション  
代表者名 ×松江 透 →○井上 透  
文章中 ×井上楽器店 →○井上楽器店

中山靖子先生・著書出版プレ記念インタビュー vol.2

## 研究の集大成をまとめて 現代に伝える正統派ピアノ音楽

ピティナの副会長である中山靖子先生が、そのお仕事の集大成として著書を発表する運びとなりました。先生プロデュースの演奏会シリーズ「伝統と様式の研究」と連動して発行された「中山靖子の勉強帳」のエキスポ部分を、主に中級レベルの指導者の方々へわかりやすくご紹介するものです。(「中山靖子のピアノの本 ～現代に伝えるギーゼキング直系の正統派ピアノ音楽～」(仮題))

この編集を担当して頂いているピティナ正会員の砂原悟先生、金井玲子先生から中山先生にインタビューして頂きました。(前号に引き続き)

——先生は東京音楽学校(現東京藝大)在学中に(レオニード・)クロイツァー、そして昭和27年にご主人の中山悌一先生(声楽家)と共にドイツに赴かれ、ミュンヘン国立音大で(エリック・)テーンベルク、さらには(ワルター・)ギーゼキングの教えを受けられたのですね。

**中山** はい、その他ザルツブルクの夏季講習でヴィンフリート・ヴォルフという方に、また留学の最後の時期に少しプライベートで習ったのがヴォルフガング・ルーオフ、この方はリート伴奏をよくなさいました。

それぞれ個性も教授法も異なりましたが、やはり共通して教えて下さった事は音楽の伝統に根ざした根本



▲テーンベルク教授と

の部分大切にする、という事、それ以外は先生の特性や好みでおっしゃる内容もヴァリエティがありました。例えばクロイツァーは音階のはじめの部分をちょっとルバートする、という癖がありました。他の先

生方はそういう事は好まなかったようです。またミュンヘンで、テーンベルクが音校の新生へ



▲ザールブリュッケン音大のレッスン室で。周りの6人は聴講しているピアニストたち

のレッスンしているのを見学した時に、ファル(fall)とフィクス(fix)という事を説明していました。ファルは、音の群をひとまとまりにして手首の落ちる動きを利用すること、またフィクスはひじから先を固めるようにして弾く、その2つの区別を練習するために、バッハのインヴェンション第8番を使っていたようです。

テーンベルクは当事まだ40代で中堅のピアニストとしても活躍していました。いかにもドイツ人の男性らしい重厚な力強いタッチの線で音楽を描いていましたが、その素にあるのはやはり音楽を表現するという気持でしたから、上記のようなメカニックな事を生徒に言う場合でも、それがいかに音楽的に美しいのか、という事を生徒の心と感覚に実感させるようにしていたのです。

——ギーゼキングはよくノイエ・ザハリヒカイト(新即物主義)という言葉で説明されるのですが、実際に親し



▶▲中山先生の手書きの資料。これをもとに著書がつくられていく。



く教えを受けられた先生から見て、どのようなタッチをなさっていましたか？

**中山** そう、よくその言葉で説明されていて、それが多くの場合誤解を伴ってしまうのですが、即物主義という言葉のイメージから、味も素っ気も無い演奏か、と早合点してしまう方もいるのは残念です。楽譜に忠実に、という姿勢は決して紙の上を書いてあることだけを演奏する訳ではなく、その楽譜の中味まで読み取って音楽を表現するのです。その際余分な装飾、あるいは自分勝手なジェスチャーなどを付け加える事は避けるべきでしょう。

ギーゼキングのタッチの基本というのはやはり演奏前に身体の余分な緊張を解いて、弾く瞬間には指や腕の重みを充分に利用する事、まったく自然な法則に則ったもの



▲金井玲子先生(左)と砂原悟先生(右)のインタビューを受ける中山先生。

です。今はCDなどでも彼のすばらしい演奏を聴くことが出来ますが、残念ながらそのすばらしいタッチから生み出される豊穡な音、というものはCDではなかなか表現し切れない部分があってそれは残念です。彼の「沈める寺」(ドビュッシー)のあのフォルテと言ったら、それこそ全体重をかけて圧倒的な迫力で迫って来るものがあります、一度聴いたらちょっと忘れる事はできません。

奏法の中でもタッチの説明は難しいですね。それぞれの体格も違いますし、いくら言葉を尽くしても最終的には耳と心で感じて頂かなければ判りません。実際にタッチする瞬間だけでなく、その前後の事もなるべく噛み砕いてご説明するつもりではありますが、この本を書籍として読み下すのではなく、ぜひピアノの側に置いて実際にご自分のからだ、指、耳、心で体験しながら内容を実感して頂ければ幸いです。



▲1947年(昭22)日比谷でクロイツァー先生指揮、N響チャイコフスキーコンサート。  
▶「ぼんやの魂」(中山靖子著)数々の写真はこの著書から



関連エリアイベントミニコンサート

# ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 「熱狂の日」音楽祭2007

ゴールデンウィークの5/3～5/6、丸の内周辺エリアのビル全5会場で開催されたラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン関連ミニコンサートは、各会場で大盛況のうち終了した。ピアノ、管楽、弦楽、そしてテーマの“民族のハーモニー”にあわせて、30分ずつ約40のコンサートが代わる代わる行われた。多種多様な作曲家の音楽が流れ出すと、休暇を楽しむ人々は次々と足を止めて聴き入った。

日程：2007/5/3～5/6 会場：丸ビル35階/丸ビルマルキューブ/新東京ビル1階丸の内カフェ前/国際ビルエントランス/丸の内オアゾ〇〇広場



▲総勢80名のアーティストが共演



▲グランミュージズ入賞者も腕をふるう



▶ビルのエントランスでのパフォーマンスに人々が立ち止まる



◀ユニークな楽器紹介などのトークも



◀陽気と熱気でリベルタンゴもヒートアップ



▲目の前で聴ける機会にうっとりで見入る



◀17人の弦楽セレナードも聴きごたえ充分



入場制限がかかるほどの満員の聴衆▶

## 出演アーティスト

【ピアノ】伊賀あゆみ・泉ゆりの・大神香澄・久保はるな・黒田亜樹・佐藤展子・杉谷昭子・関春絵・田中克己・中井恒仁&武田美和子・久元祐子・村田有希  
 ビティナ・グランミュージズ入賞者32組

【管楽器・弦楽器】在原亮師(Vc)、伊沼綾乃(Cl)、井上直哉(Fg)、越後なつみ(va)、大成雅志(Cl)、大森啓史(Hr)、小野恵美(Vc)、小泉悠(Vn)、斎藤光晴(FI)、斎藤雄介(Hr)、竹山愛(FI)、都筑のどか(Hr)、外岡誠二(Fg)、中川和歌子(vn)、廣瀬心香(vn)、藤井泉(vc)、宮崎亜希(Ob)、最上峰行(Ob)、柳澤智之(Cb)、米納真妃子(Va)、李文佳(Vn)、クラリネット五重奏PETIT PAVILLON 他

## 春のステップ・レポート

# 分析力&演奏力を磨く アナリーゼステップ

「アナリーゼしたことを演奏に反映できるようにしたいです」——演奏の前にこんな、ちょっと耳慣れないコメントが聞かれた、5月5日尚美学園バリオホール(東京都文京区)で開催されたステップ。ステップ初の試みの「アナリーゼステップ」です。



「アナリーゼステップ」とは、①参加者が曲をアナリーゼ(分析)し、②書き込みをした楽譜を事前に添削してもらい、③それに基づいた演奏に対してアドバイスいただくという画期的な企画が盛り込まれたステップ。アドバイザーには、

秋山徹也先生、江崎光世先生、松崎伶子先生をお迎えしました。

初夏の陽射しもまぶしいゴールデンウィーク終盤の一日。コンペティションのリハーサルとしてフレッシュな演奏を披露した参加者から、年輪を刻んだ“熱い演奏”で聴衆を魅了した参加者まで、皆さんが周到な準備を経てバラエティー豊かなステージを盛り上げていました。

第4部と第6部の終了後、アナリーゼに関するオプション企画は、「アナリーゼにどのような利点があるか」「どのようにアナリーゼをすればよいのか」の二つのテーマ(各10分)で行われました。参加者のアナリーゼ楽譜をステージ上のスクリーンに映し出しながら、講師の秋山先生、参加者本人、客席の皆さんが全員で確認できる、またとない機会となりました。

曲を自作のストーリーになぞらえたもの、管楽器が絡み合うバンドの楽譜に見立てたもの、フーガの分析に独自の



用語法を織り込んだもの…まで、11人の多種多様な書き込みがスクリーン上に披露されました。



秋山先生はまず、「よい演奏をするためには、分析を通じて、その曲にふさわしい表現が何かを見つけ、その基本を一生懸命覚えること」と強調されました。

さらに、「それらの基本を組み合わせ、想像した響きに近づくように努力しながら、自分なりの表現、時には破格な表現も模索していきましょう」と説明されました。「その過程で、練習の方法、譜読みのスピードも確実にレベルアップします」さらに、秋山先生はソルフェージュの重要性を改めて訴えて話をしめくりました。「皆さんが家に持ち帰った、びっしり書き込みのあるアナリーゼ楽譜は、熱い夏に向かいそれぞれの演奏に一層磨きをかけているでしょう」



## アナリーゼステップの様子をビデオで公開中!

秋山徹也先生によるアナリーゼのレクチャーもご覧いただけます。

👉 [http://www.piano.or.jp/blog/stepnews/2007/05/post\\_39.html](http://www.piano.or.jp/blog/stepnews/2007/05/post_39.html)



## エリーザベト王妃国際コンクールピアノ部門レポート

# プロフェッショナルな 人材求める最難関の舞台



### 世界最高峰のコンクール

5月10日～22日、ベルギーの首都ブリュッセルで開催されたエリーザベト王妃国際コンクールピアノ部門の1次予選の一部とセミファイナル全演奏を視察した。世界最大の規模を誇るこのコンクールは、1937年のイザイ・コンクールに端を発し、現在はピアノ部門(4年に1度)の他、ヴァイオリン・歌唱・作曲が実施されている。

このコンクールの課題の大きな特徴として、(1) 夥しい数の曲を用意すること(エチュードだけでも、ショパン・リスト・ドビュッシー各1曲に加え、ラフマニノフやスクリャービンなどのグループから1曲、バルトークやリゲティのグループから1曲の計5曲)、(2) 用意した曲の全てを弾くわけではないということ(前日に審査員が提出曲の一部を選択する)、(3) セミファイナルでモーツァルト、ファイナルで新曲と自選の2曲、計3曲のピアノ協奏曲を弾くこと、の三点が挙げられる。この三点だけでも、世界一過酷なコンクールの一つだということが理解できる。

今回から、従来の1次予選がDVD審査となり、134名の応募のうち、94名が本審査への出場を許可された。DVD審査にも加わった審査員のセシル・ウセー先生によ

ると、今回は初のDVD審査ということもあり、一見力不足に見える者や異色の芸風を持つ者も、敢えて落とさずに数多く選出したとのことだが、「結局、当初高く評価した方がセミファイナルに残ったので、DVD審査の誤差はほとんどないことが分かりました。次回以降はもう少し枠を減らすことになるのではないのでしょうか」とのことである。

### コンクール支える聴衆

1次の一部およびセミファイナルを通じて、最も印象的だったのは、ベルギーの聴衆が心からこのコンクールを支持し、1次予選から満席近い盛況で参加者の熱演に拍手を送ることである。地元ベルギーの審査員ジャン＝クロード・ヴァンデン・エイデン先生は、文化意識の高さやクラシック音楽の人気に加え、「市民の王室への憧れが、エリーザベト王妃を冠し、今もファビオラ前王妃が全面的に後見するこのコンクールに聴衆を集めている」と分析してくださった。実際、貴族階級の「パトロン」各氏が、連日会場に足を運び、コンクール後にどのアーティストを支援するかを決めようと、審査員と同様の真剣さで耳を傾けている。

### エリーザベトが求める人材

審査は、多国籍からなる15名の審査員によって行われるが、演奏内容と出された結果を総合すると、このコンクールの求めるピアニスト像が見えてくる。それは第一に「すでにプロフェッショナルであること」。この場合のプロフェッショナルとは勿論、お金を稼いでいるということではなく、成熟した人間性と広いコンサート・レパートリー、しなやかな音楽性を兼ね備えた総合的な能力の高さを意味する。だから、会話してみると、このコンクールのファイ



▲1次～セミファイナル会場の王立音楽院。写真の建物のさらに右側に入口があり、当日券を求める行列ができる。

ナリストは皆、「社会人」としての社交性をすでに持ち、誰にでも「大人」の対応をすることができる。これは、時に驚くほど若い参加者が集まり、同じ能力ならば年齢が低いほど有利とさえ思われる昨今のコンクール業界では特異である。

その点、たとえばウクライナの Vadym KHOLODENKO (20歳) は、透明感のある美しい音と的確な理解、気品のある音楽性で聴衆から高い評価を得、筆者も深い感銘を受けたが(ゆえにわざわざ名前を挙げている)、ベートーヴェン・ショパン・ラフマニノフなどの大曲を用意せず、ファイナル

にラヴェルの左手の協奏曲を提出するなど、一面で「奇を衒った」と見られても仕方のない未熟さを露呈したために、確実視されたファイナルの選に漏れたのではないかと考えられる。

## 適切なコンクール選択を

今回の視察の最大の収穫は、国際コンクールと一口に言っても、このように様々なタイプのコンクールがあるということ。そして、どのコンクールを今生徒に受けさせるべきかは、特に未熟な年若い生徒の場合には、指導者がともに考え、慎重に選ばなければならない、ということだった。コンクールの規模、課題曲、求められる能力、審査員、開催地の環境…、様々な要因により、コンクールの結果というのはいかようにも変化する。適切なコンクール、適切



▲日本人唯一のファイナリスト河村尚子さん。最後に、ピティナでも



▲ファイナリスト発表後、ファビオラ前王妃(左端)に声をかけられる参加者たち。左から4人目が1位の Anna VINNITSKAYA、右端から、2位の Plamena MANGOVA、3位の Francesco PIEMONTESE、4位の Ilya RASHKOVSKY。

2005年に招聘した今回の審査員リー・カムシン先生の言葉を紹介し、レポートの結びとしたい。「我々はどうしても何度も繰り返し同じ曲を弾くことになる、そんな時に大事にしないでならないのが、その曲と初めて向き合った時のことです。初対面の新鮮さや謙虚な気持ちをどうぞ忘れないでください。これは人生そのものにおいても「原点」となるものだ確信致します。そうすれば、作曲家が譜面に書き遺した遺産と精神を大事に演奏することができると思います。」

### エリーザベト王妃国際コンクールレポートをピティナホームページに掲載中

👉 <http://www.piano.or.jp/blog/elisabeth/>

※ 今回の取材でお世話になったブリュッセル在住の音楽ジャーナリスト恒川洋子氏によるレポートが、月刊「ショパン」8月号に掲載されます。ぜひご覧ください。

### 国際コンクール感覚を日本で！ ピティナ・ピアノコンペティション特級ファイナル 前売チケット予約受付中

◎ 2007年8月26日(日) 第一生命ホール  
ソロ(リサイタル形式): 10時30分開演  
協奏曲(オーケストラ伴奏): 18時30分開演

国際コンクールの登竜門を標榜するピティナ特級ファイナル。国際コンクールさながらの緊迫感に満ちた雰囲気を感じ、審査員と同様に悩んで聴衆賞に投票し、若き才能が羽ばたく瞬間に大きな拍手をお送りください。

☞ 詳細は次ページ告知へ



## 地域に応援されるピアニスト

プロのスポーツが盛んなのは、プロの美技を観戦することに観客の「応援」が加わるからだろう。応援する気持ちは、オリンピックなど国際大会ではナショナリズムがベースとなるが、国内の大会では「地域」への意識が支えとなっている。夏の高校野球は、地元や故郷の学校を応援することで盛り上がるし、Jリーグでは、サポーターがサッカースタジアムに集まって応援し、地元のチームを奮い立たせて勝利に導く原動力となる。

クラシック音楽の業界に目を移すと、主要な都市のオーケストラには地元の企業が資金を援助しているが、ソリストへの応援は地域性が無いファンクラブという枠組みでなされることが多い。この先、プロのピアニストがさらに活躍するためには、地域の住民が鍵になるのではないかと考えている。

まず、地元の住民にピアニストの存在を知っていただくなくてはならない。例えるなら、地元のスーパーなど街中の至る所で通りすがりの人々と挨拶し合えるくらいに、徹底して地域との関係を作ることである。日ごろクラシック音楽のコンサートに足を運ばない方々も、直接知っている身近なピアニストが出演するなら喜んで聴きに行くだろう。特級グランプリの受賞者に、地元の小学校でクラスコンサートを実施していただくことは、地元での知名度アップという目的を兼ねているのである。

地元でのコンサートを満席にする力が持てたら、他の地域の奏者を呼んでアンサンブルをすれば、お返しに共演者のホームタウンから出演依頼が入るかもしれない。さらに集客力が高まれば、オーケストラとのコンチェルトの共演へと発展していくだろう。特定の地域で育ったソリストが全国区のコンサートに出演するときには、ソリストの名前に加えて、地域名や活動拠点となっているホール名が付記されるようになって欲しいものである。ここまでくれば、地元の住民の盛り上がりはもちろん、市長なども行政を挙げてピアニストを応援してくれるだろう。

「地域に応援されるピアニスト(音楽家)」が増えることで、クラシック音楽は、輸入されたヨーロッパ文化から、日本の文化へと定着していくはずである。

# 素 感 直 論

## 会員の特典

|             |   |
|-------------|---|
| 正会員         | 音楽教育に特に功績があり、当協会に賛同し活動して頂く方。協会運営にも参加                  |
| 指導者会員       | ピアノ指導をされている方であればどなたでも                                 |
| 学生会員        | ピアノを学習されている中・高・大学生の方。特に将来音大進学を目指される方、ピアノ指導について学びたい音大生 |
| 支持会員        | ピアノを学習している小学生以下の保護者の方。音楽及びピアノ愛好者の方                    |
| グランミュージック会員 | 16歳以上のピアノが好きな方  |

## 入会金・会費

|                 |                           |
|-----------------|---------------------------|
| 正会員             | 入会金 10,000円 / 年会費 12,000円 |
| 指導者会員・学生会員・支持会員 | 入会金 3,000円 / 年会費 6,000円   |
| グランミュージック会員     | 入会金 1,000円 / 年会費 3,600円   |

## お申込・お問い合わせ

下記あてにお電話・FAX・電子メールなどで入会申込書をご請求下さい。

社団法人 全日本ピアノ指導者協会 本部事務局 会員担当宛  
〒170-8458 東京都豊島区巢鴨 1-15-1  
Tel.03-3944-1583 Fax.03-3944-8838  
e-mail:member @ piano.or.jp

## 新入会会員ご芳名

<正会員> 15名(1,408名)  
梅原 圭(静岡県伊東市)、蛭多 令子(埼玉県さいたま市)、  
吉良 千波(熊本県鹿本郡)、楠原 祥子(千葉県千葉市)、  
高良 芳枝(東京都中野区)、小島 康史(東京都世田谷区)、  
小林 光裕(東京都国立市)、杉崎 幸恵(東京都練馬区)、  
谷脇 裕子(熊本県熊本市)、田邨 尚子(京都府京都市)、  
松岡 貴史(徳島県徳島市)、三木 康子(奈良県奈良市)、  
吉田 秀晃(熊本県熊本市)、若尾 佳代(東京都小金井市)、  
和田 美紀(茨城県つくば市)

<一般会員> 374名(10,216名)  
◎総会員数 11,624名(2007/6/30現在)

## 会員をご紹介下さい

<正会員>優秀な人材をぜひ正会員にご推薦下さい。  
1)「正会員推薦書」を左記会員あてにご請求  
2)推薦者2名(当協会正会員を2年以上務められた方)  
から推薦署名  
3)当協会本部へ郵送⇒理事会・運営委員会にて審査  
<一般会員>どなたでもご入会可能です。随時受付中。

## ■ 社団法人全日本ピアノ指導者協会 賛助会員御芳名

ヤマハ株式会社、株式会社河合楽器製作所  
東日本旅客鉄道株式会社、ローランド株式会社  
株式会社全音楽譜出版社、学校法人東京音楽大学  
株式会社パイロット

株式会社音楽之友社  
株式会社丸一ピアノハーブ社  
株式会社松尾楽器商会  
株式会社日本ベゼンドルフアー  
スタインウェイ・ジャパン株式会社  
株式会社松澤書店  
学校法人国立音楽大学  
株式会社JEUGIA

学校法人洗足学園  
学校法人東京聖徳学園  
学校法人東邦音楽大学  
株式会社コミュニケーションズアレグロ  
株式会社アコースティックエンジニアリング  
株式会社カナオカ工芸  
株式会社ソナレ・音大学生倶楽部  
サイバーミュージック株式会社

## ■ ビティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会

後援：文部科学省・東京都・読売新聞東京本社  
協力：ヤマハ株式会社・株式会社河合楽器製作所・  
東日本旅客鉄道株式会社

ヒノキ新築株式会社  
学校法人洗足学園  
学校法人東京聖徳学園  
株式会社ミキモト  
株式会社ソナレ・音大学生倶楽部

全日本空輪株式会社  
株式会社王子ホール  
株式会社ロイズコンフェクト  
東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団

ビティナ会報 / わたくしたちの音楽

**「Our Music」266号**

2007年7月31日発行 / 定価850円

会 長 羽田 孜  
発 行人 福田 成康  
事務局 永田 夏樹  
デザイン協力 伊藤 ちあき  
発 行 社団法人全日本ピアノ指導者協会  
〒170-8458  
東京都豊島区巢鴨 1-15-1  
TEL:03-3944-1583  
FAX:03-3944-8838  
e-mail: ourmusic@piano.or.jp  
http://www.piano.or.jp  
印刷所 大日本印刷株式会社